茨城県教育財団文化財調査報告第471集

つくばみらい市

大　堀　遺　跡

つくばみらい福岡地区土地造成
事業地内埋蔵文化財調査報告書

令和６年１月

茨　城　県　企　業　局
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第471集

つくばみらい市

大堀（おおほり）遺跡

つくばみらい福岡地区土地造成
事業地内埋蔵文化財調査報告書

令和６年１月

茨城県企業局
公益財団法人茨城県教育財団

序

公益財団法人茨城県教育財団は、国や県など各事業者からの委託を受けて埋蔵文化財の調査と整理作業を実施する組織として、昭和52年に調査課を設置して以来、数多くの遺跡の調査を実施し、その成果として調査報告書を刊行してきました。

この度、茨城県企業局によるつくばみらい福岡地区土地造成事業に伴って実施した、つくばみらい市大堀遺跡の調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査によって、縄文時代中期の竪穴建物跡や貯蔵穴とみられる土坑群などが確認でき、つくばみらい市福岡地区における当該時代の様相の一端が明らかになりました。

本書が、歴史研究の学術資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上のための資料として、広く活用いただければ幸いです。

最後になりますが、調査から本書の刊行に至るまで、多大な御協力を賜りました委託者であります茨城県企業局・公益財団法人茨城県開発公社に対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、つくばみらい市教育委員会をはじめ、御指導、御協力をいただきました関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

令和６年１月

公益財団法人茨城県教育財団

理事長　川股圭之

例　　言

1　本書は、公益財団法人茨城県開発公社の委託により、公益財団法人茨城県教育財団が令和３年度に調査を実施した、茨城県つくばみらい市大字南字大堀 1989 － 1 ほかに所在する大堀遺跡（おおほりいせき）の調査報告書である。

2　調査期間と整理期間は以下のとおりである。

　調査　令和３年７月１日～８月 31 日

　整理　令和５年９月１日～ 11 月 30 日

3　調査は、調査課長酒井雄一のもと、首席調査員兼班長塙厚宜、首席調査員坂本勝彦、調査員森敏彰が担当した。

4　整理と本書の執筆・編集は、整理課長本橋弘巳のもと、嘱託調査員池田晃一が担当した。

5　当遺跡の出土遺物と実測図・写真などは、茨城県埋蔵文化財センターで保管している。

凡　　例

1　当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し、X＝＋1,760 m、Y＝＋18,280 mの交点を基準点（A 1 a1）とした。なお、この原点は、世界測地系（測地成果 2011）による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々 40 m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々 10 等分し、4 m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C…、西から東へ１、２、３…とし、「A 1 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へ a、b、c…j、西から東へ 1、2、3…0 と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1 区」のように呼称した。

2　実測図、一覧表などで使用した記号は、次のとおりである。

遺構　　PG －ピット群　SD －溝跡　SK －土坑　SI －竪穴建物跡　SX －不明遺構

土層　　K －撹乱

3　遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は 400 分の１、各遺構の実測図は、原則として 60 分の１の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は、原則として３分の１の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

焼土・赤彩・朱墨　　炉・火床面・黒色処理・繊維土器断面

竈部材・粘土範囲・被熱　　黒色帯・煤・ガラス化・黒斑　　須恵器断面

●　土器　　○　土製品　　□　石器・石製品　　－ - － -　硬化面

4　土層解説と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著　日本色研事業株式会社）を使用した。また、土層解説中の含有物の量、粘性・締まりの表示は、次のとおりである。

ローム－ロームブロック　焼土－焼土ブロック　粘土－粘土ブロック

A －多量　　B －中量　　C －少量　　D －微量　　○’－極めて

サイズは「大・中・小・粒」で、炭化物については「材・物・粒」で表記した。

粘－粘性　締－締まり

A －強い　　B －普通　　C －弱い　　○’－極めて

5　遺構・遺物一覧の表記は、次のとおりである。

(1) 計測値の単位はm、cm、gで示した。なお、現存値は（　）を、推定値は［　］を付して示した。

(2) 遺物番号は遺構ごとの通し番号とし、本文、挿図、挿表、写真図版に記した番号と同一とした。

(3) 遺物一覧の備考欄は、残存率、写真図版番号とその他必要と思われる事項を記した。

6　竪穴建物の「主軸」は、炉・竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸（径）方向とともに、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例　N － 10°－ E）。

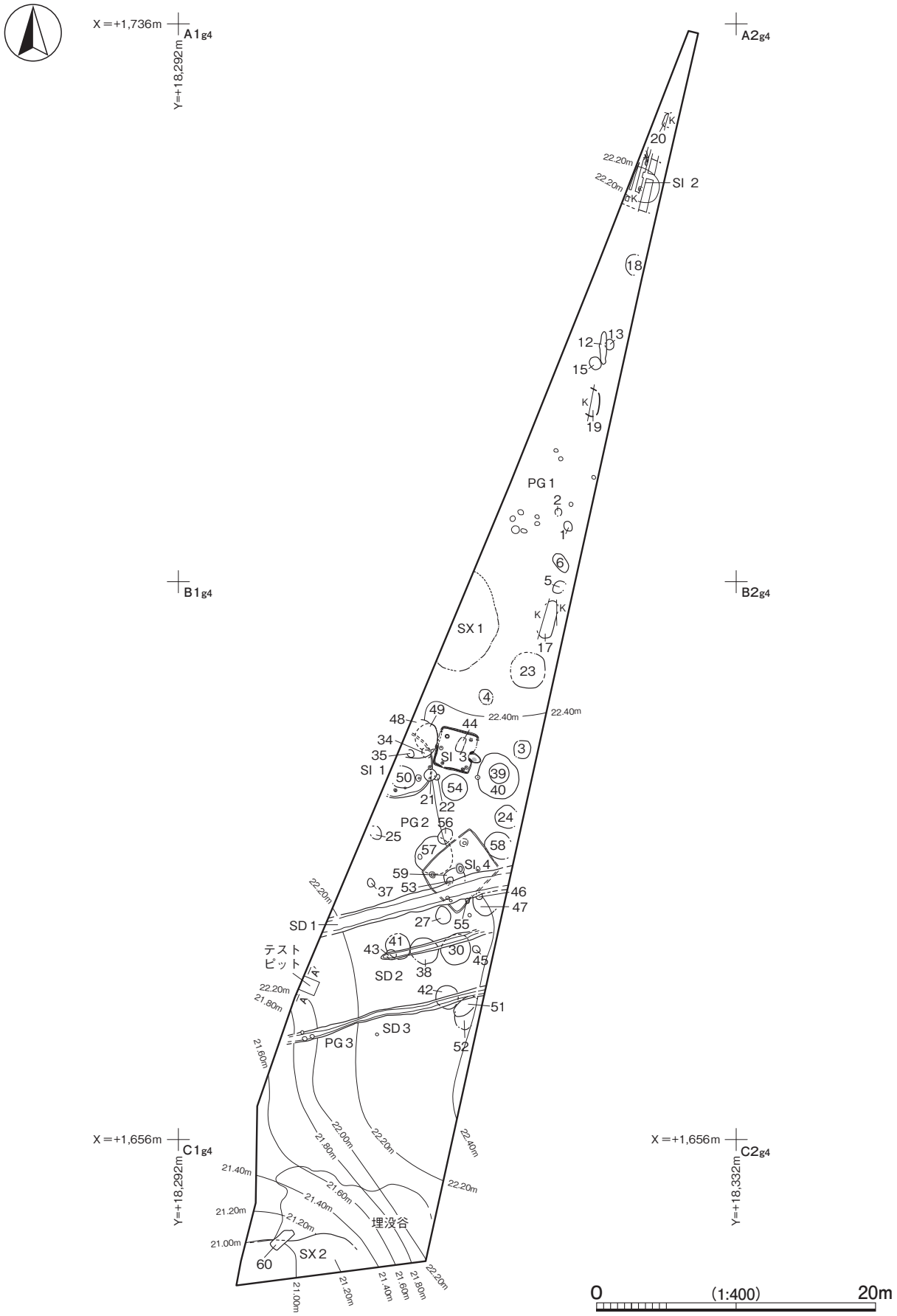
7　整理の段階で遺構名を変更したものと欠番にしたものは、以下のとおりである。

変更　SK11 → SX 1、SK28 → SX 1 － P 1、SK32 → SI 1 － P 3、SK33 → SI 1 － P 4、
SK36 → SI 1 － P 2、SD 5 → SX 2、PG 2 － P 5 ～ P 8 → PG 3 － P 1 ～ P 4

欠番　SK 7 ～ 10・14・16・26・29・31、SD 4

目　　次

序
例　言
凡　例
目　次
第１章　調査経緯 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査経過 …… 1
第２章　位置と環境 …… 2
　第１節　位置と地形 …… 2
　第２節　歴史的環境 …… 2
第３章　調査の成果 …… 6
　第１節　調査の概要 …… 6
　第２節　基本層序 …… 6
　第３節　遺構と遺物 …… 7
　　１　縄文時代の遺構と遺物 …… 7
　　(1) 竪穴建物跡 …… 7
　　(2) 土　坑 …… 9
　　２　古墳時代の遺構と遺物 …… 22
　　(1) 竪穴建物跡 …… 22
　　(2) 土　坑 …… 23
　　(3) 不明遺構 …… 24
　　３　平安時代の遺構と遺物 …… 25
　　(1) 竪穴建物跡 …… 25
　　(2) 土　坑 …… 28
　　４　時期不明の遺構と遺物 …… 31
　　(1) 溝　跡 …… 31
　　(2) 土　坑 …… 32
　　(3) ピット群 …… 35
　　(4) 不明遺構 …… 36
　　(5) 遺構外出土遺物 …… 37
　第４節　総　括 …… 41
写真図版 …… PL 1～PL 6
抄　録



大堀遺跡遺構全体図（400 分の 1 ）

第１章　調　査　経　緯

第１節　調査に至る経緯

令和２年 11 月 27 日、茨城県公営企業管理者企業局長は、茨城県教育委員会教育長あてにつくばみらい福岡地区土地造成事業地内における埋蔵文化財の所在の有無とその取扱いについて照会した。これを受けて、茨城県教育委員会は令和２年 12 月 11 日に現地踏査を、令和３年１月 20・21・27 日、２月 24 日に試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。令和３年３月３日、茨城県教育委員会教育長は茨城県公営企業管理者企業局長あてに、事業地内に大堀遺跡が所在することと、その取扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

令和３年３月９日、茨城県公営企業管理者企業局長は、茨城県教育委員会教育長あてに、文化財保護法第 94 条に基づく土木工事の通知を提出した。令和３年３月 16 日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県公営企業管理者企業局長あてに、現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

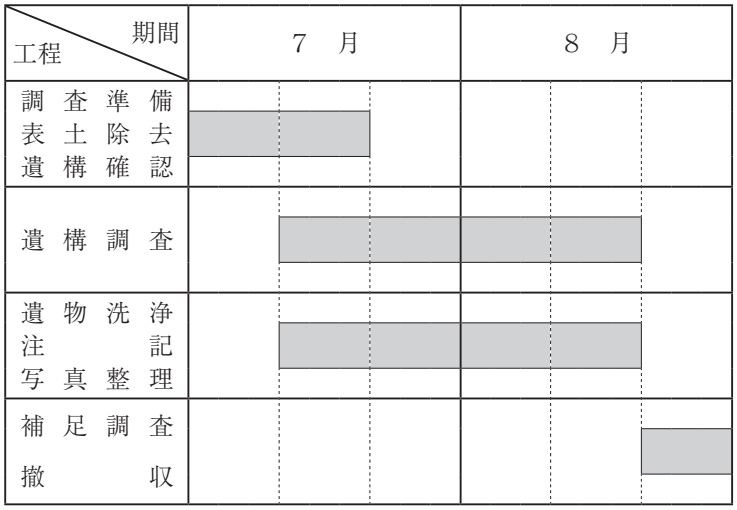
令和３年３月 24 日、茨城県公営企業管理者企業局長は、茨城県教育委員会教育長あてに、つくばみらい福岡地区土地造成事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議書を提出した。令和３年３月 29 日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県公営企業管理者企業局長あてに、大堀遺跡について、発掘調査の範囲と、その面積などについて回答し、併せて調査機関として公益財団法人茨城県教育財団を紹介した。

令和３年５月 10 日、茨城県公営企業管理者企業局長は、公益財団法人茨城県開発公社を埋蔵文化財発掘調査事業の委託者とする旨を、公益財団法人茨城県教育財団理事長あてに通知した。

公益財団法人茨城県教育財団は、公益財団法人茨城県開発公社から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、令和３年７月１日から８月 31 日まで調査を実施した。

第２節　調　査　経　過

大堀遺跡の調査は、令和３年７月１日から８月 31 日までの２か月間にわたって実施した。以下、その概要を表で記載する。



第2章　位　置　と　環　境

第1節　位　置　と　地　形

大堀遺跡は、茨城県つくばみらい市大字南字大堀 1989 － 1 ほかに所在している。

つくばみらい市は、平成 18 年に筑波郡伊奈町と谷和原村の合併により誕生した市で、茨城県の南西部に位置している。市の地形は、中央部に鬼怒川と小貝川によって形成された沖積低地（鬼怒川－小貝川低地）が広がり、東部は筑波・稲敷台地、西部は北相馬台地となっている。

当遺跡が立地する筑波・稲敷台地は、茨城県南部から千葉県北部に広がる常総台地の一部である。西を鬼怒川－小貝川低地、東を桜川低地に挟まれた南北約 44km、東西約 38km の台地で、台地面は全体として北から南に傾斜している[1)]。小貝川低地沿いの台地西側縁辺部では、西へ開口する樹枝状の小支谷が発達し、台地南部では西谷田川と谷田川の開析谷が発達している。台地は並走する谷によって短冊状に分断され、これらを流れる川は牛久沼に流入している。地層は、貝化石を産する見和層（成田層）を基盤層として、その上に砂混じりのロームから、クロスラミナの顕著な砂あるいは砂礫層である竜ケ崎砂礫層へ漸移する。その上層は、地点により様々変化するが、火山灰質粘土層である常総粘土層、さらにその上部に関東ローム層が堆積し、最上層は腐植土層となっている。

当遺跡は、小貝川低地から南東方向に入り込む小支谷の東側台地縁辺部に立地している。遺跡範囲は、谷沿いに南北 450m、東西 150 mほどに広がっており、今回の調査区は、その北西端部にあたる。台地平坦部の標高は約 23m で、低地との比高は約８m である。遺跡の現況は畑地である。

第2節　歴　史　的　環　境

当遺跡が立地する小貝川と西谷田川に挟まれた台地の縁辺部には、支谷の奥に至るまで多数の遺跡が確認されている[2)]。ここでは、調査事例を基に同一台地上の周辺遺跡を中心にして各時代の様相を概観する。

旧石器時代の遺跡は、中道遺跡〈19〉、和台遺跡〈21〉、前田村遺跡〈27〉、西ノ脇南遺跡〈30〉、高野台遺跡〈34〉、東耕地北遺跡〈35〉などがある。多くの遺物は、表土中や遺構外からの出土であるが、前田村遺跡では、石器集中地点１か所が確認されており、硬質砂岩製のナイフ形石器や瑪瑙製の石刃が出土している[3)]。東耕地北遺跡でも石器製作跡が確認されている[4)]。

縄文時代の遺跡数は多く、周辺の 35 遺跡中、28 遺跡（第１表）で遺物が確認されており、時期は早期から晩期に亘っている。早期では、当遺跡に近接する中道遺跡や和台遺跡などで土器片が出土している[5～7)]。前期では、地点貝塚である田村貝塚〈26〉がある。ハイガイやハマグリなどの鹹水産とヤマトシジミなどの汽水産の貝類が検出され、当時の環境が内湾の鹹水域から汽水域に移行したことを示している。田村貝塚の南側に位置する前田村遺跡では、竪穴建物跡７棟が確認されている[8)]。中期では前田村遺跡で竪穴建物跡 324 棟と貯蔵穴や墓とみられる多数の土坑が確認され、環状集落を構成していたことが確認されている。中期を通して一帯の拠点的な集落であったとみられる。後・晩期になると苗代山遺跡〈２〉、前田村遺跡、東耕地北遺跡、その南側の中島山遺跡などで竪穴建物跡が確認されているが遺跡数は減少する。

弥生時代の遺跡数は他の時代に比べて極めて少なく、高野台遺跡で土器片が確認されている程度である[9)]。

古墳時代になると、遺跡数の増加傾向がみられる。当時代の竪穴建物跡は、前期では前田村遺跡で 26 棟、中期では小貝川右岸の大谷津 A 遺跡で３棟、後期では和台遺跡で２棟、西ノ脇遺跡〈29〉で５棟、前田村遺跡で 16 棟が確認されている。古墳は、福岡古墳群〈15〉、並木古墳〈24〉、東楢戸古墳群〈32〉などがある。東楢戸古墳群は、1978 年に円墳１基が調査され、埋葬施設の粘土槨が確認されており、出土土器から中期初頭頃の築造と考えられている[10)]。

奈良･平安時代になると､当地域は河内郡八部郷に属するとされている[11)]。当該期の遺跡は､戸崎前遺跡〈12〉、上野台遺跡〈18〉､中道遺跡､観音前遺跡〈20〉､和台遺跡､前田村遺跡､同一台地の南方に位置する上街道東遺跡、鎌田遺跡などが確認されている[12)]。鎌田遺跡は、８世紀前葉から９世紀後葉に営まれた集落跡である。大型の建物跡や「コ」の字状または「L」字状の配置とみられる掘立柱建物跡が存在していることや、一般的な集落では出土例の少ない二彩陶器や灰釉陶器などが出土していることから、公的な役割を担った有力首長層の集落と想定されている[13)]。前田村遺跡では、９世紀前葉から 10 世紀中葉にかけての集落跡が確認されているほか、土坑から和鏡と小刀と思われる鉄製品が出土している。

中世の遺跡は、当遺跡の南方の台地縁辺部に城館跡の小張城跡、板橋城跡、三條院城跡が連なるように点在している。そのほかに西ノ脇遺跡、前田村遺跡、中島山遺跡などから、中世の遺構が確認されている。

近世の遺跡は、水喰遺跡〈17〉、並木遺跡〈25〉などがあるが、調査事例が少なく、不明な点が多い。

註

１）斎藤英二ほか「茨城県南西部における最近の測地学的変動について」『地質調査所月報』第 39 巻 第 10 号　1988 年 10 月
２）茨城県教育庁文化課編『茨城県遺跡地図（地名表・地図編）』 2022 年３月
３）吉原作平「伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書１　西ノ脇遺跡・前田村遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 87 集　1994 年３月
４）茨城県教育委員会『茨城の文化財　第 58 集（令和元年度）』 2020 年３月
５）渡辺久生ほか「中道遺跡」『東楢戸台線道路整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書』 2012 年 10 月
６）河野一也ほか『和台遺跡』『東楢戸台線道路整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書』 2012 年３月
７）河野一也ほか『和台遺跡　第２次調査』『東楢戸台線道路整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書』 2014 年２月
８）小林孝ほか「伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書５　前田村遺跡Ｊ・Ｋ区」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 147 集　1999 年３月
９）吉原作平ほか「伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書３　高野台遺跡・前田村遺跡Ｄ・Ｆ区」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 127 集　1997 年９月
10）高根信和「常磐自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅲ」『茨城県教育財団文化財調査報告Ⅸ』 1981 年３月
11）中山信名『新編常陸国誌』
12）茨城県教育委員会『茨城の文化財　第 60 集（令和３年度）』 2022 年３月
13）川村満博「伊奈町鎌田遺跡について－奈良・平安時代を中心にして－」『伊奈町の歴史』第７号　2003 年３月

参考文献

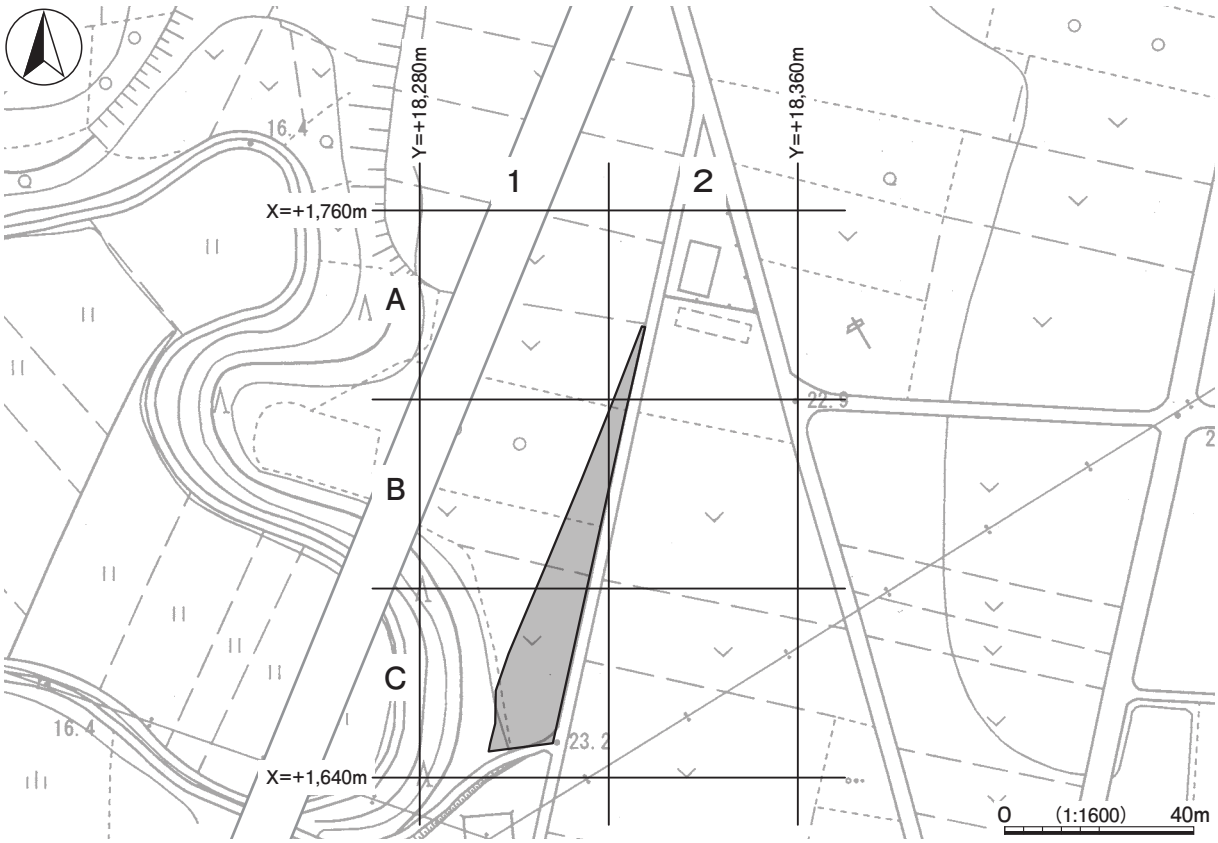
・谷和原村村史編さん委員会「谷和原の歴史　史料編」 谷和原村教育委員会　2001 年３月
・谷和原村村史編さん委員会「谷和原の歴史　通史編」 谷和原村教育委員会　2003 年３月

第１図　大堀遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000 分の１「谷田部」「藤代」）

第１表　大堀遺跡周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉～桃山	江戸
①	大堀遺跡	○	○		○	○		○
2	苗代山遺跡		○					
3	風崎山遺跡		○					
4	西山遺跡		○				○	○
5	二本松遺跡		○					○
6	荻砂遺跡		○				○	○
7	神明遺跡		○				○	
8	寺町遺跡		○				○	○
9	福岡新宿遺跡		○					
10	前畑遺跡		○			○	○	○
11	東谷津遺跡		○					
12	戸崎前遺跡					○	○	○
13	花輪前遺跡		○			○	○	○
14	飯塚遺跡		○					
15	福岡古墳群				○			
16	南遺跡		○		○	○	○	○
17	水喰遺跡						○	○
18	上野台遺跡					○		

番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉～桃山	江戸
19	中道遺跡	○	○		○	○		
20	観音前遺跡		○			○		
21	和台遺跡	○	○		○	○		
22	イカツチ遺跡		○		○	○	○	○
23	玉金遺跡		○		○	○	○	○
24	並木古墳				○			
25	並木遺跡						○	○
26	田村貝塚		○			○	○	
27	前田村遺跡	○	○		○	○	○	○
28	北ノ後北遺跡		○					
29	西ノ脇遺跡		○		○		○	
30	西ノ脇南遺跡	○	○			○	○	
31	北ノ後南遺跡		○		○		○	
32	東楢戸古墳群				○			
33	舟戸遺跡		○					
34	高野台遺跡	○	○	○				
35	東耕地北遺跡	○	○		○		○	○



第２図　大堀遺跡調査区設定図（つくばみらい市都市計画図 2,500 分の１）

第３章　調　査　の　成　果

第１節　調 査 の 概 要

大堀遺跡は、つくばみらい市の北部に位置し、小貝川左岸の標高約 20 ｍの台地上に立地している。調査面積は 742㎡で、調査前の現況は畑地である。

調査の結果、竪穴建物跡４棟（縄文時代１･古墳時代１･平安時代２）、溝跡３条（時期不明）、土坑 46 基（縄文時代 23・古墳時代１・平安時代４・時期不明 18）、ピット群３か所（時期不明）、不明遺構２基（古墳時代・時期不明）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60 × 40 × 20㎝）に９箱出土している。主な遺物は、縄文土器（深鉢・浅鉢・有孔鍔付土器）、土師器（坏・高台付椀・皿・器台・高坏・壺・甕・ミニチュア）、須恵器（坏・甕・甑）、土製品（羽口）、石器（ナイフ形石器・尖頭器・楔形石器・剥片・石鏃・磨石・凹石・敲石・砥石）、石製品（管玉）、鉄滓などである。

第２節　基　本　層　序

調査区南西部、標高 22.4 ｍの台地上平坦面（Ｃ１d6 区）にテストピットを設定し、土層の観察を行った。

第１層は、極暗褐色を呈する表土層である。層厚は 20 ～ 32㎝である。

第２層は、黄褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりともに普通で、層厚は４～ 19㎝である。

第３層は、黄褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに普通で、層厚は 20 ～ 32㎝である。

第４層は、暗褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で締まりは極めて強く、層厚は 24 ～ 33㎝である。層位と色調から、第２黒色帯に相当すると考えられる。

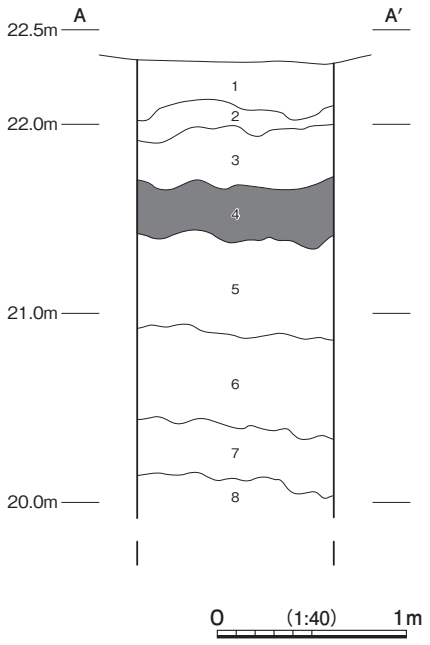
第５層は、にぶい黄褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で締まりは強く、黒色粒子を微量含む。層厚は 46 ～ 55㎝である。

第６層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で締まりは強く､黒色粒子を微量含む｡層厚は47～55㎝である。

第７層は、にぶい黄褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く、鉄分を少量含む。層厚は 26 ～ 28㎝である。

第８層は、にぶい黄橙色を呈する粘土層である。粘性・締まりともに強く、鉄分を少量含む。確認した層厚は、８～ 12㎝であるが、未掘のため、本来の層厚は不明である。

遺構は、第２層の上面で確認した。



第３図　基本土層図（全体図参照）

第3節　遺 構 と 遺 物

1　縄文時代の遺構と遺物

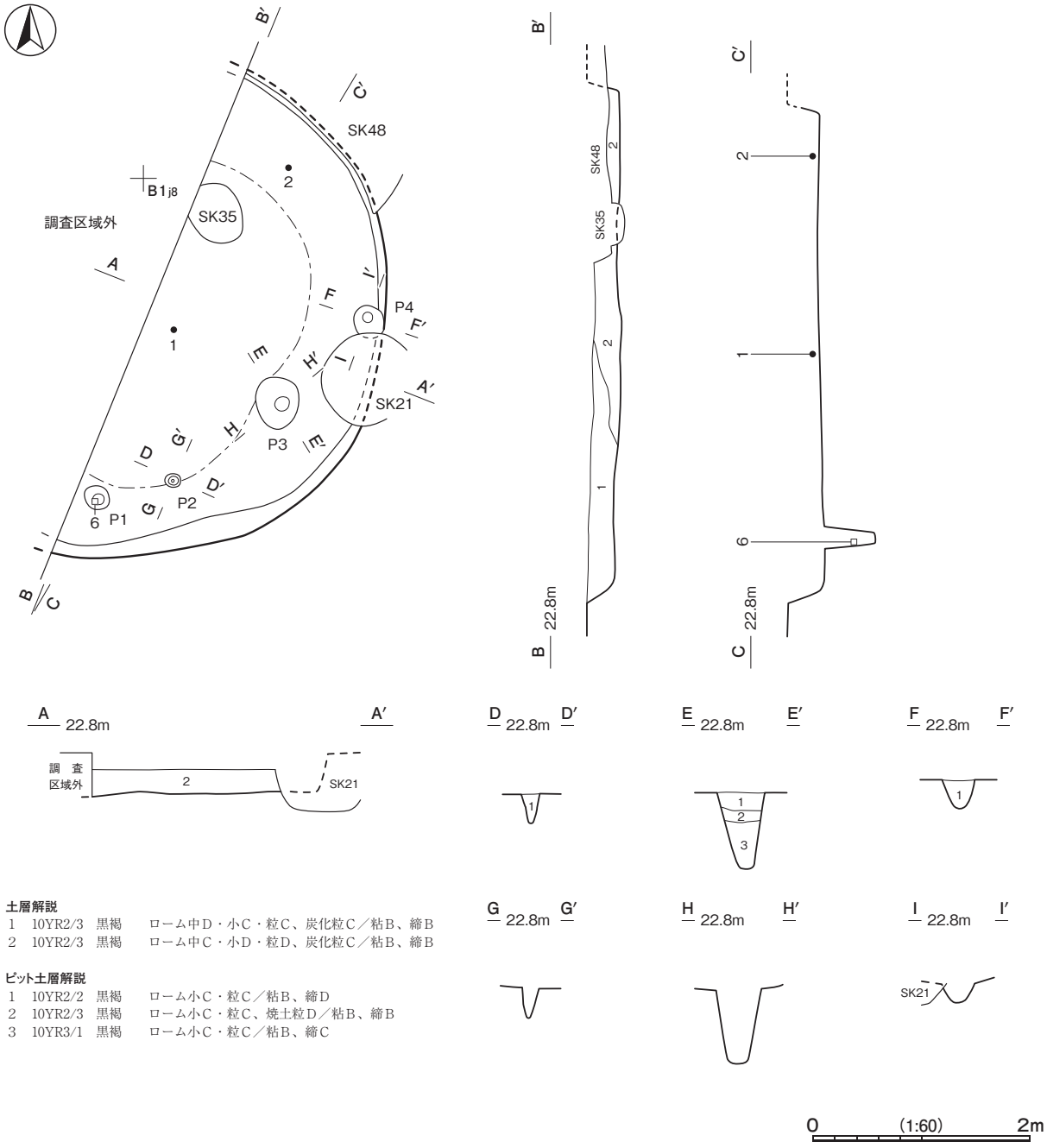
竪穴建物跡１棟、土坑23基を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

（1）竪穴建物跡

第１号竪穴建物跡（第４・５図　第２表　PL １・３）

位置　調査区中央部のＢ１j8区、標高約22ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第34・49・50号土坑を掘り込み、第21・35・48号土坑に掘り込まれている。



第４図　第１号竪穴建物跡実測図

規模と形状　西部が調査区域外のため、確認できた規模は南北径 4.77 m、東西径 2.20 mである。平面形は、円形や楕円形と推定できる。壁は高さ 24㎝で、外傾している。

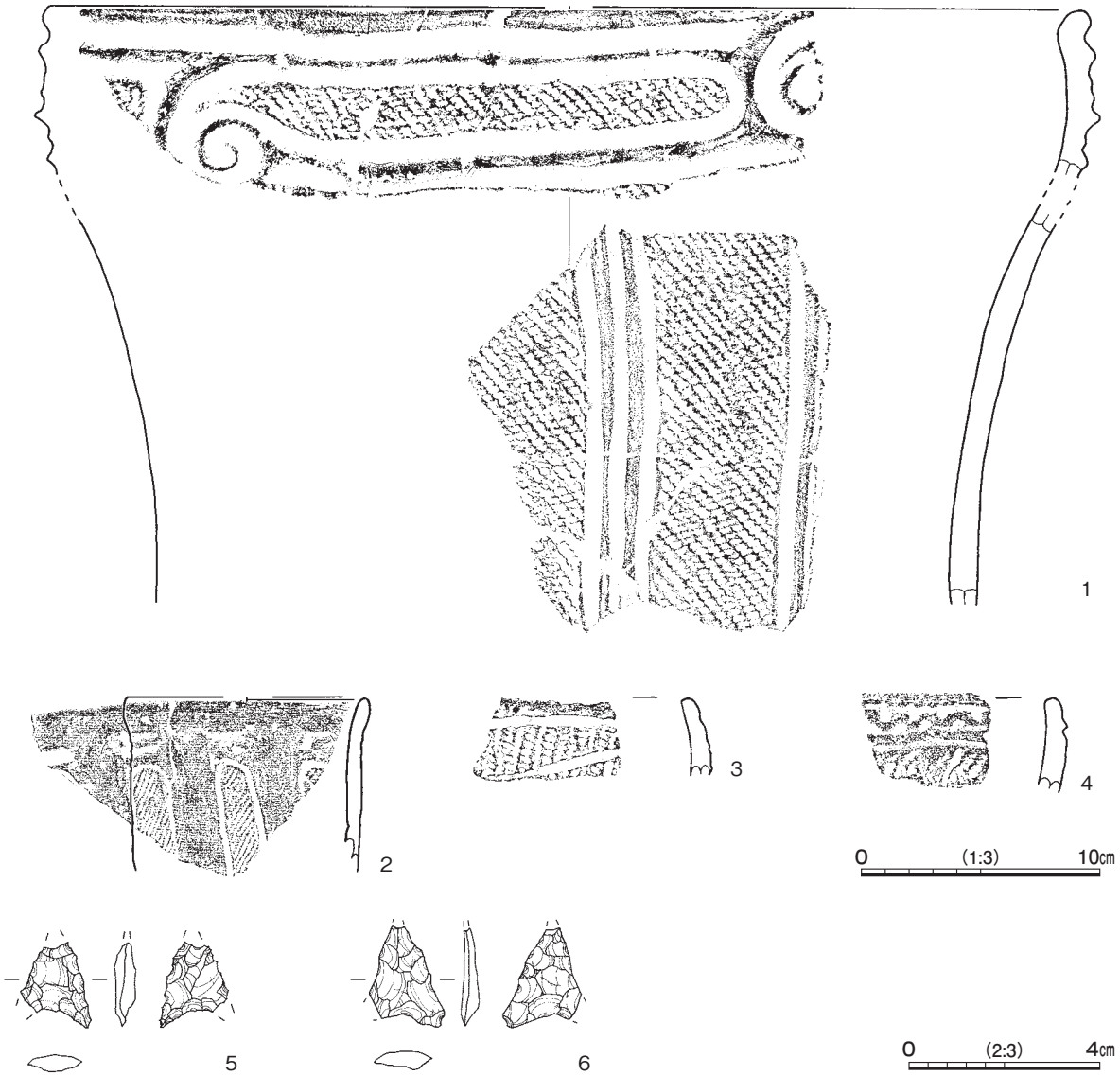
床　ほぼ平坦で、壁際を除く中央部が硬化している。

ピット　４か所。Ｐ３は深さ 69㎝で、主柱穴と考えられる。Ｐ１・Ｐ２・Ｐ４は深さ 15 ～ 48㎝で、補助柱穴と考えられる。覆土は３層に分層でき、周囲からの流入土である。

覆土　２層に分層できる。ロームブロックをやや多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況　縄文土器片 98 点（深鉢 97、浅鉢１）、石器８点（石鏃２［チャート製、頁岩製］、剥片６［頁岩製１、チャート製３、瑪瑙製２］）が出土している。ほかに混入した土師器片３点が出土している。縄文土器片の時期は、早期７点、前期 10 点、中期 81 点で、早・前期の土器片は混入したものである。１は中央部の覆土下層と覆土中から、２は北部の覆土下層と覆土中から、それぞれ出土した破片が接合している。６はＰ１内の覆土中層から出土している。

所見　時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第５図　第１号竪穴建物跡出土遺物実測図

第２表　第１号竪穴建物跡出土遺物一覧（第５図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	特　　徴	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	［43.4］	(25.0)	－	長石・石英	にぶい黄褐	普通	口縁部単節 LR 縄文縦位施文後渦巻楕円文 隆起線脇磨き　胴部沈線３条懸垂　沈線間磨き	覆土下層 覆土	20%　PL ３
2	縄文土器	深鉢	［10.0］	(7.3)	－	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	縦位単沈線楕円区画間に単節 LR 縄文横位充填 区画上部１・２か所板状工具による刺突	覆土下層 覆土	５％　PL ３
3	縄文土器	深鉢	－	(3.3)	－	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	太さの異なる異条斜縄文横位施文後横位沈線文	覆土	５％　PL ３
4	縄文土器	深鉢	－	(4.0)	－	長石・石英	橙	普通	口縁部単節 RL 縄文横位施文後平行沈線２条 沈線間交互刺突文・横位沈線	覆土	５％　PL ３

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
5	石鏃	(1.8)	(1.4)	0.4	(0.75)	チャート	凹基無茎鏃　両面押圧剥離調整　一部欠損	覆土	PL ３
6	石鏃	(2.1)	(1.6)	0.4	(0.97)	頁岩	凹基無茎鏃　両面押圧剥離調整　一部欠損	Ｐ１覆土中層	PL ３

（2）土坑

23 基のうち、特徴ある遺物が出土している９基について記載し、その他は実測図（第 19 ～ 21 図）と一覧表（第 12 表）で掲載する。

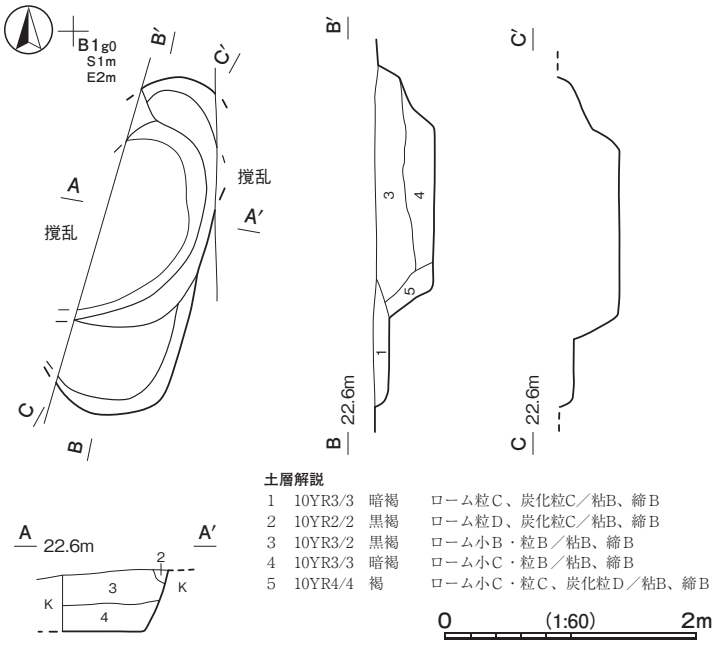
第 17 号土坑（第６・７図　第３表　PL ３）

位置　調査区中央部のＢ１g0 区、標高約 22 ｍの台地平坦部に位置している。

規模と形状　西部と北東部が撹乱のため、確認できた規模は長径 2.74 ｍ、短径 0.86 ｍである。平面形は楕円形と推定でき、長径方向はＮ－ 14°－Ｅである。深さは 46㎝で、底面は平坦である。壁は緩やかに外傾し、北部が底面からの深さ 35㎝、南部が底面からの深さ 30㎝のところで、段を有している。

覆土　５層に分層できる。不規則な堆積状況を示すことから、人為堆積である。

遺物出土状況　縄文土器片 39 点（深鉢）、石器１点（安山岩）が出土している。縄文土器片の時期は、前期 13 点、中期 26 点で、前期の土器片は混入したものである。

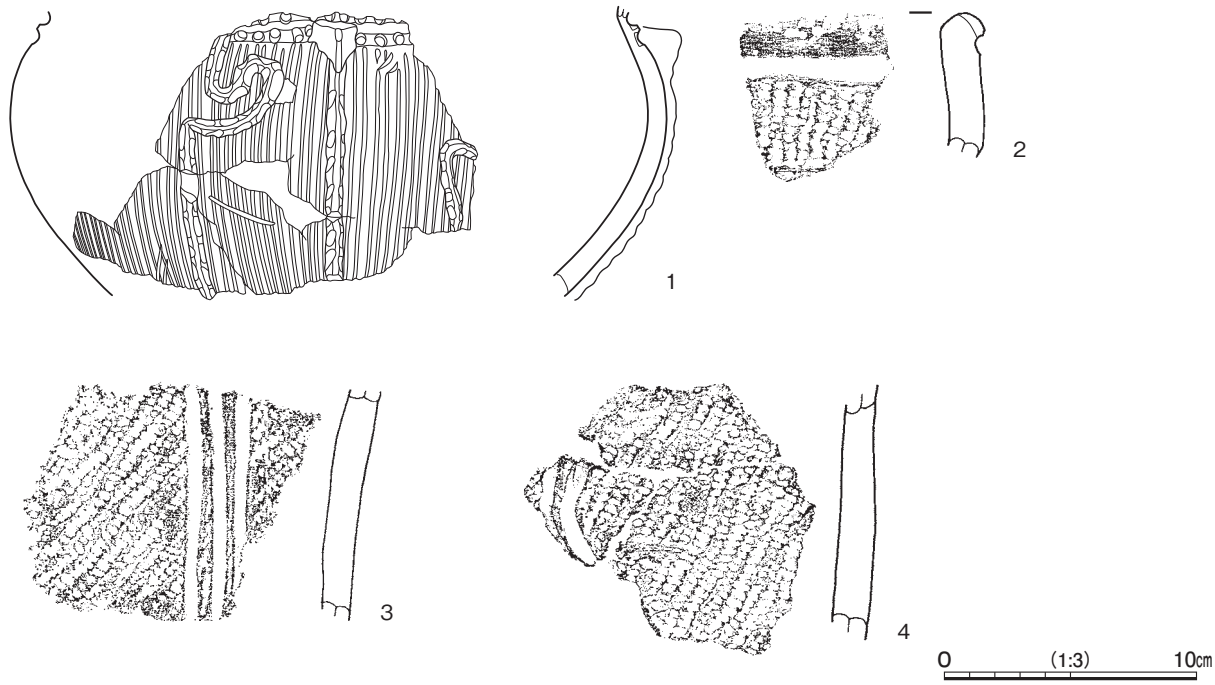


第６図　第 17 号土坑実測図

第３表　第 17 号土坑出土遺物一覧（第７図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	特　　徴	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(11.3)	－	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	半截竹管による縦位集合沈線施文後蛇行・直線 の隆帯懸垂　隆帯側面指頭による連続つまみ 頸部円形竹管による交互刺突	覆土	10%　PL ３
2	縄文土器	深鉢	－	(5.7)	－	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口唇部側面隆帯貼付　単節 LR 縄文斜位施文後 隆帯下部沈線	覆土	５％
3	縄文土器	深鉢	－	(8.9)	－	長石・石英・ 雲母	橙	普通	単節 RL 縄文縦位施文後沈線３条懸垂　沈線間 磨き	覆土	５％
4	縄文土器	深鉢	－	(10.2)	－	長石・石英・ 雲母	にぶい黄橙	普通	単節縄文 RL 縦位施文後蛇行沈線２条懸垂	覆土	５％

所見　時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第７図　第 17 号土坑出土遺物実測図

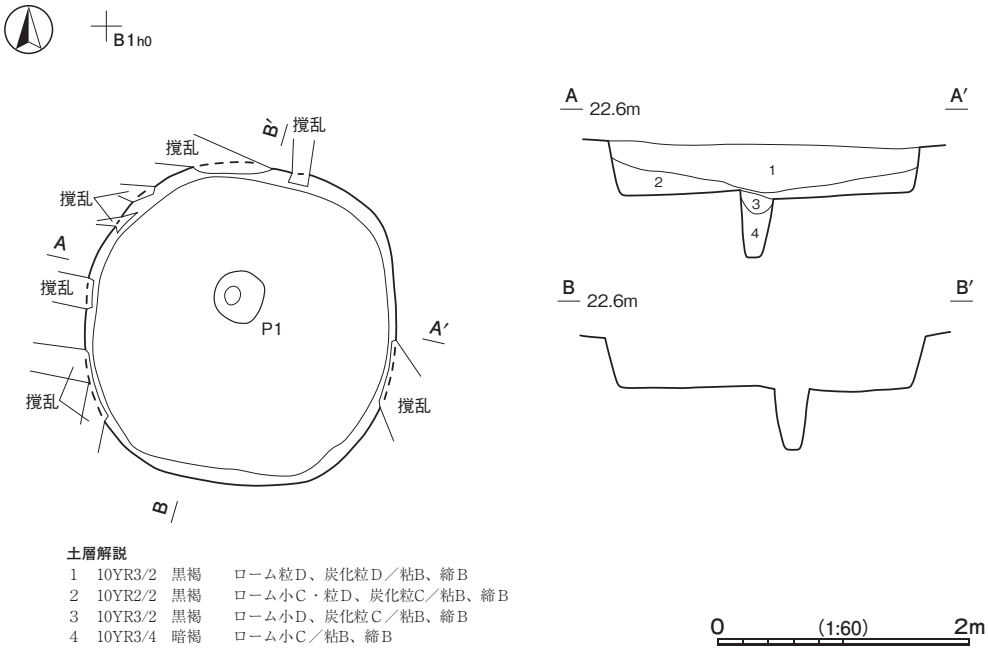
第 23 号土坑（第８・９図　第４表　PL ２・３）

位置　調査区中央部のＢ１h0 区、標高約 22 mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　長径 2.65 m、短径 2.55 mの円形である。深さは 43cmで、底面は平坦である。壁は外傾している。

ピット　Ｐ１は中央部に位置し、深さ 50cmである。覆土は第３・４層で、周囲からの流入土である。

覆土　２層に分層できる。両層ともにほぼ同質の覆土であり、人為堆積の可能性が高い。



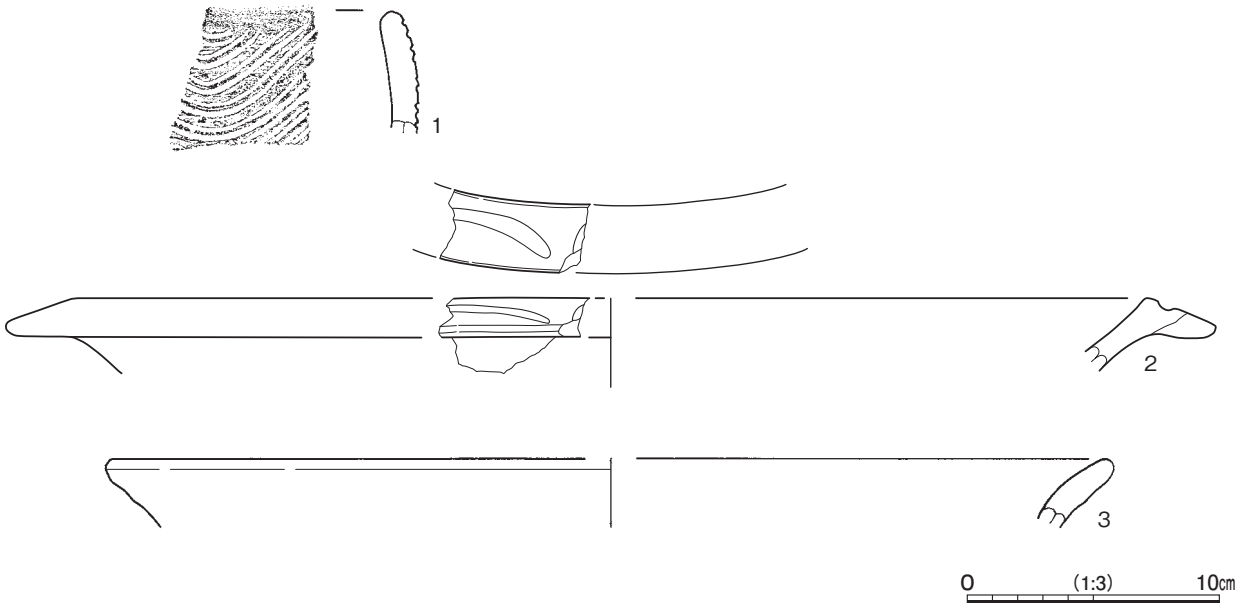
土層解説

1	10YR3/2	黒褐	ローム粒Ｄ、炭化粒Ｄ／粘B、締Ｂ
2	10YR2/2	黒褐	ローム小Ｃ・粒Ｄ、炭化粒C／粘B、締Ｂ
3	10YR3/2	黒褐	ローム小Ｄ、炭化粒Ｃ／粘B、締Ｂ
4	10YR3/4	暗褐	ローム小Ｃ／粘B、締Ｂ

第８図　第 23 号土坑実測図

遺物出土状況　縄文土器片 49 点（深鉢 47、浅鉢２）が出土している。縄文土器片の時期は、早期 12 点、中期 37 点で、早期の土器片は混入したものである。

所見　時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第９図　第 23 号土坑出土遺物実測図

第４表　第 23 号土坑出土遺物一覧（第９図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	特　　徴	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(5.8)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	半截竹管による連弧文	覆土	５％　PL ３
2	縄文土器	浅鉢	[42.6]	(2.9)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口唇部沈線による弧線文　内外面ナデ後口縁部から内面磨き	覆土	５％
3	縄文土器	浅鉢	[39.4]	(2.7)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	内外面ナデ後口唇部から内面磨き	覆土	５％

第 30 号土坑（第 10 図　第５表　PL ３）

位置　調査区中央部のＣ１c8 区、標高約 22 mの台地平坦部に位置している。

重複関係　第２号溝に掘り込まれている。

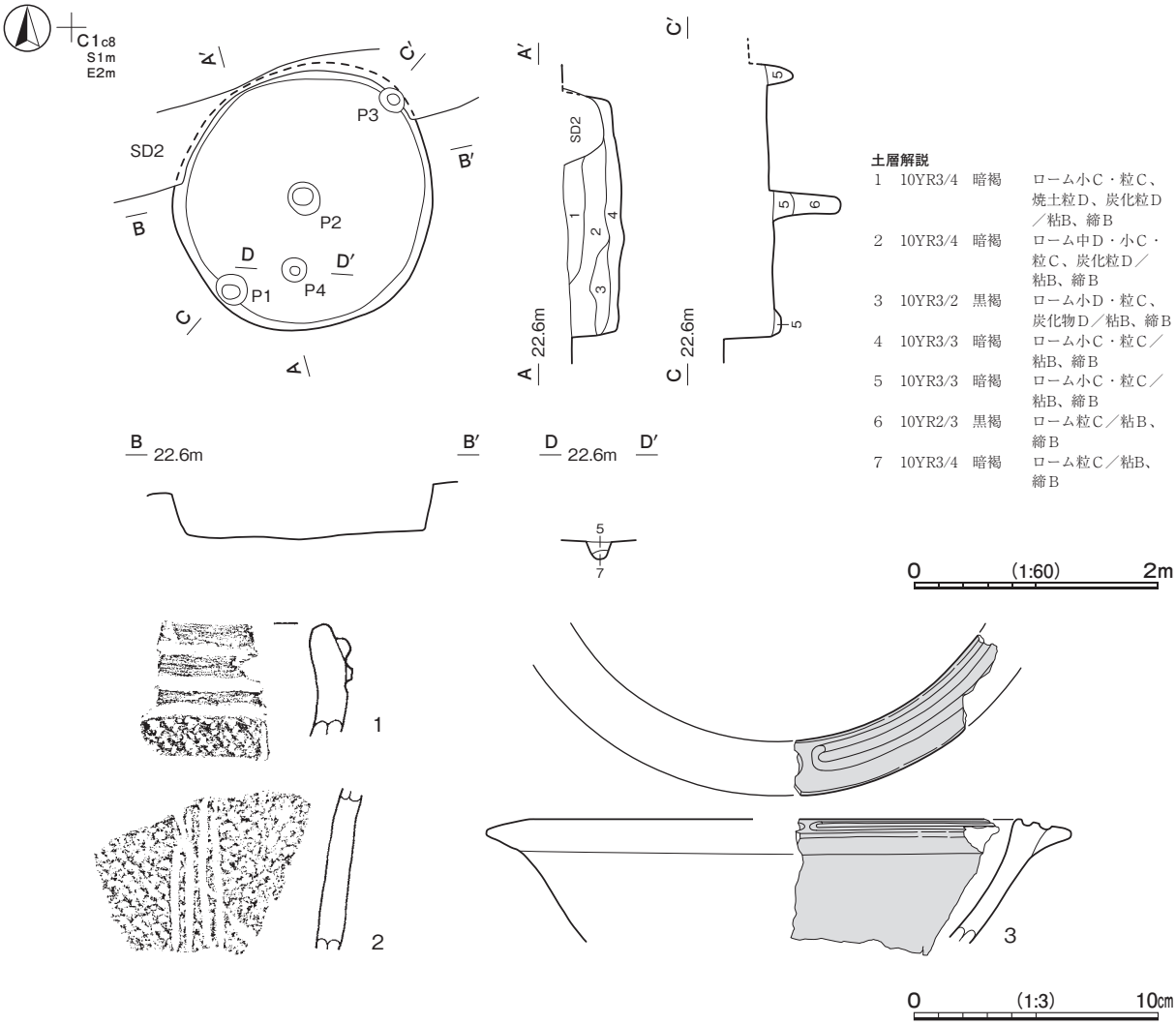
規模と形状　北部が第２号溝に掘り込まれているため、確認できた規模は長径 2.27 m、短径 2.09 mである。平面形は楕円形と推定でき、長径方向はＮ－ 26°－Ｅである。深さは 46cmで、底面は平坦である。西壁が外傾しているが、ほかの壁はほぼ直立している。

ピット　４か所。Ｐ１は南西壁際に位置し、深さ６cm で、Ｐ２は中央部に位置し、深さ 70cmである。Ｐ３は北東壁際に位置し、深さ 20cm、Ｐ４は南部に位置し、深さ 15cm である。覆土は第５～７層で、周囲からの流入土である。

覆土　４層に分層できる。水平に堆積する不自然な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況　縄文土器片 57 点（深鉢 54、浅鉢２、壺ヵ１）が出土している。縄文土器片の時期は、早期５点、前期６点、中期 46 点で、早・前期の土器片は混入したものである。

所見　時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第10図　第30号土坑・出土遺物実測図

第5表　第30号土坑出土遺物一覧（第10図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	特　　徴	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(4.6)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	単節RL縄文横位施文後横位隆帯２条　隆帯間沈線・棒状工具による磨き	覆土	５％
2	縄文土器	深鉢	－	(6.5)	－	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	単節LR縄文縦位施文後沈線４条懸垂	覆土	10％
3	縄文土器	浅鉢	[19.4]	(5.1)	－	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口唇部沈線による楕円区画文　外面赤彩	覆土	10％　PL３

第38号土坑（第11図　第6表　PL２・３）

位置　調査区中央部のＣ１c8区、標高約22ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第２号溝に掘り込まれている。

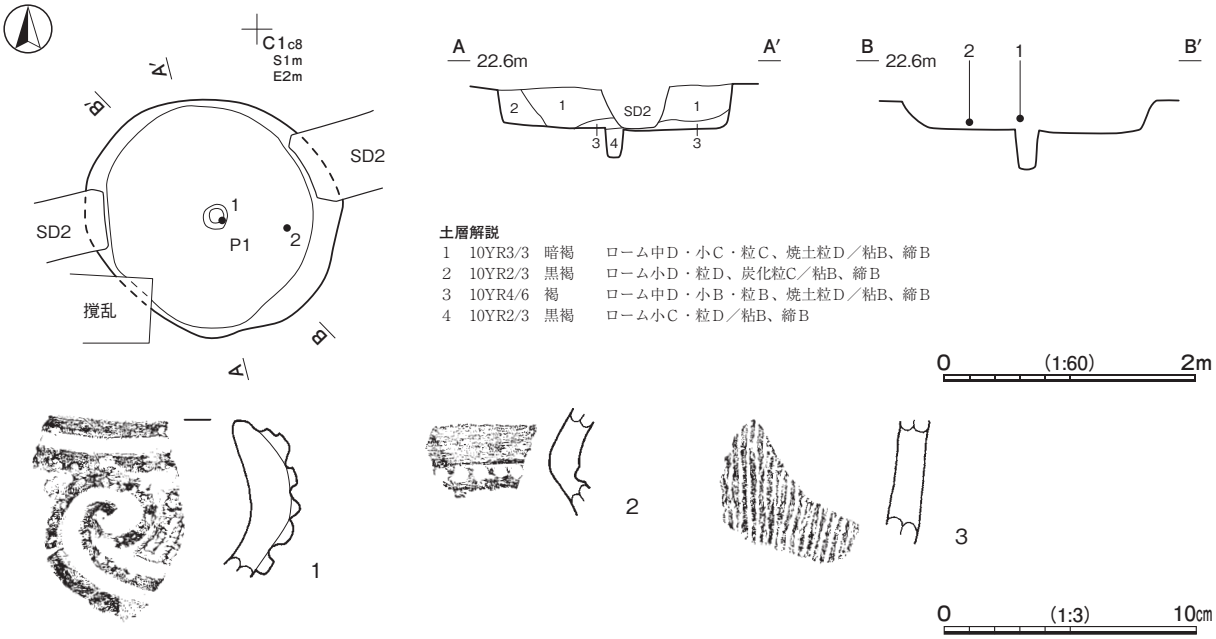
規模と形状　長径2.01ｍ、短径1.78ｍの楕円形で、長径方向はＮ－47°－Ｗである。深さは35㎝で、底面は平坦である。壁は北部と南部で直立し、東部と西部で外傾している。

ピット　中央部に位置し、深さ30cmである。覆土は第４層で、周囲からの流入土である。

覆土　３層に分層できる。ロームブロックをやや多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況　縄文土器片 24 点（深鉢）、石器１点（黒曜石製剥片）が出土している。縄文土器片の時期は、早期４点、前期５点、中期 15 点で、早・前期の土器片は混入したものである。１は中央部覆土下層から、２は東部底面から、それぞれ出土している。

所見　時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



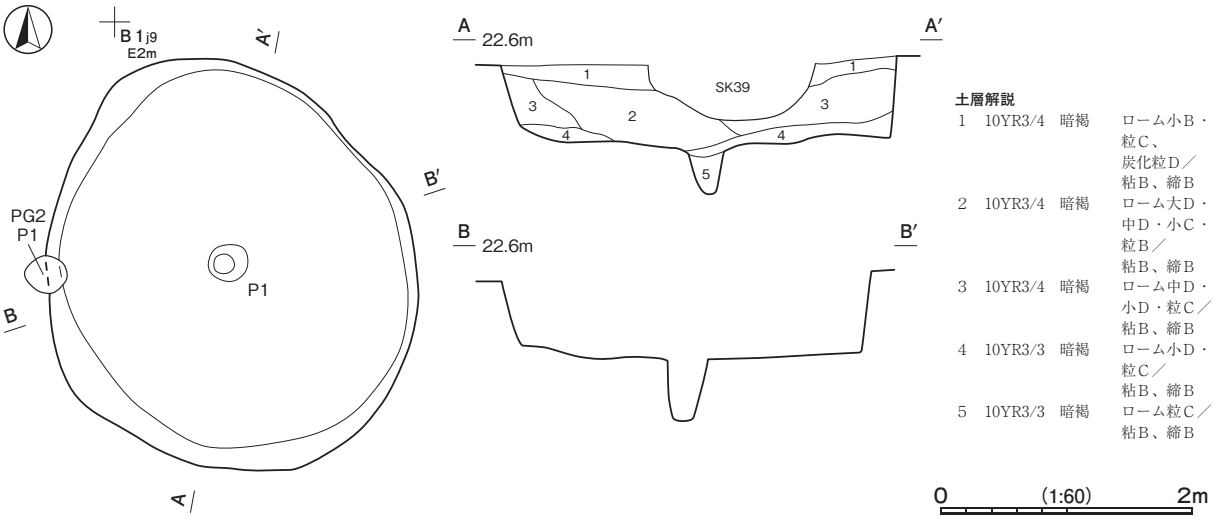
第 11 図　第 38 号土坑・出土遺物実測図

第６表　第 38 号土坑出土遺物一覧（第 11 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	特　　徴	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(6.1)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	単節 RL 縄文施文　口唇部直下横位隆帯１条 隆帯による渦文・隆帯脇沈線・棒状工具による磨き	覆土下層	５％　PL ３
2	縄文土器	深鉢	－	(4.3)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	頸部棒状工具による刺突２列	底面	５％
3	縄文土器	深鉢	－	(4.8)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	L 撚糸文縦位施文	覆土	５％

第 40 号土坑（第 12・13 図　第７表　PL ２・３）

位置　調査区中央部のＢ１j9 区、標高約 22 ｍの台地平坦部に位置している。



第 12 図　第 40 号土坑実測図

重複関係　第39号土坑、第２号ピット群Ｐ１に掘り込まれている。

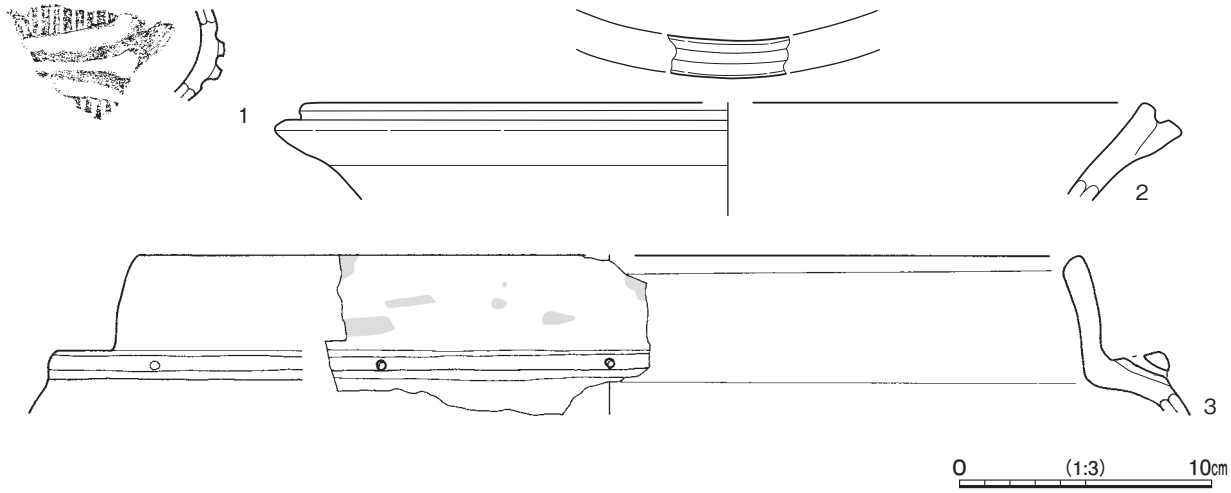
規模と形状　長径3.40ｍ、短径2.98ｍの楕円形で、長径方向はＮ－24°－Ｗである。深さは66㎝で、底面はやや凹凸がある。壁は、北部から東部にかけて直立し、南部から西部にかけては外傾している。

ピット　中央部に位置し、深さ50㎝である。覆土は第５層で、周囲からの流入土である。

覆土　４層に分層できる。ロームブロックをやや多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況　縄文土器片97点（深鉢89、浅鉢２、有孔鍔付土器６）が出土している。ほかに、混入した石器１点が出土している。縄文土器片の時期は、早期７点、前期19点、中期63点で、早・前期の土器片は混入したものである。

所見　時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第13図　第40号土坑出土遺物実測図

第７表　第40号土坑出土遺物一覧（第13図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	特　　徴	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(3.6)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	沈線のある隆帯による区画文内縦位沈線充填後隆帯脇単沈線	覆土	５％
2	縄文土器	浅鉢	[33.0]	(3.8)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部隆帯貼付・口唇部沈線１条	覆土	５％
3	縄文土器	有孔鍔付土器	[37.4]	(6.3)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	屈曲部横位隆帯貼付後下方から穿孔無文　口縁部内外面横位磨き　口縁部外面赤彩残存	覆土	10%　PL３

第49号土坑（第14図　第８表　PL２・３）

位置　調査区中央部のＢ１i8区、標高約22ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第１号竪穴建物、第34・48号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長径1.93ｍ、短径1.64ｍの楕円形で、長径方向はＮ－36°－Ｅである。深さは62㎝で、底面はほぼ平坦である。壁は北部と南部で直立し、東部と西部で外傾している。

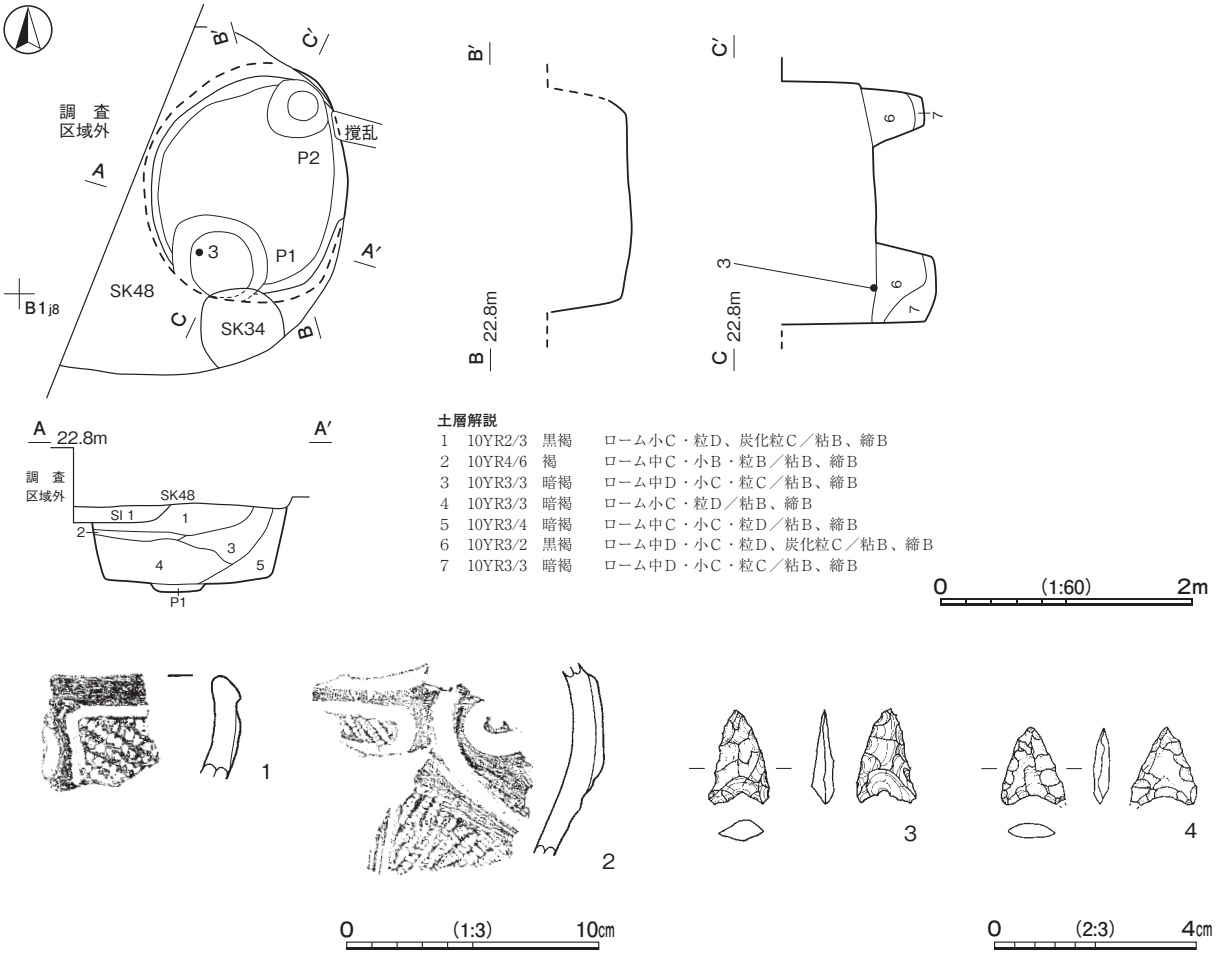
ピット　２か所。Ｐ１は南壁際に位置し、深さ50cmで、Ｐ２は北壁際に位置し、深さ45cmである。覆土は第６・７層で、周囲からの流入土である。

覆土　５層に分層できる。ロームブロックをやや多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況　縄文土器片34点（深鉢）、石器２点（チャート製石鏃）が出土している。ほかに混入した土師器片２点、石器３点が出土している。縄文土器片の時期は、早期２点、前期３点、中期29点で、早・前期の

土器片は混入したものである。３は覆土下層から出土している。

所見　時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第 14 図　第 49 号土坑・出土遺物実測図

第８表　第 49 号土坑出土遺物一覧（第 14 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	特　　徴	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(4.1)	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	単節 RL 縄文横位施文後隆帯貼付　口唇部直下・隆帯脇沈線	覆土	５％
2	縄文土器	深鉢	－	(7.9)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	上部単節 RL 縄文横位施文　隆起線区画文・渦文貼付後隆起線脇棒状工具による沈線　下部隆起線貼付後０段３条 RL 縄文横位施文	覆土	５％

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　　徴	出土位置	備　考
3	石鏃	1.9	1.2	0.5	0.66	チャート	凹基無茎鏃　両面押圧剥離	覆土下層	PL ３
4	石鏃	1.5	1.3	0.3	0.49	チャート	凹基無茎鏃　両面押圧剥離	覆土	PL ３

第 54 号土坑（第 15 図　第９表　PL ３）

位置　調査区中央部のＢ１j8 区、標高約 22 ｍの台地平坦部に位置している。

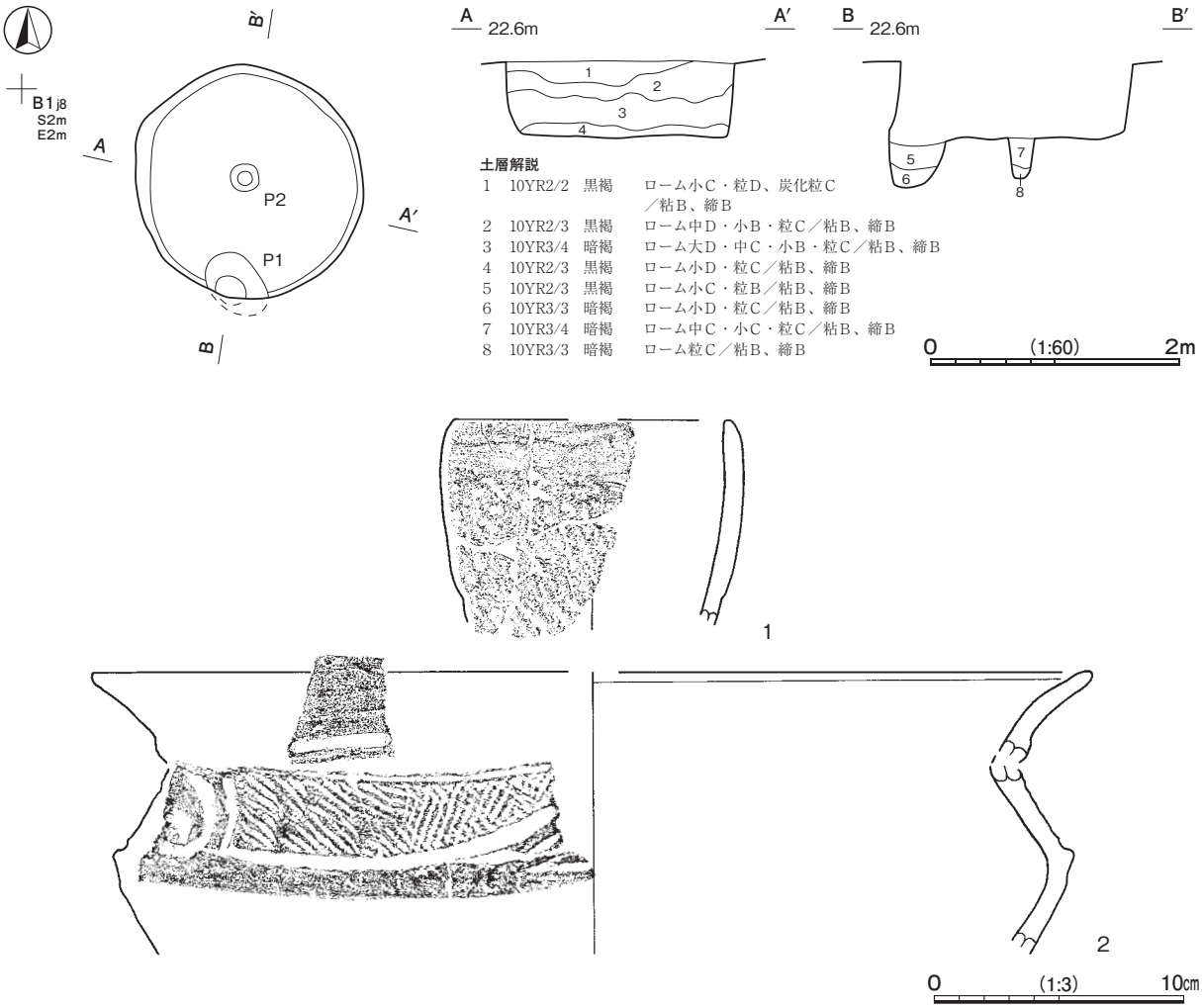
規模と形状　長径 1.89 ｍ、短径 1.82 ｍの円形である。深さは 62㎝で、底面はほぼ平坦である。壁は南部で内彎しているが、ほかは直立している。

ピット　２か所。Ｐ１は南部の壁際に位置し、深さ 34㎝で、Ｐ２は中央部に位置し、深さ 30㎝である。覆土は第５～８層で、周囲からの流入土である。

覆土　４層に分層できる。ほぼ水平に堆積する不自然な状況から、人為堆積である。

遺物出土状況　縄文土器片 66 点（深鉢 60、浅鉢６）、石器１点（チャート製剥片）が出土している。ほかに混入した土師器片１点が出土している。縄文土器片の時期は、前期９点、中期 57 点で、前期の土器片は混入したものである。

所見　時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第 15 図　第 54 号土坑・出土遺物実測図

第９表　第 54 号土坑出土遺物一覧（第 15 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	特　　徴	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	［11.1］	(8.1)	－	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	無文　口縁部ナデ	覆土	20%　PL ３
2	縄文土器	浅鉢	［40.0］	(11.3)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	頸部・胴部屈曲部隆帯による横位区画　区画内隆帯による渦文　単節 RL 縄文施文後隆帯脇沈線	覆土	20%

第 57 号土坑（第 16 図　第 10 表　PL ３）

位置　調査区中央部のＣ１a8 区、標高約 22 ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第４号竪穴建物、第 56 号土坑に掘り込まれている。

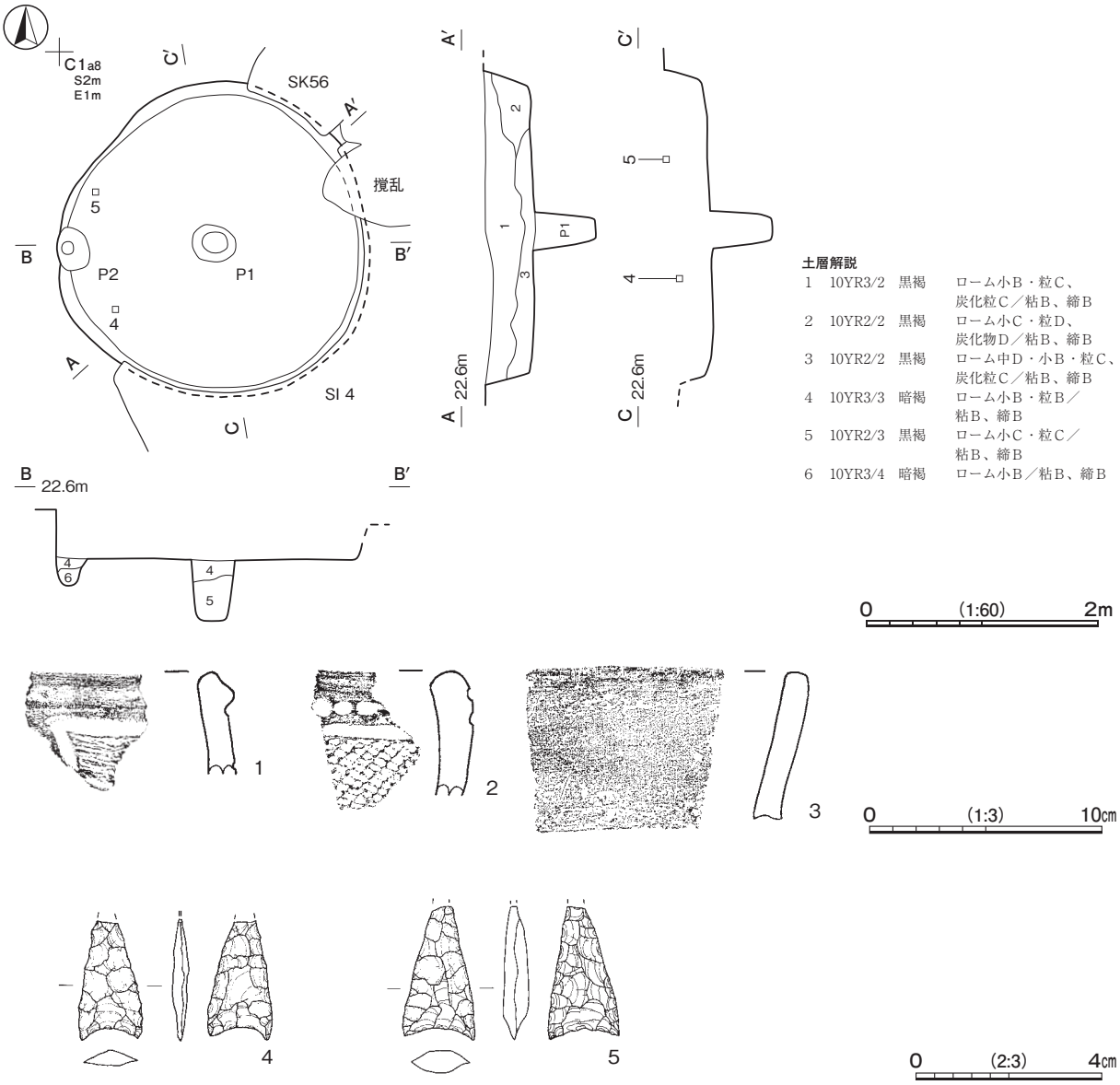
規模と形状　長径 2.74 ｍ、短径 2.69 ｍの円形である。深さは 42㎝で、底面は平坦である。壁は外傾している。

ピット　２か所。Ｐ１は中央部に位置し、深さ 40cmで、Ｐ２は西壁際に位置し、深さ 23cm である。覆土は第４～６層で、周囲からの流入土である。

覆土　３層に分層できる。不規則な堆積状況を示すことから、人為堆積である。

遺物出土状況　縄文土器片 37 点（深鉢）、石器３点（石鏃２［チャート製、瑪瑙製］、黒曜石製剥片１）が出土している。縄文土器片の時期は、早期 18 点、前期３点、中期 16 点で、早・前期の土器片は混入したものである。４・５は覆土上層から出土している。

所見　時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



第 16 図　第 57 号土坑・出土遺物実測図

第 10 表　第 57 号土坑出土遺物一覧（第 16 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	特　　徴	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(4.4)	－	長石・石英	橙	普通	口縁部横位隆帯　R 撚糸文横位施文後隆帯による区画文　隆帯脇沈線	覆土	５％　PL ３
2	縄文土器	深鉢	－	(5.3)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	単節 RL 縄文縦位施文後横位沈線・連続刺突	覆土	５％
3	縄文土器	深鉢	－	(6.3)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	無文　外面横位ナデ　内面横位磨き	覆土	５％

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
4	石鏃	(2.6)	1.4	0.3	(1.10)	チャート	凹基無茎鏃　両面押圧剥離　一部欠損	覆土上層	PL 3
5	石鏃	(2.9)	1.5	0.5	(1.85)	瑪瑙	凹基無茎鏃　両面押圧剥離　一部欠損	覆土上層	PL 3

第58号土坑（第17図　第11表　PL 2・3）

位置　調査区中央部のＣ１a9区、標高約22ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第４号竪穴建物に掘り込まれている。

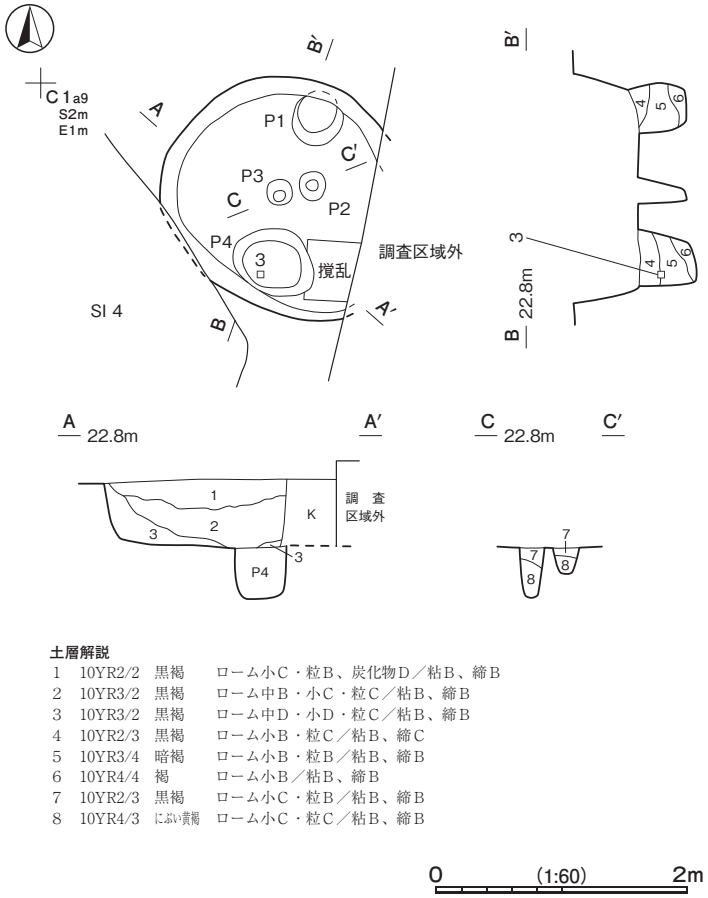
規模と形状　東部が調査区域外のため、確認できた規模は長径2.02ｍ、短径1.80ｍである。平面形は、楕円形と推定でき、長径方向はＮ－49°－Ｗである。深さは56cmで、底面は平坦である。壁は外傾している。

ピット　４か所。Ｐ１は北壁際に位置し、深さ40cmである。Ｐ２・Ｐ３は中央部に位置し、深さ20cm・40cmである。Ｐ４は南壁際に位置し、深さ46cmである。覆土は第４～８層で、周囲からの流入土である。

覆土　３層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから、人為堆積である。

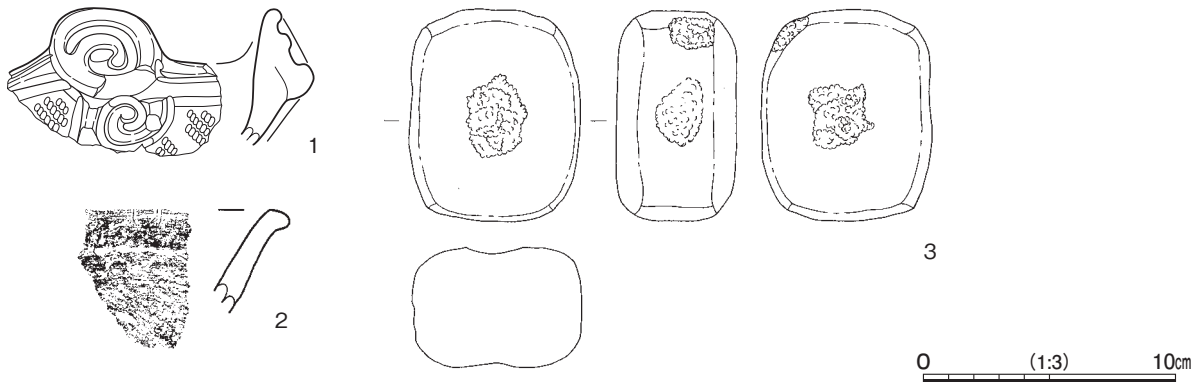
遺物出土状況　縄文土器片40点（深鉢37、浅鉢３）、石器１点（安山岩製磨石）が出土している。縄文土器片の時期は、早期４点、前期３点、中期33点で、早・前期の土器片は混入したものである。３はＰ４の覆土中層から出土している。

所見　時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。



土層解説

1	10YR2/2	黒褐	ローム小Ｃ・粒Ｂ、炭化物Ｄ／粘Ｂ、締Ｂ
2	10YR3/2	黒褐	ローム中Ｂ・小Ｃ・粒Ｃ／粘Ｂ、締Ｂ
3	10YR3/2	黒褐	ローム中Ｄ・小Ｄ・粒Ｃ／粘Ｂ、締Ｂ
4	10YR2/3	黒褐	ローム小Ｂ・粒Ｃ／粘Ｂ、締Ｃ
5	10YR3/4	暗褐	ローム小Ｂ・粒Ｂ／粘Ｂ、締Ｂ
6	10YR4/4	褐	ローム小Ｂ／粘Ｂ、締Ｂ
7	10YR2/3	黒褐	ローム小Ｃ・粒Ｂ／粘Ｂ、締Ｂ
8	10YR4/3	にぶい黄褐	ローム小Ｃ・粒Ｃ／粘Ｂ、締Ｂ

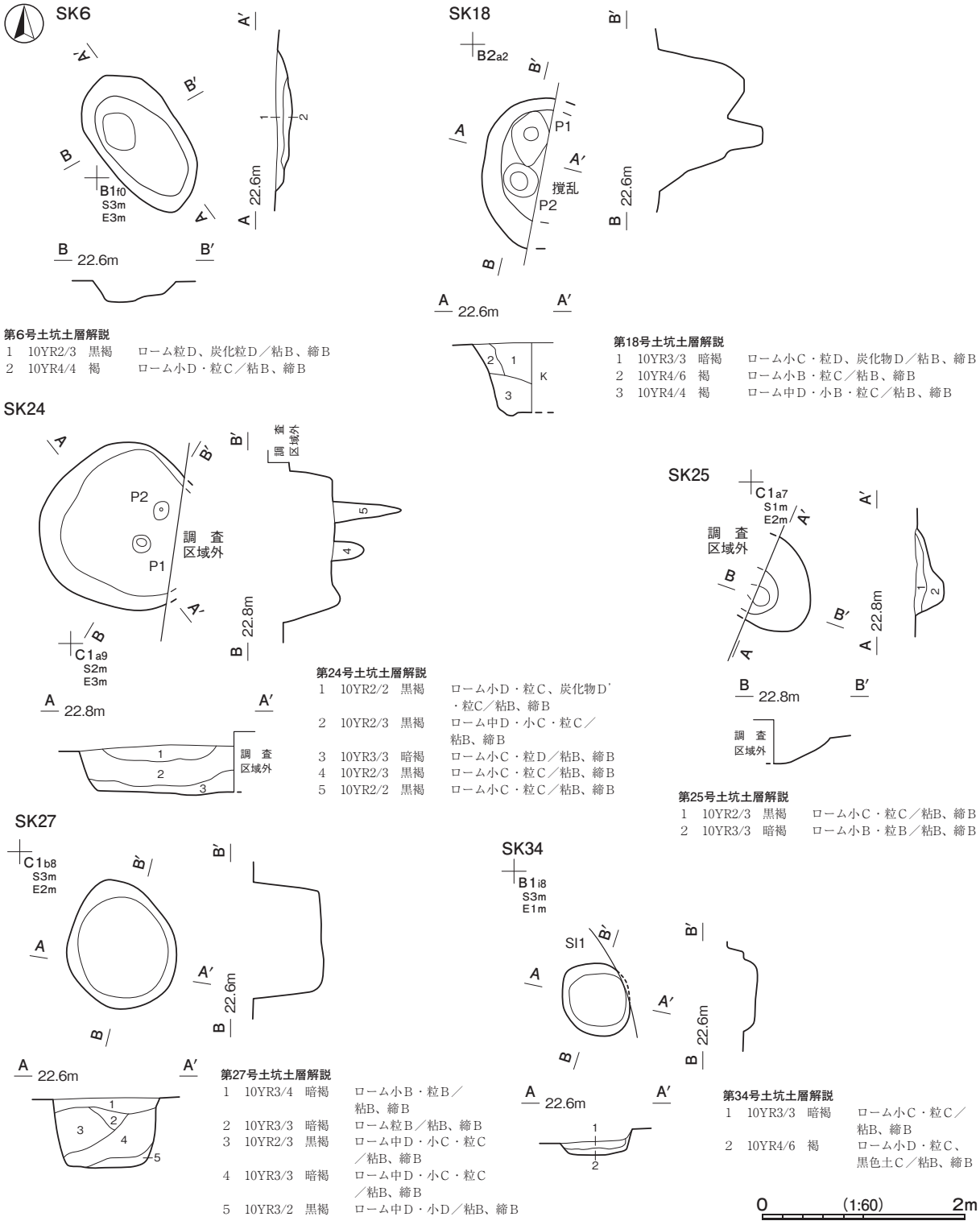


第17図　第58号土坑・出土遺物実測図

第 11 表　第 58 号土坑出土遺物一覧（第 17 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	特　　徴	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(5.3)	－	長石・石英・雲母	橙	普通	隆帯貼付　単節 RL 縄文施文後隆帯脇沈線	覆土	5％　PL 3
2	縄文土器	深鉢	－	(4.1)	－	長石・石英・雲母・黒色粒子	暗褐	普通	口唇部隆帯貼付　口縁部内外面横位ナデ	覆土	5％

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量 (g)	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
3	磨石	8.4	6.8	4.8	489.65	安山岩	全面研磨　両面凹痕　側面敲打痕　敲石兼用	P 4 覆土中層	PL 3



第6号土坑土層解説

1　10YR2/3　黒褐　　ローム粒D、炭化粒D／粘B、締B
2　10YR4/4　褐　　ローム小D・粒C／粘B、締B

第18号土坑土層解説

1　10YR3/3　暗褐　　ローム小C・粒D、炭化物D／粘B、締B
2　10YR4/6　褐　　ローム小B・粒C／粘B、締B
3　10YR4/4　褐　　ローム中D・小B・粒C／粘B、締B

第24号土坑土層解説

1　10YR2/2　黒褐　　ローム小D・粒C、炭化物D'・粒C／粘B、締B
2　10YR2/3　黒褐　　ローム中D・小C・粒C／粘B、締B
3　10YR3/3　暗褐　　ローム小C・粒D／粘B、締B
4　10YR2/3　黒褐　　ローム小C・粒C／粘B、締B
5　10YR2/2　黒褐　　ローム小C・粒C／粘B、締B

第25号土坑土層解説

1　10YR2/3　黒褐　　ローム小C・粒C／粘B、締B
2　10YR3/3　暗褐　　ローム小B・粒B／粘B、締B

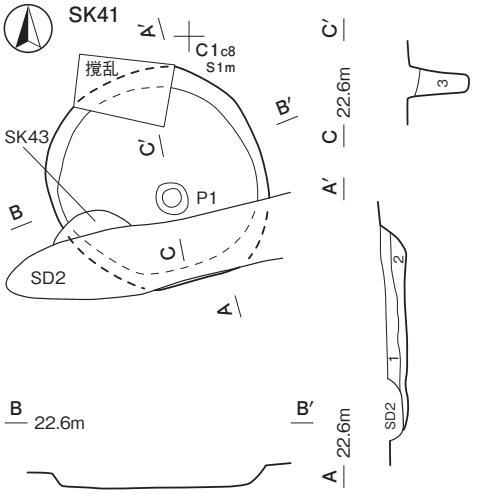
第27号土坑土層解説

1　10YR3/4　暗褐　　ローム小B・粒B／粘B、締B
2　10YR3/3　暗褐　　ローム粒B／粘B、締B
3　10YR2/3　黒褐　　ローム中D・小C・粒C／粘B、締B
4　10YR3/3　暗褐　　ローム中D・小C・粒C／粘B、締B
5　10YR3/2　黒褐　　ローム中D・小D／粘B、締B

第34号土坑土層解説

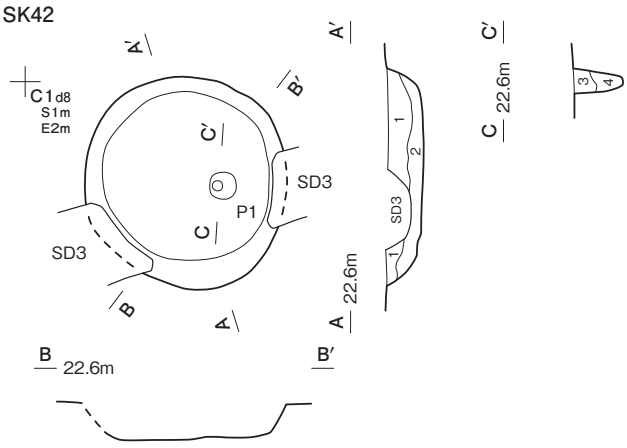
1　10YR3/3　暗褐　　ローム小C・粒C／粘B、締B
2　10YR4/6　褐　　ローム小D・粒C、黒色土C／粘B、締B

第 18 図　縄文時代土坑実測図（1）



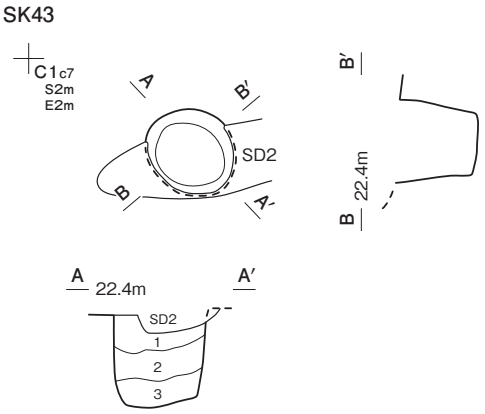
第41号土坑土層解説

1　10YR2/2　黒褐　　ローム小D・粒C、焼土粒D、炭化粒C／粘B、締B
2　10YR3/3　暗褐　　ローム小C・粒D／粘B、締B
3　10YR4/3　にぶい黄褐　ローム小C・粒C／粘B、締B



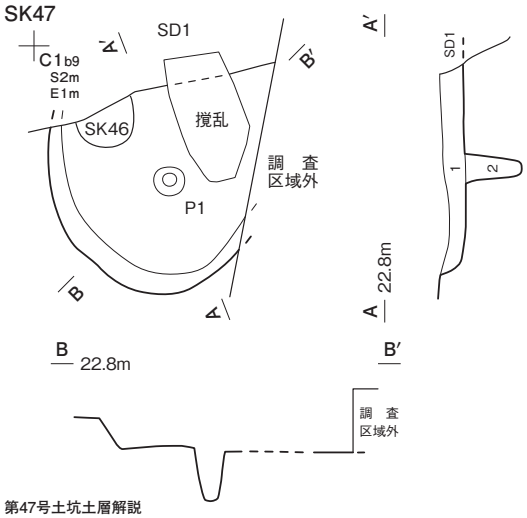
第42号土坑土層解説

1　10YR3/4　暗褐　　ローム小C・粒C、炭化粒C／粘B、締B
2　10YR3/3　暗褐　　ローム中C・小D・粒D／粘B、締B
3　10YR3/3　暗褐　　ローム小C・粒C／粘B、締B
4　10YR3/4　暗褐　　ローム小C／粘B、締B



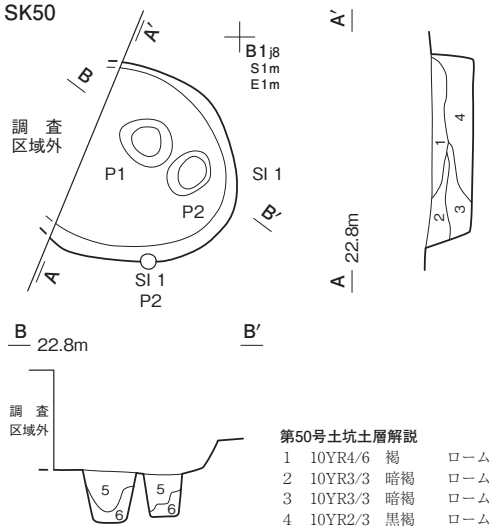
第43号土坑土層解説

1　10YR2/3　黒褐　　ローム小C・粒B、炭化粒D／粘B、締C
2　10YR2/2　暗褐　　ローム小C・粒B、炭化粒D／粘B、締B
3　10YR3/4　暗褐　　ローム小C・粒C、炭化粒D／粘B、締B



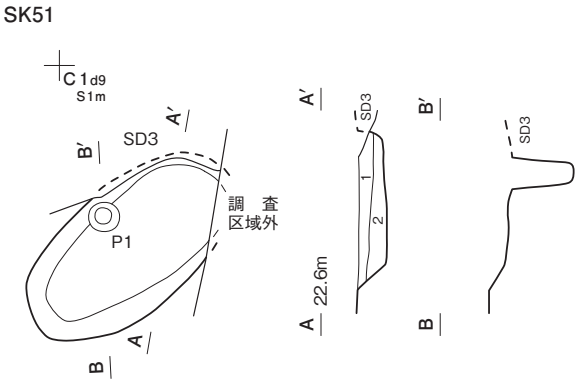
第47号土坑土層解説

1　10YR2/3　黒褐　　ローム小C・粒B、炭化物D／粘B、締B
2　10YR2/3　黒褐　　ローム粒C／粘B、締B



第50号土坑土層解説

1　10YR4/6　褐　　ローム中B・小B・粒C／粘B、締A
2　10YR3/3　暗褐　　ローム小C・粒D、炭化粒D／粘B、締B
3　10YR3/3　暗褐　　ローム大D・小C・粒D／粘B、締B
4　10YR2/3　黒褐　　ローム中D・小D、炭化粒D／粘B、締B
5　10YR2/3　黒褐　　ローム粒D、炭化粒D／粘B、締C
6　10YR3/3　暗褐　　ローム粒D／粘B、締B

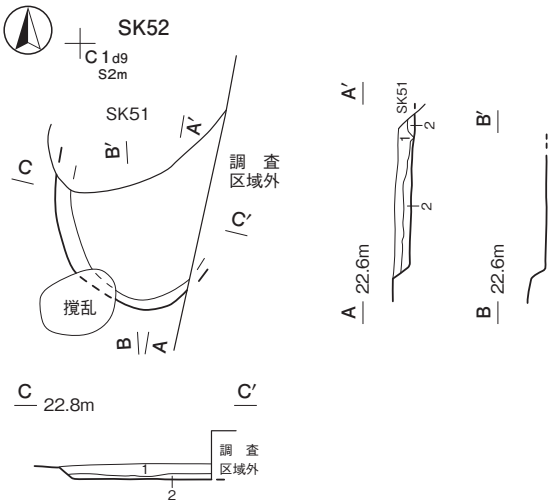


第51号土坑土層解説

1　10YR3/3　暗褐　　ローム小C・粒B、炭化粒D／粘B、締B
2　10YR2/3　黒褐　　ローム小B・粒B／粘B、締B

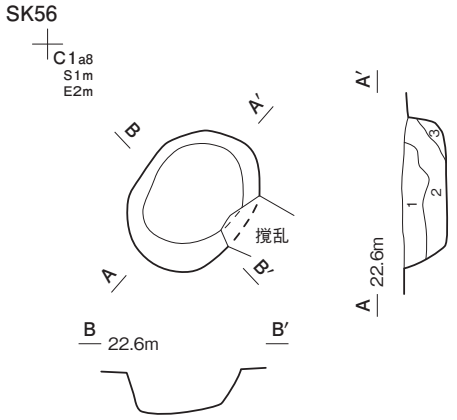
0　(1:60)　2m

第 19 図　縄文時代土坑実測図（2）



第52号土坑土層解説

1　10YR3/4　暗褐　　ローム小C／粘B、締B
2　10YR4/4　褐　　ローム粒D、黒色土C／粘B、締B



第56号土坑土層解説

1　5YR3/4　暗赤褐　ローム粒C、焼土中C・小B・粒B、炭化粒D／粘B、締B
2　10YR3/4　暗褐　ローム小D・粒C、焼土粒C／粘B、締B
3　10YR2/3　黒褐　ローム小C・粒C／粘B、締B

0　(1:60)　2m

第 20 図　縄文時代土坑出土遺物実測図（3）

第 12 表　縄文時代土坑一覧

番号	位置	長径方向	平面形	規模 長径×短径（m）	規模 深さ（cm）	壁面	底面	覆土	主な出土遺物	時期	備考
6	B 1 f0	N－27°－W	楕円形	1.52 × 0.83	20	外傾	凹凸	人為	縄文土器	中期後葉	
17	B 1 g0	N－14°－E	［楕円形］	2.74 × (0.86)	46	外傾	平坦	人為	縄文土器、石器	中期後葉	
18	B 2 a2	N－11°－E	［楕円形］	1.50 × (0.60)	101	外傾	有段 ピット2	人為	縄文土器	中期後葉	
23	B 1 h0	－	円形	2.65 × 2.55	43	外傾	平坦 ピット1	人為	縄文土器	中期後葉	
24	C 1 a9	N－6°－W	［円形・ 楕円形］	1.67 × (1.40)	55	外傾	平坦 ピット2	人為	縄文土器、石器	中期後葉	
25	C 1 a7	N－23°－E	［円形・ 楕円形］	0.88 × (0.52)	28	外傾	皿状	人為	縄文土器	中期後葉	
27	C 1 b8	N－15°－W	楕円形	1.29 × 1.08	70	外傾・ 直立	平坦	人為	縄文土器、石器	中期後葉	
30	C 1 c8	N－26°－E	［楕円形］	[2.27] × 2.09	46	外傾・ 直立	平坦 ピット4	人為	縄文土器	中期後葉	本跡→SD 2
34	B 1 j8	N－3°－W	楕円形	0.65 × 0.58	24	外傾	平坦	人為	縄文土器	中期後葉	SK49→本跡 →SI 1、SK48
38	C 1 c8	N－47°－W	楕円形	2.01 × 1.78	35	外傾	平坦 ピット1	人為	縄文土器、石器	中期後葉	本跡→SD 2
40	B 1 j9	N－24°－W	楕円形	3.40 × 2.98	66	外傾・ 直立	凹凸 ピット1	人為	縄文土器	中期後葉	本跡→SK39、 PG 2 P 1
41	C 1 c7	－	円形	1.77 × 1.75	17	外傾	平坦 ピット1	人為	縄文土器	中期後葉	本跡→SK43、 SD 2
42	C 1 d8	－	円形	1.72 × 1.60	28	外傾	平坦 ピット1	人為	縄文土器	中期後葉	本跡→SD 3
43	C 1 c7	N－43°－W	楕円形	0.78 × 0.58	82	直立	平坦	人為	縄文土器、石器	中期後葉	SK41→本跡 →SD 2
47	C 1 b9	N－5°－E	［楕円形］	(1.90) × (1.00)	22	外傾	平坦 ピット1	人為	縄文土器、石器	中期後葉	本跡→SK46、 SD 1
49	B 1 i8	N－36°－E	楕円形	1.93 × 1.64	62	外傾・ 直立	平坦 ピット2	人為	縄文土器、石器	中期後葉	本跡→SI 1、 SK34・48
50	B 1 j8	N－21°－E	［円形・ 楕円形］	1.54 × (1.25)	28	外傾・ 直立	平坦 ピット2	人為	縄文土器	中期後葉	本跡→SI 1
51	C 1 d9	N－41°－E	［楕円形］	1.92 × [1.00]	22	外傾	平坦 ピット1	人為	縄文土器	中期後葉	SK52→本跡 →SD 3
52	C 1 d9	N－22°－E	［楕円形］	(1.45) × (1.22)	13	外傾	平坦	人為		中期後葉	本跡→SK51
54	B 1 j8	－	円形	1.89 × 1.82	62	直立・ 内彎	平坦 ピット2	人為	縄文土器、石器	中期後葉	
56	C 1 a8	N－41°－E	楕円形	1.20 × 0.89	35	外傾	平坦	人為	縄文土器、石器	中期後葉	SK57→本跡
57	C 1 a8	－	円形	2.74 × 2.69	42	外傾	平坦 ピット2	人為	縄文土器、石器	中期後葉	本跡→SI 4、 SK56
58	C 1 a9	N－49°－W	［楕円形］	2.02 × 1.80	56	外傾	平坦 ピット4	人為	縄文土器、石器	中期後葉	本跡→SI 4

2　古墳時代の遺構と遺物

竪穴建物跡１棟、土坑１基、不明遺構１基を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

(1) 竪穴建物跡

第４号竪穴建物跡（第 21・22 図　第 13 表　PL １・４）

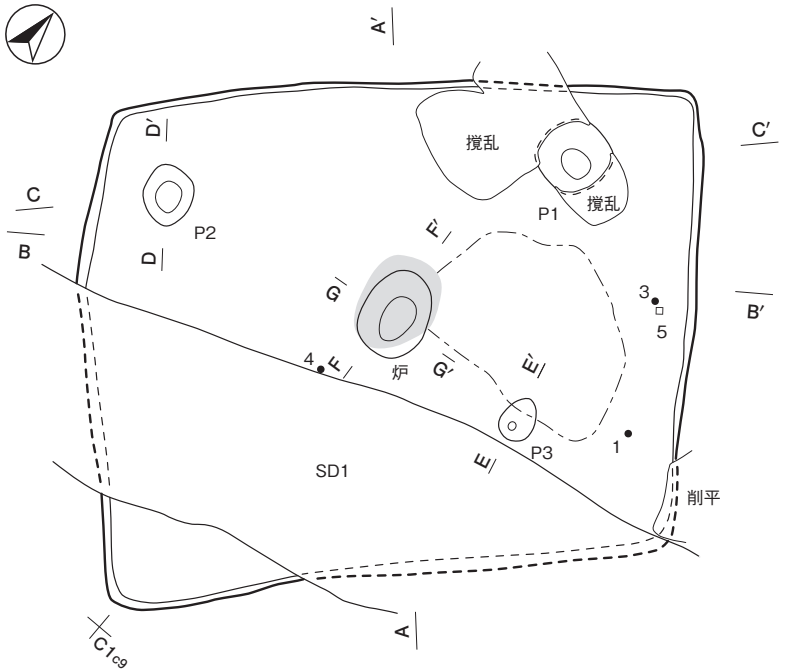
位置　調査区中央部のＣ１b9 区、標高約 22 ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 53・55・57 ～ 59 号土坑を掘り込み、第１号溝に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 4.88 ｍ、短軸 4.04 ｍの長方形で、主軸方向はＮ－ 51°－Ｅである。壁は高さ５～９㎝で、外傾している。

床　炉から西コーナー部付近に向かってやや下り傾斜しており、５㎝ほどの高低差がある。炉と東壁の間が楕円形状に硬化している。

炉　中央部に位置している。長径 84㎝、短径 60㎝の楕円形で、深さ８㎝ほどの浅い皿状を呈した地床炉である。



土層解説

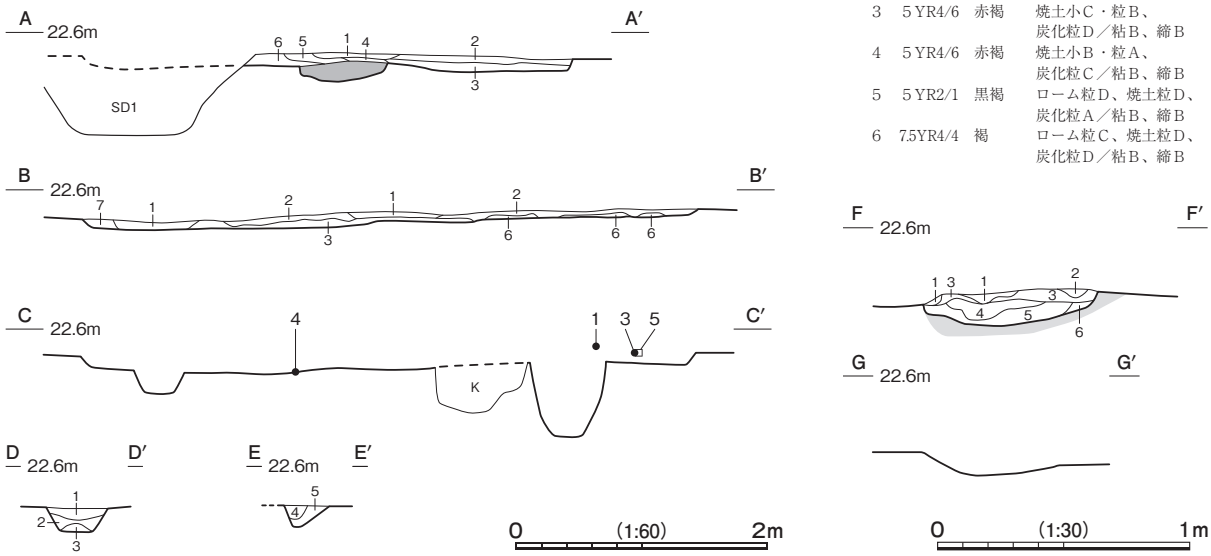
1	7.5YR3/3	暗褐	ローム粒Ｃ、焼土粒Ｃ、炭化粒Ｄ／粘Ｂ、締Ｂ
2	10YR3/3	暗褐	ローム小Ｃ・粒Ｃ／粘Ｂ、締Ｂ
3	7.5YR4/6	褐	ローム粒Ｃ、焼土粒Ｃ、炭化粒Ｃ／粘Ｂ、締Ｂ
4	5YR3/6	暗赤褐	焼土小Ａ・粒Ａ、炭化粒Ｄ／粘Ｂ、締Ｂ
5	7.5YR3/4	暗褐	ローム粒Ｃ、焼土粒Ｃ、炭化粒Ｄ／粘Ｂ、締Ｂ
6	10YR4/3	にぶい黄褐	ローム小Ｃ・粒Ｃ／粘Ｂ、締Ｂ
7	10YR4/6	褐	ローム粒Ｃ、炭化粒Ｄ／粘Ｂ、締Ｂ

ピット土層解説

1	10YR3/4	暗褐	ローム小Ｃ・粒Ｄ／粘Ｂ、締Ｂ
2	10YR3/4	暗褐	ローム小Ｃ・粒Ｃ、炭化物Ｄ／粘Ｂ、締Ｂ
3	10YR4/6	褐	ローム小Ｂ・粒Ｂ／粘Ｂ、締Ｂ
4	10YR3/4	暗褐	ローム小Ｂ・粒Ｃ／粘Ｂ、締Ｂ
5	10YR4/4	暗褐	ローム小Ｂ・粒Ｂ／粘Ｂ、締Ｂ

炉土層解説

1	5YR2/2	黒褐	焼土粒Ｄ、炭化粒Ｄ／粘Ｂ、締Ｂ
2	5YR4/3	にぶい赤褐	焼土粒Ｃ、炭化粒Ｄ／粘Ｂ、締Ｂ
3	5YR4/6	赤褐	焼土小Ｃ・粒Ｂ、炭化粒Ｄ／粘Ｂ、締Ｂ
4	5YR4/6	赤褐	焼土小Ｂ・粒Ａ、炭化粒Ｃ／粘Ｂ、締Ｂ
5	5YR2/1	黒褐	ローム粒Ｄ、焼土粒Ｄ、炭化粒Ａ／粘Ｂ、締Ｂ
6	7.5YR4/4	褐	ローム粒Ｃ、焼土粒Ｄ、炭化粒Ｄ／粘Ｂ、締Ｂ



第 21 図　第１号竪穴建物跡実測図（1）

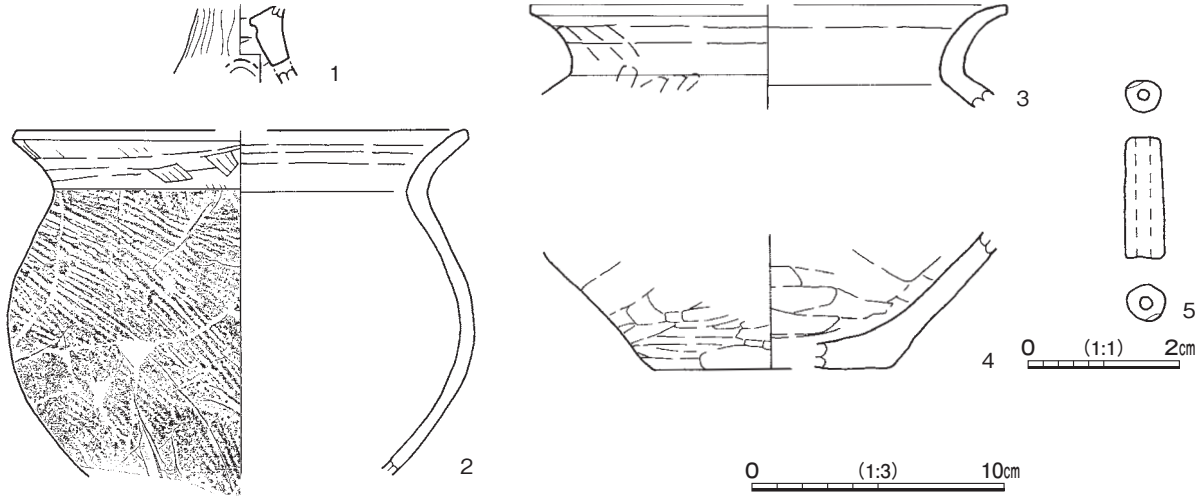
炉床面は赤変硬化している。

ピット　３か所。Ｐ１・Ｐ２は深さ56cm・18cmで、主柱穴と考えられる。Ｐ３は径36cm、深さ18cmで、性格は不明である。

覆土　７層に分層できる。不自然な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況　土師器片60点（器台１、甕59）、石製品１点（緑色凝灰岩製管玉）が出土している。ほかに混入した縄文土器片73点、石器４点、礫２点、剥片４点が出土している。１は東部、３・５は北東壁際の覆土下層から、４は中央部の床面から、それぞれ出土している。

所見　時期は、出土土器から前期後葉と考えられる。



第22図　第４号竪穴建物跡出土遺物実測図

第13表　第４号竪穴建物跡出土遺物一覧（第22図）

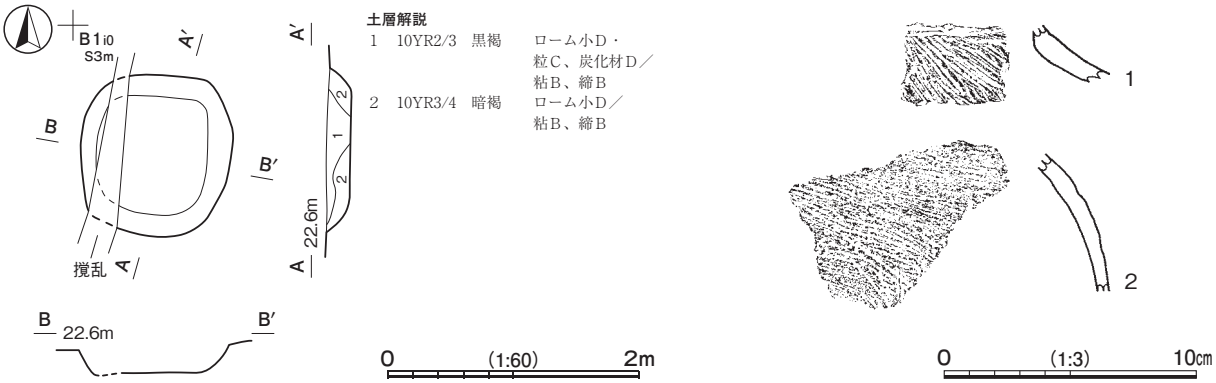
番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	特　　徴	出土位置	備　考
1	土師器	器台	－	(3.0)	－	長石・石英・赤色粒子・細礫	明赤褐	普通	外面縦位ヘラ磨き　内面横位ヘラナデ　脚部三方円形透かし	覆土下層	10%　PL 4
2	土師器	甕	[17.7]	(13.6)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面斜位ハケ目後横位ナデ　体部外面斜位叩き　内面横位ナデ	覆土	60%　PL 4
3	土師器	甕	[19.0]	(4.1)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面斜位・体部外面縦位ヘラナデ　内面横位ナデ	覆土下層	5％
4	土師器	甕	－	(4.9)	[9.2]	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部横位ヘラナデ　底部外面ヘラ削り後ヘラナデ	床面	10%

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
5	管玉	2.4	0.7～0.8	0.6～0.7	2.08	緑色凝灰岩	全面研磨　一方からの穿孔　孔径：上面0.3cm、下面0.25cm	覆土下層	PL 4

（2）土坑

第３号土坑（第23図　第14表　PL 4）

位置　調査区中央部のＢ１j0区、標高約22ｍの台地平坦部に位置している。



第23図　第３号土坑・出土遺物実測図

規模と形状　長軸1.29ｍ、短軸1.20ｍの隅丸方形である。深さは20㎝で、底面は平坦である。壁は外傾している。

覆土　２層に分層できる。不自然な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況　土師器片４点（壺１、甕３）が出土している。ほかに混入した縄文土器片９点が出土している。

所見　時期は、出土土器から前期後葉と考えられる。

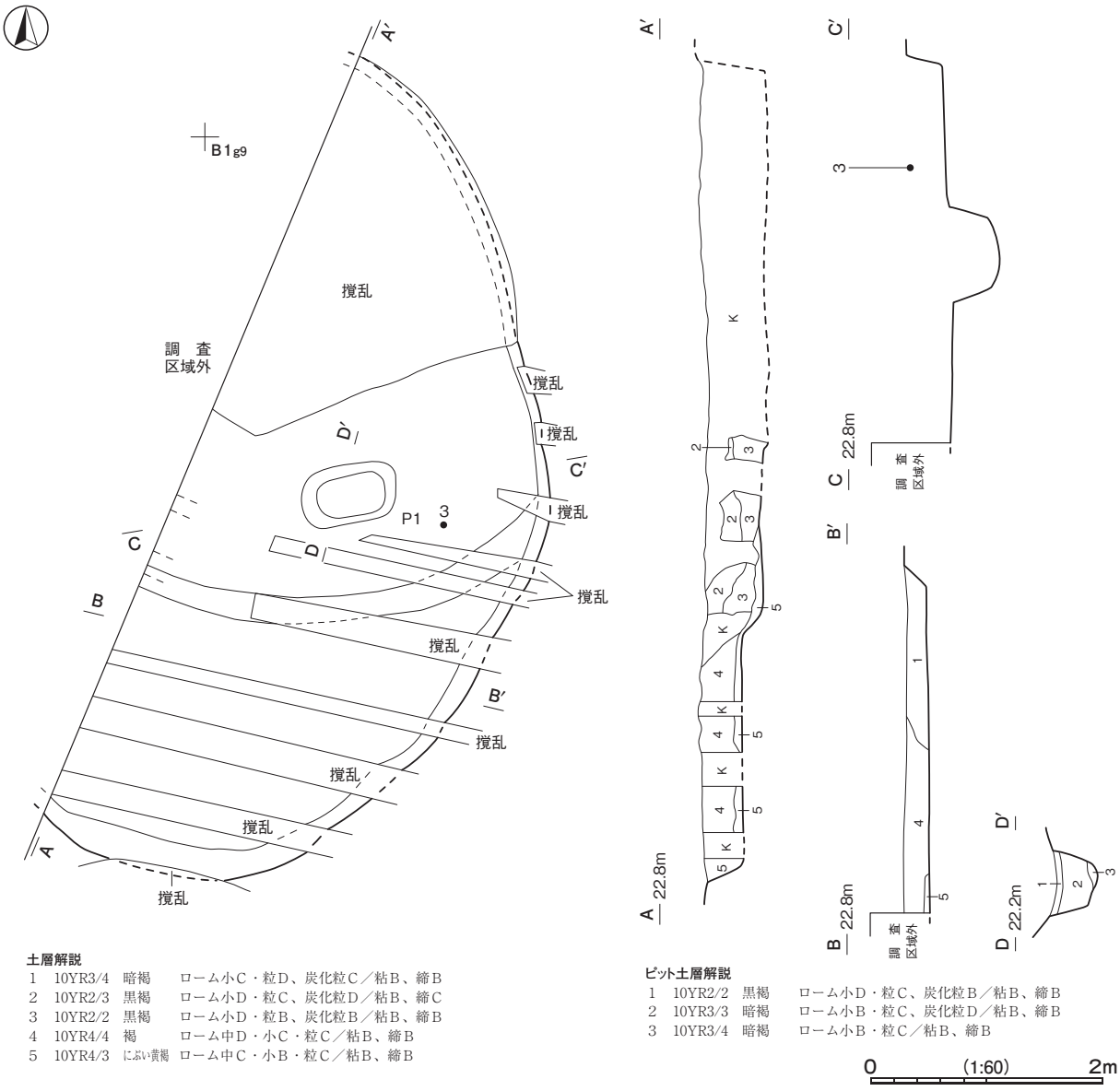
第14表　第３号土坑出土遺物一覧（第23図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	特　　徴	出土位置	備　考
1	土師器	壺	－	(22)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	頸部外面横位沈線　内面ナデ　体部外面ハケ目　内面ヘラナデ	覆土	５％　PL４
2	土師器	甕	－	(54)	－	長石・石英・赤色粒子	黒褐	普通	体部外面ハケ目　内面ヘラナデ	覆土	５％

（3）不明遺構

第１号不明遺構（第24・25図　第15表　PL ２・４）

位置　調査区中央部のＢ１h9区、標高約22ｍの台地平坦部に位置している。



第24図　第１号不明遺構実測図

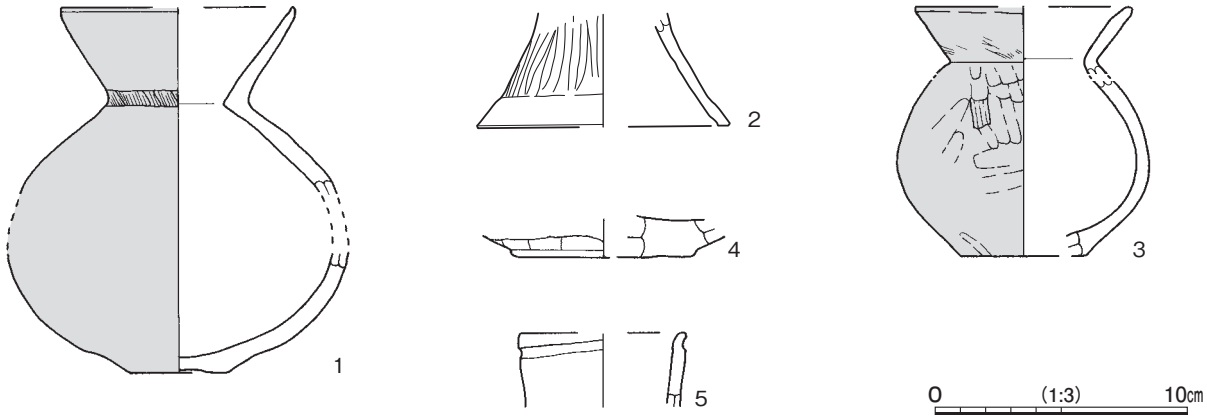
規模と形状　西半部が調査区域外で、北部が撹乱のため、確認できた規模は長径 5.75 m、短径 3.07 mで、楕円形と推定できる。深さは南部が 35㎝、中央部が 50㎝で、底面は有段である。壁は外傾している。

ピット　中央部やや北寄りに位置している。長径 83㎝、短径 50㎝の楕円形である。深さは 40㎝で、底面は平坦で、硬化している範囲は確認できなかった。壁は外傾している。性格は不明である。

覆土　５層に分層できる。不自然な堆積状況から、人為堆積である。

遺物出土状況　土師器片 83 点（坏２、高坏２、壺 42、甕 35、ミニチュアｶ２）が出土している。ほかに混入した縄文土器片 103 点、須恵器片１点、陶器片１点、石器 12 点が出土している。３は東部の覆土上層から出土している。

所見　時期は、出土土器から前期後葉と考えられる。性格は不明である。



第 25 図　第１号不明遺構出土遺物実測図

第 15 表　第１号不明遺構出土遺物一覧（第 25 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	特　　徴	出土位置	備　考
1	土師器	壺	[9.0]	[14.4]	3.9	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外面横位ヘラナデ　頸部・体部外面縦位ハケ目後ヘラナデ　外面赤彩	覆土	30%　PL 4
2	土師器	高坏	－	(4.5)	[10.0]	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口唇端部ヘラナデ　体部外面縦位ヘラ磨き	覆土	10%　PL 4
3	土師器	壺	[8.2]	(9.8)	[5.0]	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外面下部横位ヘラナデ　上部ハケ目後縦位ヘラナデ　外面赤彩	覆土上層	30%　PL 4
4	土師器	甕	－	(1.6)	[7.2]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面下端ヘラ削り後斜位ハケ目　底部外面ナデ	覆土	５％
5	土師器	ﾐﾆﾁｭｱ土器ｶ	[6.4]	(2.9)	－	長石・石英・角閃石	にぶい橙	普通	口縁部横位ナデ　体部外面縦位ナデ　口縁部外面横位沈線１条　垂下沈線２条以上	覆土	10%　PL 4

３　平安時代の遺構と遺物

竪穴建物跡２棟、土坑４基を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

（1）竪穴建物跡

第２号竪穴建物跡（第 26 図　第 16 表　PL １・４）

位置　調査区北部のＡ２i2 区、標高約 22 mの台地平坦部に位置している。

規模と形状　東部と西部が調査区域外のため、確認できた規模は南北軸 3.75 m、東西軸 1.65 mである。平面形は、方形や長方形と推定でき、主軸方向はＮ－ 13°－Ｅである。壁は高さ 27㎝で、外傾している。

床　確認できた床は、ほぼ平坦で、壁際を除く中央部が硬化している。

竈　北壁に位置している。大きく撹乱を受けており、右袖と火床部の一部が遺存している。火床面はロームブ

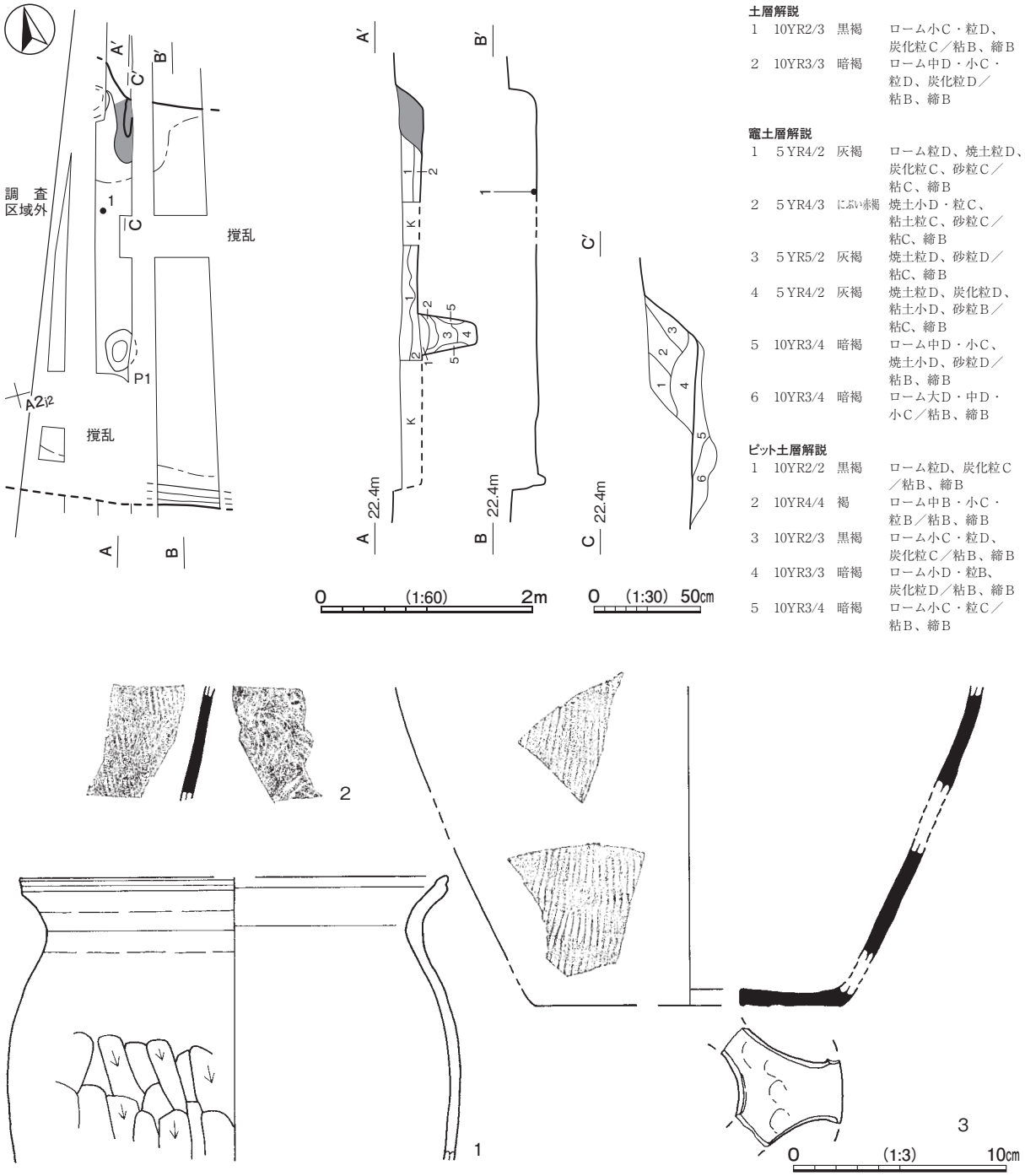
ロックと砂粒を含む第５・６層を埋土して構築している。袖部は砂質粘土粒子が主体で、第４層を基部とし、その上に第１～３層を奥壁からブロック状に貼り付けて構築している。

ピット　Ｐ１は中央部の南寄りに位置している。深さ56㎝で､配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　２層に分層できる。周囲からの流入を示す堆積状況から、自然堆積である。

遺物出土状況　土師器片33点（坏３、甕30)、須恵器４点（甕ヵ１、甑３）が出土している。ほかに混入した縄文土器片15点、石器１点が出土している。１は中央部と竈前面の覆土下層から出土している。

所見　時期は、出土土器から９世紀後葉と考えられる。



第26図　第２号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 16 表　第２号竪穴建物跡出土遺物一覧（第 26 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	特　　徴	出土位置	備　考
1	土師器	甕	［20.0］	（13.3）	－	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横位ナデ　体部外面縦位ヘラ削り	覆土下層	20％　PL 4
2	須恵器	甕ヵ	－	（5.3）	－	長石	灰黄	普通	外面縦位平行叩き・自然釉　内面同心円状の当て具痕	覆土	５％　PL 4
3	須恵器	甑	－	［15.1］	［14.4］	長石・石英・雲母	灰	普通	体部外面縦位平行叩き　内面ナデ　底部外面指頭痕　５孔式	覆土	５％　PL 4

第３号竪穴建物跡（第 27・28 図　第 17 表　PL １・４）

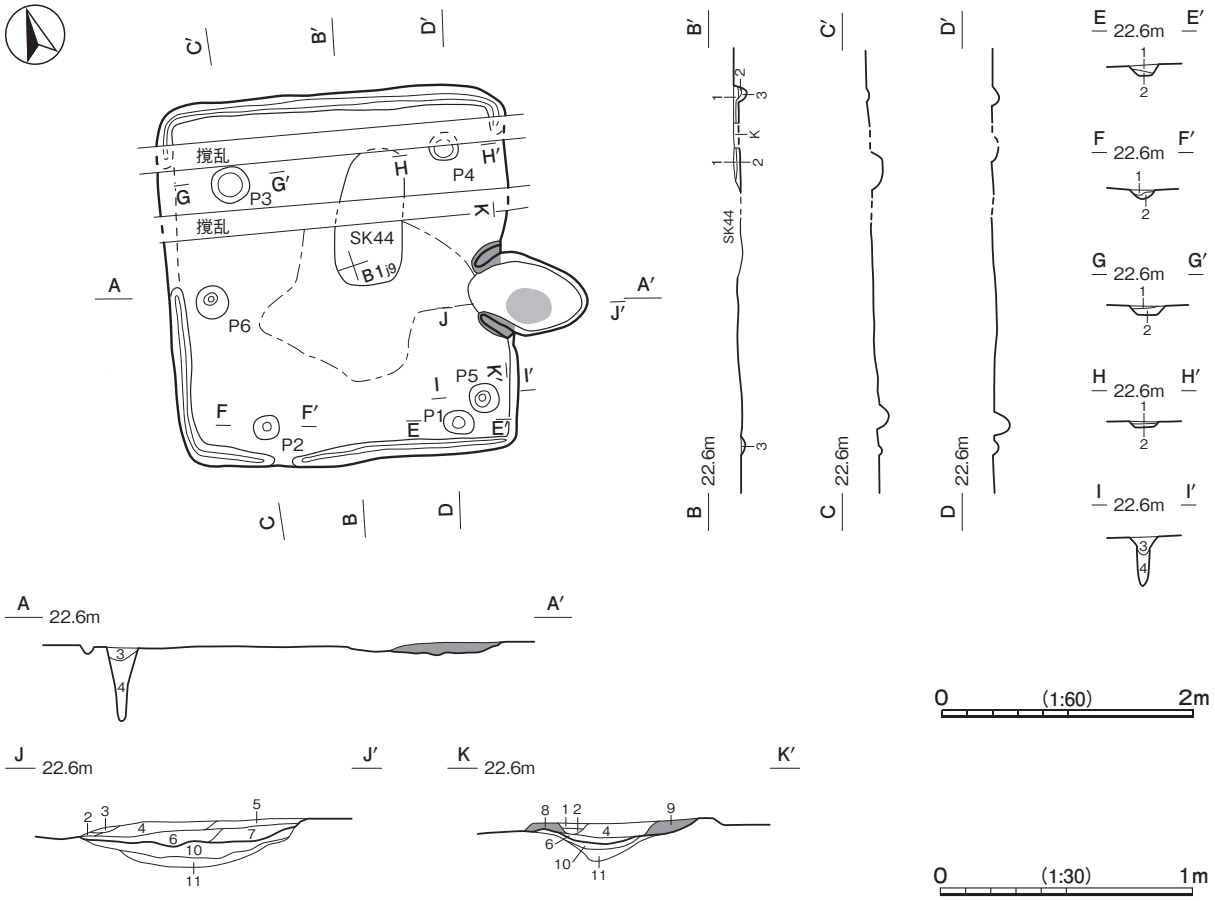
位置　調査区北部のＢ１j9 区、標高約 22 ｍの台地平坦部に位置している。

重複関係　第 44 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸 2.94 ｍ、短軸 2.72 ｍの方形で、主軸方向はＮ－ 104°－Ｅである。北壁から東壁にかけての一部の壁は高さ４～６㎝で、外傾している。

床　平坦で、竈前面から中央部にかけての狭い範囲が硬化している。東壁を除いて、壁溝が巡っている。

竈　東壁の中央部やや南寄りに位置している。規模は、焚口部から煙道部まで 96㎝で、燃焼部幅は 53㎝である。



土層解説

1　10YR2/3　黒褐　ローム粒Ｄ／粘Ｂ、締Ｂ
2　10YR3/4　暗褐　ローム小Ｄ・粒Ｃ／粘Ｂ、締Ｂ
3　10YR4/6　褐　ローム粒Ｂ／粘Ｂ、締Ｂ

ピット土層解説（各ピット共通）

1　10YR3/4　暗褐　ローム小Ｃ・粒Ｄ、炭化物Ｄ／粘Ｂ、締Ｂ
2　10YR4/4　褐　ローム小Ｂ・粒Ｃ、炭化物Ｄ／粘Ｂ、締Ｂ
3　10YR2/3　黒褐　ローム粒Ｄ、炭化粒Ｃ／粘Ｂ、締Ｂ
4　10YR3/4　暗褐　ローム小Ｂ・粒Ｃ／粘Ｂ、締Ｂ

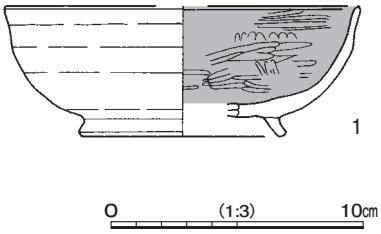
竈土層解説

1　7.5YR4/3　褐　ローム粒Ｄ、焼土粒Ｄ、粘土粒Ｄ、砂粒Ｄ／粘Ｂ、締Ｂ
2　５YR4/2　灰褐　焼土粒Ｄ、粘土粒Ｄ／粘Ｂ、締Ｂ
3　５YR3/3　暗赤褐　ローム粒Ｄ、焼土小Ｄ・粒Ｃ、粘土粒Ｃ／粘Ｂ、締Ｂ
4　５YR2/2　黒褐　焼土粒Ｄ、炭化粒Ｄ、粘土粒Ｄ／粘Ｂ、締Ｂ
5　10YR4/3　にぶい黄褐　焼土粒Ｄ、粘土粒Ｄ／粘Ｂ、締Ｂ
6　５YR3/4　暗赤褐　ローム粒Ｄ、焼土小Ｄ・粒Ｃ、粘土粒Ｄ／粘Ｂ、締Ｂ
7　５YR3/6　暗赤褐　焼土小Ｄ・粒Ｂ／粘Ｂ、締Ｂ
8　５YR3/4　暗赤褐　ローム粒Ｄ、焼土小Ｄ・粒Ｃ、炭化粒Ｄ／粘Ｂ、締Ｂ
9　7.5YR4/2　灰褐　焼土粒Ｄ、粘土小Ｂ・粒Ｃ／粘Ａ、締Ｂ
10　５YR2/3　極暗赤褐　ローム小Ｃ・粒Ｃ、焼土粒Ｄ、炭化物Ｄ／粘Ｂ、締Ｂ
11　7.5YR4/4　褐　ローム小Ｂ・粒Ｂ／粘Ｂ、締Ｂ

第 27 図　第３号竪穴建物跡実測図

竈は地山を 15cmほど掘りくぼめ、第 10･11 層を埋土して整地している。袖部は、粘土ブロックを含んだ第８・９層を積み上げて構築している。火床部は楕円形を呈し、床面よりも若干くぼんでいる。火床面は第 10 層上面で、赤変硬化している。煙道部は壁外に 70cmほど張り出して、外傾している。

ピット　６か所。Ｐ１～Ｐ４は、深さ５～ 12cmで、深さはないが配置から主柱穴と考えられる。Ｐ５は深さ 38cmで、性格は不明である。Ｐ６は深さ 56cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。



覆土　３層に分層できる。層厚がなく、不明である。

遺物出土状況　土師器片 42 点(坏 20､甕 22)が出土している。ほかに混入した縄文土器片 10 点、石器２点が出土している。

所見　時期は、出土土器から 10 世紀中葉と考えられる。

第 28 図　第３号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 17 表　第３号竪穴建物跡出土遺物一覧（第 28 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	特　　徴	出土位置	備　考
1	土師器	坏	[13.9]	5.1	[7.8]	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ　内面ヘラ磨き・黒色処理	覆土	20%　PL 4

第 18 表　平安時代竪穴建物跡一覧

番号	位 置	主軸方向	平面形	規　模	壁 高	床面	壁溝	内　部　施　設					覆土	主な出土遺物	時　期	備　考
				長軸×短軸（m）	(cm)			主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
2	A 2 i2	N－13°－E	[方形・長方形]	3.75 × (1.65)	27	平坦	一部	－	1	－	北壁	－	自然	土師器	9 世紀後葉	
3	B 1 j9	N－104°－E	方　形	2.94 × 2.72	4～6	平坦	東壁除き全周	4	1	1	東壁	－	不明	土師器	10 世紀中葉	本跡→ SK44

(2) 土坑

第５号土坑（第 29 図　第 19 表　PL ４）

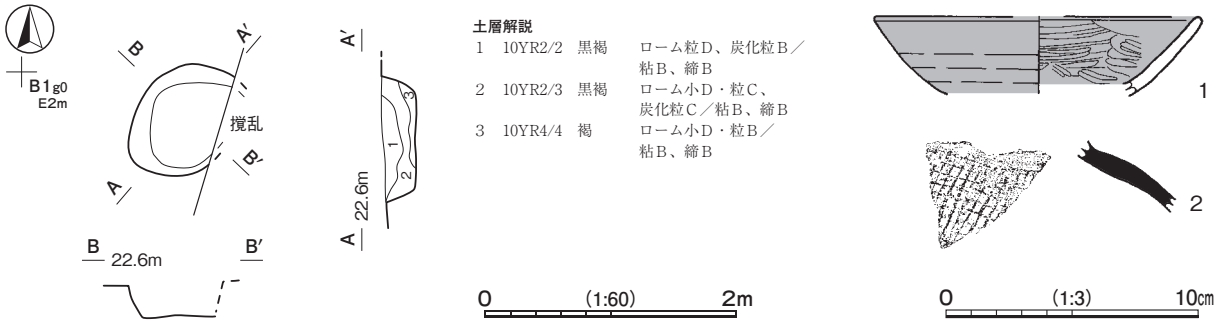
位置　調査区中央部のＢ１g0 区、標高約 22 ｍの台地平坦部に位置している。

規模と形状　東部が撹乱のため､確認できた規模は長径 1.04 ｍ､短径 0.73 ｍである｡平面形は楕円形と推定でき、長径方向はＮ－ 50°－Ｅである。深さは 27cmで、底面は若干の凹凸がある。壁は外傾している。

覆土　３層に分層できる。ロームブロックをやや多く含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況　土師器片６点（坏１、甕５）、須恵器１点（甕）が出土している。ほかに混入した縄文土器片１点出土している。

所見　時期は、出土土器から９世紀中葉と考えられる。



第 29 図　第５号土坑・出土遺物実測図

第 19 表　第５号土坑出土遺物一覧（第 29 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	特　　徴	出土位置	備　考
1	土師器	坏	[12.8]	[3.0]	－	長石・石英	褐灰	普通	外面ロクロナデ　内面ヘラ磨き　内外面黒色処理	覆土	10%
2	須恵器	甕	－	[4.8]	[7.4]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	外面斜位格子目叩き	覆土	５％　PL ４

第 19 号土坑（第 30 図　第 20 表　PL ４）

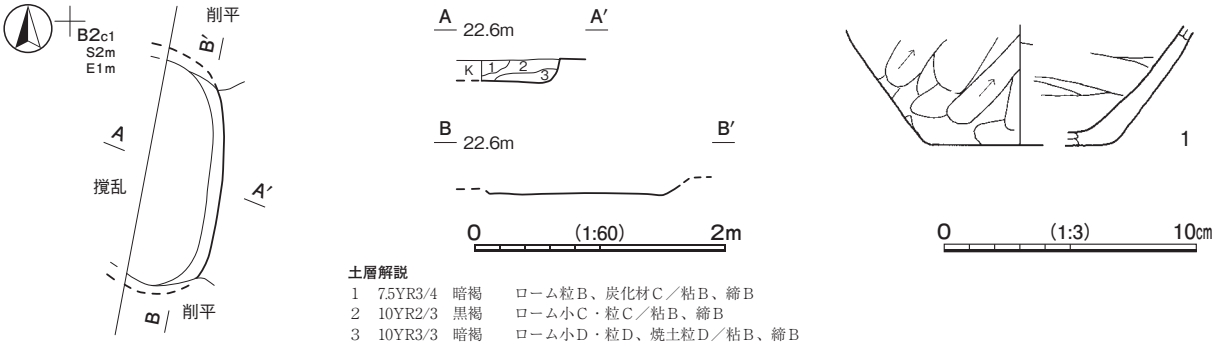
位置　調査区中央部のＢ２c1 区、標高約 22 ｍの台地平坦部に位置している。

規模と形状　北壁と南壁は削平され、西半部が撹乱のため、確認できた規模は長径 1.75 ｍ、短径 0.62 ｍである。平面形は楕円形と推定でき、長径方向はＮ－６°－Ｅである。深さは 18㎝で、底面は平坦である。壁は外傾している。

覆土　３層に分層できる。ロームブロックを含むことから、人為堆積である。

遺物出土状況　土師器片６点（甕）が覆土中から出土している。

所見　時期は、出土土器から９世紀代と考えられる。



第 30 図　第 19 号土坑・出土遺物実測図

第 20 表　第 19 号土坑出土遺物一覧（第 30 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	特　　徴	出土位置	備　考
1	土師器	甕	－	(4.8)	[7.4]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面斜位ヘラ削り　体部内面横位ヘラナデ　底部外面ヘラ削り後ナデ	覆土	５％　PL ４

第 35 号土坑（第 31 図　第 21 表　PL ４）

位置　調査区中央部のＢ１j8 区、標高約 22 ｍの台地平坦部に位置している。

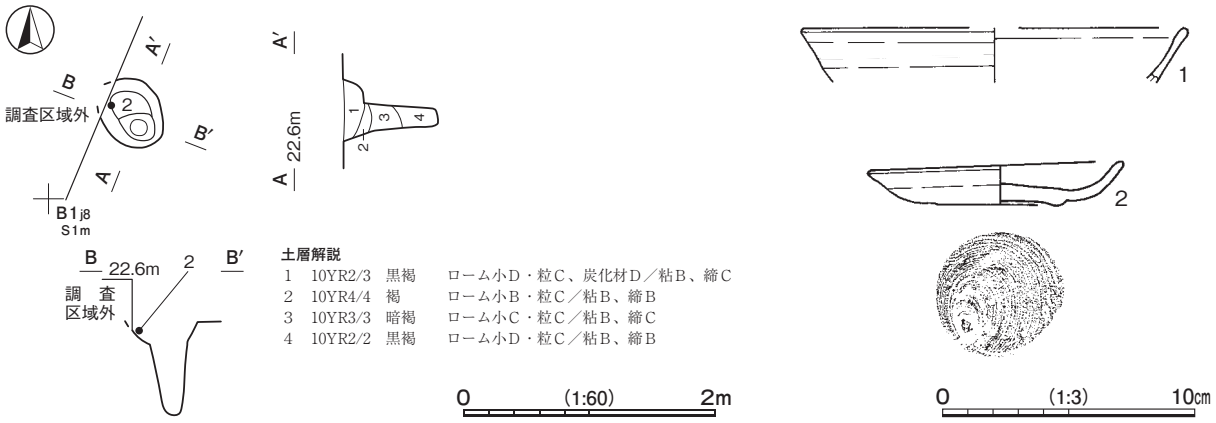
重複関係　第１号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　北西部が調査区域外のため、確認できた規模は長径 0.58 ｍ、短径 0.47 ｍである。平面形は楕円形と推定でき、長径方向はＮ－ 27°－Ｗである。深さは 16㎝で、底面はほぼ平坦であるが、南東壁際に径 20㎝、深さ 58㎝のピットを確認した。壁は外傾している。

覆土　４層に分層できる。水平に堆積する不自然な状況から、人為堆積である。

遺物出土状況　土師器片４点（坏１、皿３）が出土している。ほかに混入した縄文土器片２点出土している。

所見　時期は、出土土器から 10 世紀後葉と考えられる。



第 31 図　第 35 号土坑・出土遺物実測図

第 21 表　第 35 号土坑出土遺物一覧（第 31 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	特　　徴	出土位置	備　考
1	土師器	坏	［15.0］	(2.1)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	内外面ロクロナデ	覆土	5％
2	土師器	皿	9.9	1.7	5.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ　底部外面回転糸切り	覆土上層	80％　PL 4

第 48 号土坑（第 32・33 図　第 22 表　PL 4）

位置　調査区中央部のＢ１i8 区、標高約 22 ｍの台地平坦部に位置している。

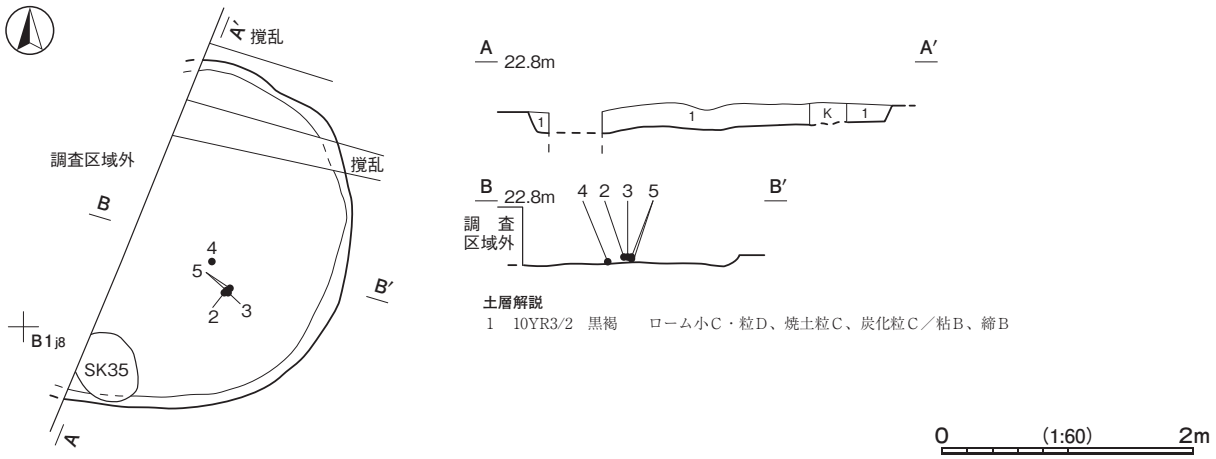
重複関係　第１号竪穴建物跡、第 34・49 号土坑を掘り込み、第 35 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　西部が調査区域外のため、確認できた規模は長径 2.88 ｍ、短径 1.72 ｍである。平面形は円形あるいは楕円形と推定でき、長径方向はＮ－ 20°－Ｅである。深さは 18㎝で、底面はやや凹凸がある。壁は外傾している。

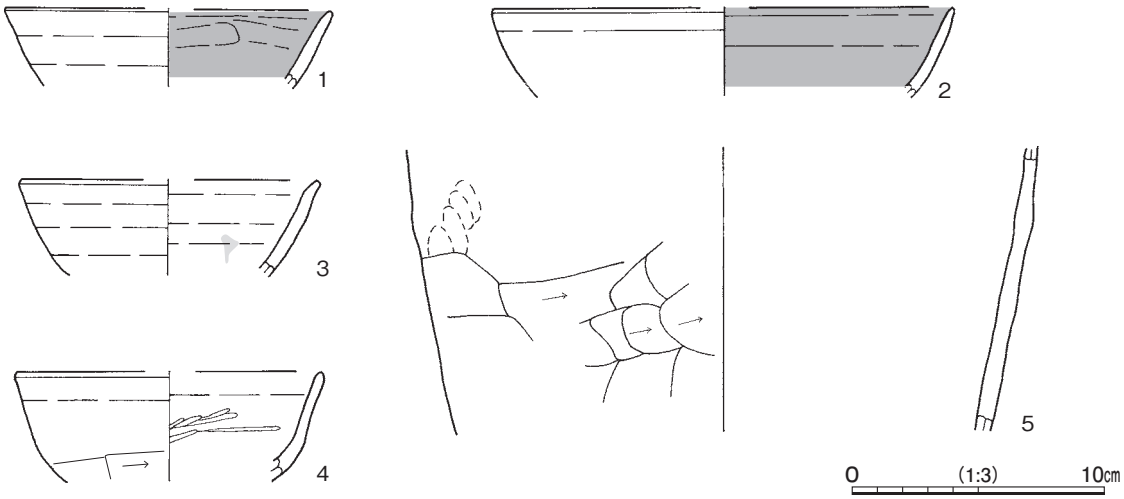
覆土　単一層のため、人為堆積の可能性が高い。

遺物出土状況　土師器片８点（坏５､甕３）が出土している。ほかに混入した縄文土器片２点が出土している。２～５は底面から出土している。

所見　時期は、出土土器から 10 世紀中葉と考えられる。



第 32 図　第 48 号土坑実測図



第 33 図　第 48 号土坑出土遺物実測図

第 22 表　第 48 号土坑出土遺物一覧（第 33 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	特　　徴	出土位置	備　考
1	土師器	坏	[12.8]	(3.0)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部・体部外面ロクロナデ　体部内面ヘラナデ・黒色処理	覆土	10%
2	土師器	坏	[18.2]	(3.5)	－	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	内外面ロクロナデ　体部内面ヘラナデ・黒色処理	底面	10%
3	土師器	坏	[11.6]	(3.7)	－	長石・石英・角閃石	にぶい黄橙	普通	内外面ロクロナデ　体部内面ヘラナデ・朱墨痕	底面	10%
4	土師器	坏	[12.0]	(4.3)	－	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	内外面ロクロナデ　体部外面ヘラ削り・内面ヘラ磨き	底面	20%
5	土師器	甕	－	(11.2)	－	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面横位ヘラ削り　指頭痕　内面横位ナデ	底面	10%　PL 4

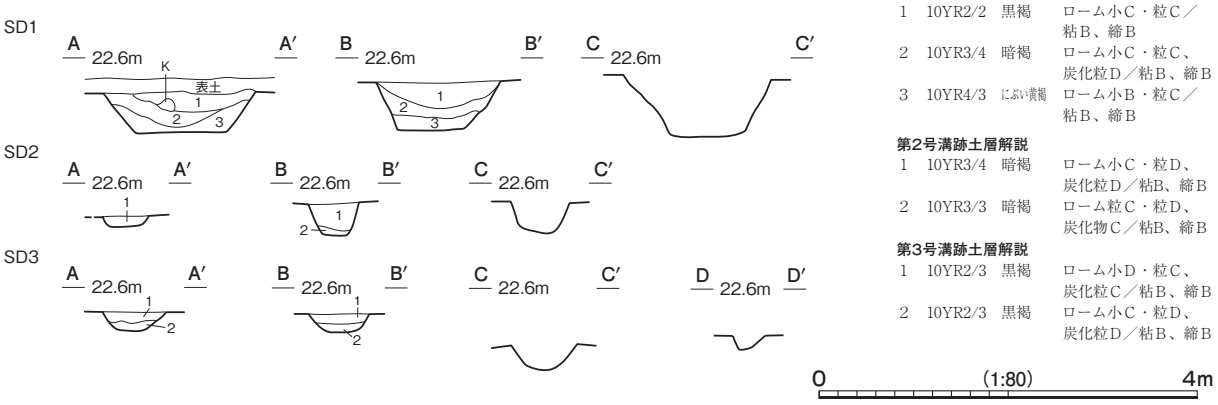
第 23 表　平安時代土坑一覧

番号	位 置	長径方向	平 面 形	規　模		壁　面	底　面	覆　土	主 な 出 土 遺 物	時　期	備　考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)						
5	B 1 g0	N － 50° － E	[楕円形]	1.04　×　0.73	27	外傾	凹凸	人為	土師器	9 世紀中葉	
19	B 2 c1	N － 6 ° － E	[楕円形]	[1.75]　×　(0.62)	18	外傾	平坦	人為	土師器	9 世紀代	
35	B 1 j8	N － 27° － W	楕円形	0.58　×　0.47	16	外傾	平坦	人為	土師器	10 世紀後葉	SI 1 →本跡
48	B 1 i8	N － 20° － E	[円形・楕円形]	2.88　×　(1.72)	18	外傾	凹凸	人為	土師器	10 世紀中葉	SI 1 、SK34･49 →本跡→ SK35

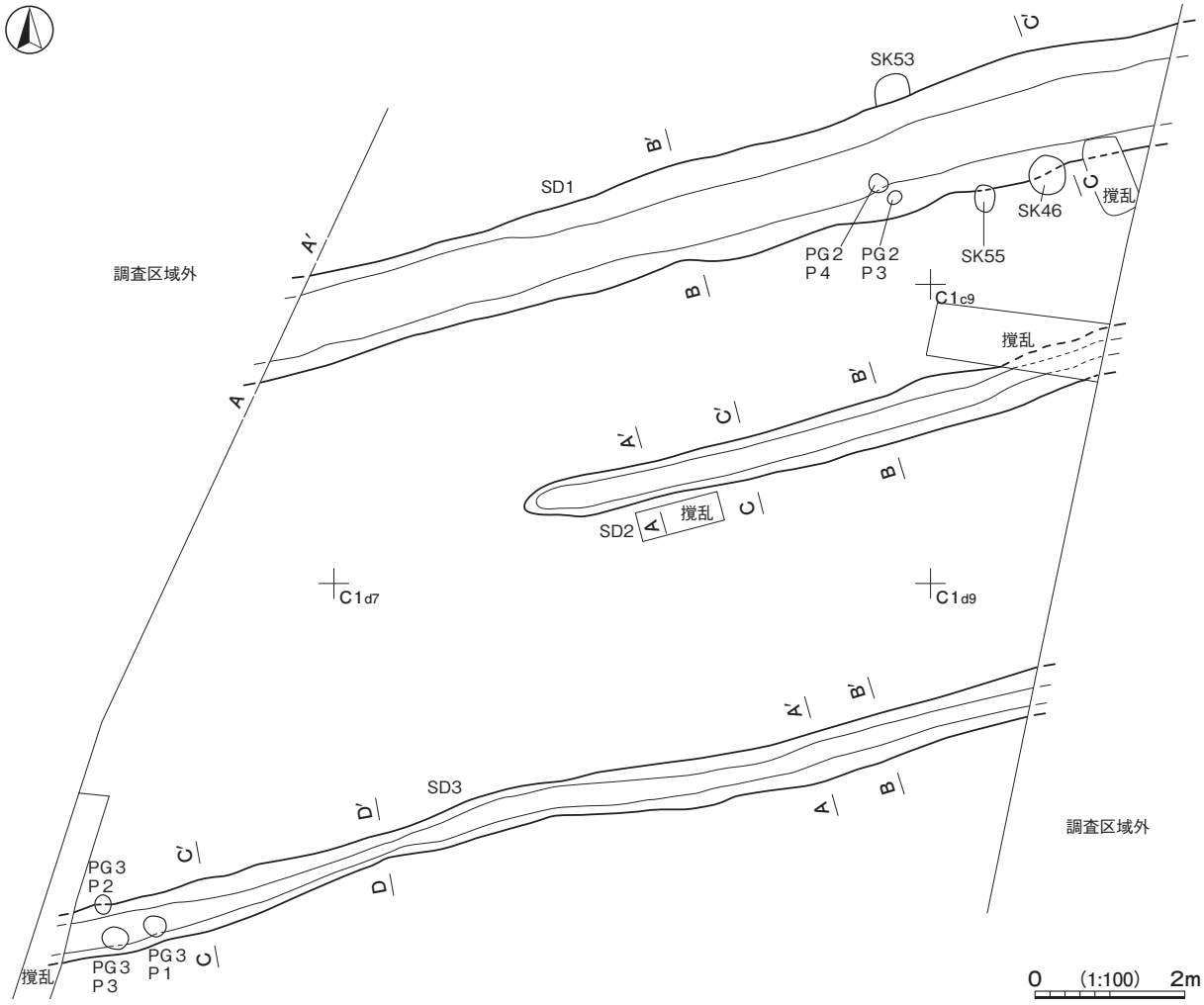
4　時期不明の遺構と遺物

溝跡３条、土坑 18 基、ピット群３か所、不明遺構１基を確認した。以下、実測図と一覧表で記載する。

(1) 溝跡（第 34・35 図　第 24 表　PL 2）



第 34 図　第１・２・３号溝跡実測図（1）

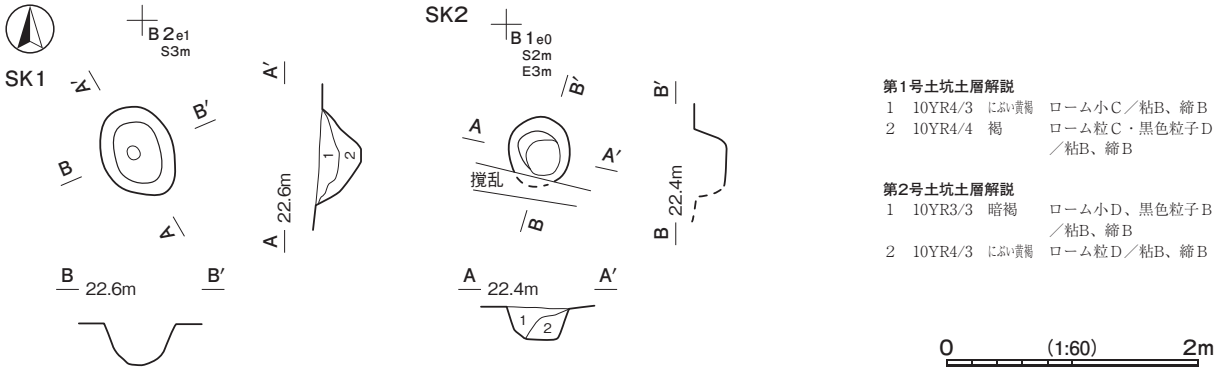


第 35 図　第１・２・３号溝跡実測図（2）

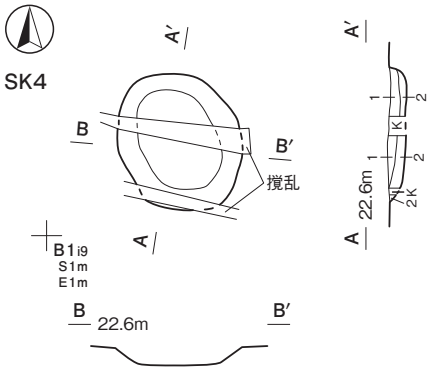
第 24 表　時期不明の溝跡一覧

番号	位　置	方　向	平面形	規　模				断 面	壁 面	覆 土	主 な 出 土 遺 物	備　考
				長さ(m)	上幅(cm)	下幅(cm)	深さ(cm)					
1	C 1 c6 ～ C 1 b9	N － 75° － E	直線状	(12.10)	108 ～ 162	55 ～ 85	40 ～ 65	逆台形	外傾	人為	縄文土器　土師器　須恵器　石製品	SI 4、SK46・47・53・55・59 →本跡→ PG2 P3・P4
2	C 1 c7 ～ C 1 c9	N － 76° － E	直線状	(7.20)	40 ～ 72	21 ～ 30	12 ～ 33	逆台形	外傾	人為	縄文土器　土師器　石器	SK30・38・41・43 →本跡
3	C 1 e6 ～ C 1 d9	N － 76° － E	直線状	(13.04)	35 ～ 70	10 ～ 42	20 ～ 29	逆台形	外傾	人為	縄文土器　土師器	SK42・51 →本跡 → PG3 P1 ～ P3

（2）土坑（第 36 ～ 38 図　第 25 表）

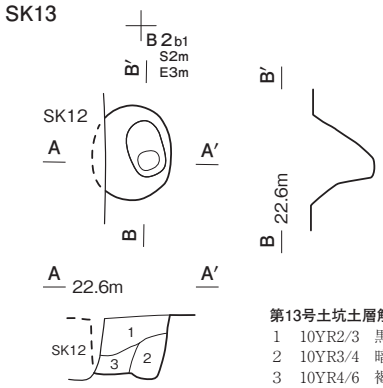


第 36 図　時期不明の土坑実測図（1）



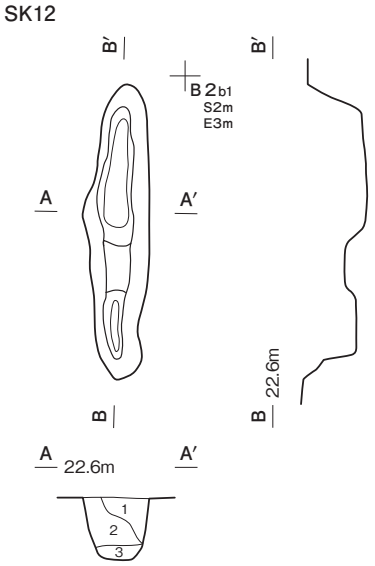
第4号土坑土層解説

1　10YR4/3　にぶい黄褐　ローム小C／粘B、締B
2　10YR4/6　褐　ローム粒C／粘B、締B



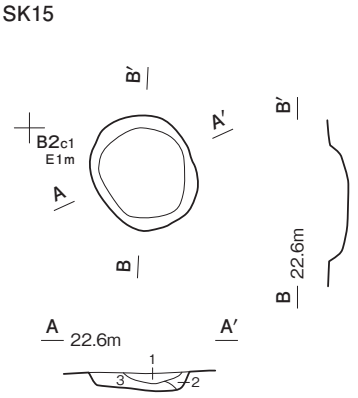
第13号土坑土層解説

1　10YR2/3　黒褐　ローム小C・粒D、炭化粒C／粘B、締B
2　10YR3/4　暗褐　ローム小C・粒B／粘B、締B
3　10YR4/6　褐　ローム中C・小B・粒B／粘B、締B



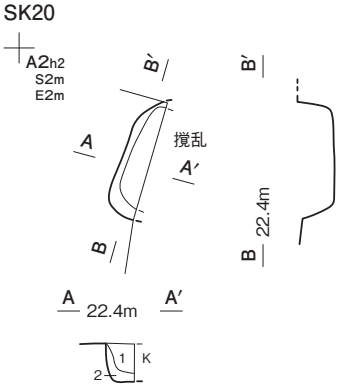
第12号土坑土層解説

1　10YR3/2　黒褐　ローム粒D、炭化粒C／粘B、締B
2　10YR3/3　暗褐　ローム小B・粒C、炭化粒D／粘B、締B
3　10YR4/4　褐　ローム中D・小B・粒C／粘B、締B



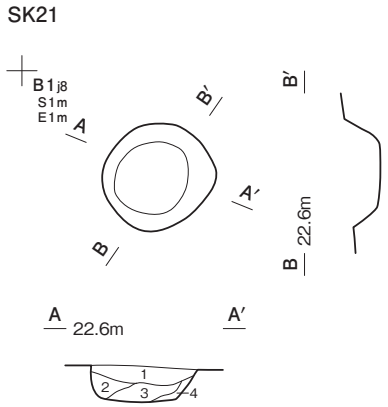
第15号土坑土層解説

1　10YR4/6　褐　ローム小C・粒B、粘土小C・粒C、砂粒B／粘B、締B
2　10YR2/3　黒褐　ローム小D・粒C、炭化粒B／粘B、締B
3　10YR3/3　暗褐　ローム小C・粒B／粘B、締B



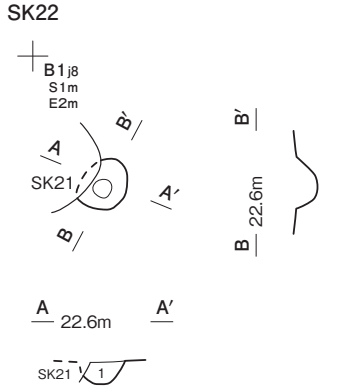
第20号土坑土層解説

1　10YR3/2　黒褐　ローム小D・粒C、炭化粒C／粘B、締B
2　10YR2/2　黒褐　ローム中C／粘B、締B



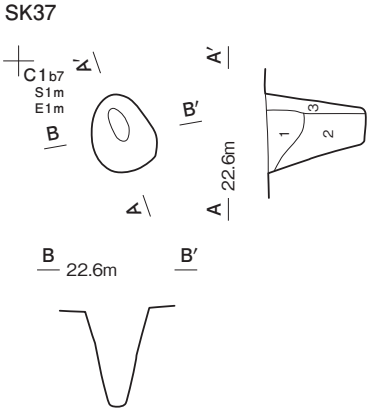
第21号土坑土層解説

1　10YR2/3　黒褐　ローム小C・粒B／粘B、締B
2　10YR3/4　暗褐　ローム小D・粒B／粘B、締B
3　10YR2/2　黒褐　ローム小C・粒B／粘B、締B
4　10YR4/3　にぶい黄褐　ローム小D・粒C／粘B、締B



第22号土坑土層解説

1　10YR3/3　暗褐　ローム小D・粒C／粘B、締B

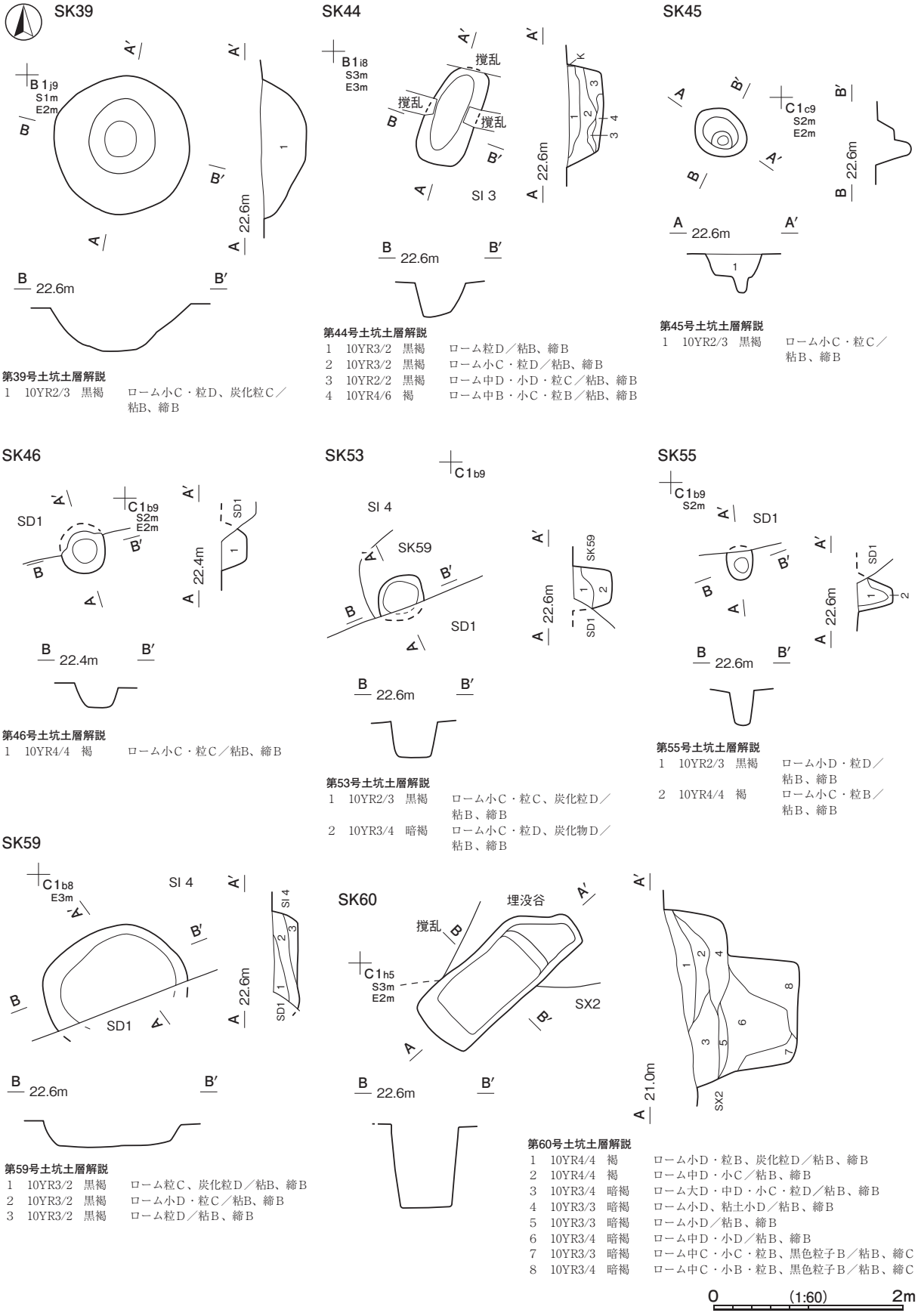


第37号土坑土層解説

1　10YR4/3　にぶい黄褐　ローム中B・小B・粒C、炭化材D／粘C、締D
2　10YR2/2　黒褐　ローム小C・粒C、炭化材D／粘B、締B
3　10YR2/3　黒褐　ローム小C・粒C／粘B、締B

0　(1:60)　2m

第 37 図　時期不明の土坑実測図（2）



第39号土坑土層解説

1　10YR2/3　黒褐　ローム小C・粒D、炭化粒C／粘B、締B

第44号土坑土層解説

1　10YR3/2　黒褐　ローム粒D／粘B、締B
2　10YR3/2　黒褐　ローム小C・粒D／粘B、締B
3　10YR2/2　黒褐　ローム中D・小D・粒C／粘B、締B
4　10YR4/6　褐　ローム中B・小C・粒B／粘B、締B

第45号土坑土層解説

1　10YR2/3　黒褐　ローム小C・粒C／粘B、締B

第46号土坑土層解説

1　10YR4/4　褐　ローム小C・粒C／粘B、締B

第53号土坑土層解説

1　10YR2/3　黒褐　ローム小C・粒C、炭化粒D／粘B、締B
2　10YR3/4　暗褐　ローム小C・粒D、炭化物D／粘B、締B

第55号土坑土層解説

1　10YR2/3　黒褐　ローム小D・粒D／粘B、締B
2　10YR4/4　褐　ローム小C・粒B／粘B、締B

第59号土坑土層解説

1　10YR3/2　黒褐　ローム粒C、炭化粒D／粘B、締B
2　10YR3/2　黒褐　ローム小D・粒C／粘B、締B
3　10YR3/2　黒褐　ローム粒D／粘B、締B

第60号土坑土層解説

1　10YR4/4　褐　ローム小D・粒B、炭化粒D／粘B、締B
2　10YR4/4　褐　ローム中D・小C／粘B、締B
3　10YR3/4　暗褐　ローム大D・中D・小C・粒D／粘B、締B
4　10YR3/3　暗褐　ローム小D、粘土小D／粘B、締B
5　10YR3/3　暗褐　ローム小D／粘B、締B
6　10YR3/4　暗褐　ローム中D・小D／粘B、締B
7　10YR3/3　暗褐　ローム中C・小C・粒B、黒色粒子B／粘B、締C
8　10YR3/4　暗褐　ローム中C・小B・粒B、黒色粒子B／粘B、締C

第38図　時期不明の土坑実測図（3）

第 25 表　時期不明の土坑一覧（第 36 ～ 38 図）

番号	位 置	長径方向	平 面 形	規　　模		壁　面	底　面	覆　土	主 な 出 土 遺 物	備　考
				長径×短径（m）	深さ（cm）					
1	B 1 f0	N － 26° － W	楕円形	0.76　×　0.57	32	外傾	皿状	人為	土師器	
2	B 1 e0	N － 3 ° － W	楕円形	［0.55］×　0.49	25	外傾	平坦	人為		
4	B 1 i9	N － 35° － W	楕円形	1.10　×　0.98	14	外傾	平坦	自然	縄文土器　土師器	
12	B 2 b1	N － 2 ° － E	不整楕円形	2.35　×　0.53	50	外傾	有段	人為	縄文土器　土師器　須恵器	SK13 →本跡
13	B 2 b1	N － 3 ° － W	楕円形	0.75　×　［0.63］	50	外傾	平坦	人為		本跡→ SK12
15	B 2 c1	N － 38° － W	楕円形	0.93　×　0.79	15	外傾	平坦	人為		
20	A 2 h2	N － 17° － E	［楕円形］	0.97　×　（0.25）	29	外傾・直立	平坦	人為		
21	B 1 j8	－	円形	0.87　×　0.85	25	外傾	平坦	人為	縄文土器　土師器	SI 1 、SK22 →本跡
22	B 1 j8	N － 25° － E	楕円形	0.80　×　（0.72）	16	外傾	平坦	人為		SI 1 →本跡→ SK21
37	C 1 b7	N － 12° － W	楕円形	0.64　×　0.50	76	外傾	平坦	人為		
39	B 1 j9	－	円形	1.45　×　1.45	47	外傾	皿状	人為	縄文土器　石器	SK40 →本跡
44	B 1 i9	N － 22° － E	楕円形	1.10　×　0.54	36	外傾	平坦	人為	縄文土器　土師器　石器	SI 3 →本跡
45	C 1 c9	N － 57° － W	楕円形	0.60　×　0.50	40	外傾	有段	人為		
46	C 1 b9	N － 28° － W	［楕円形］	［0.60］×　0.48	24	外傾	平坦	人為		SK47 →本跡→ SD 1
53	C 1 b8	N － 43° － E	［楕円形］	0.55　×　［0.45］	40	外傾	平坦	人為	縄文土器　土師器	SI 4 、SK59 →本跡→ SD 1
55	C 1 b9	N － 14° － W	［楕円形］	［0.37］×　0.27	37	外傾・直立	皿状	人為		SI 4 →本跡→ SD 1
59	C 1 b8	N － 69° － E	［円形・楕円形］	1.52　×　（0.98）	27	外傾	平坦	自然	縄文土器	SI 4 →本跡→ SK53、SD 1
60	C 1 h5	N － 48° － E	長方形	1.88　×　0.70	95	外傾	有段	人為		SX 2 →本跡

(3) ピット群（第 39 図　第 26 ～ 28 表）

第 26 表　第 1 号ピット群ピット一覧

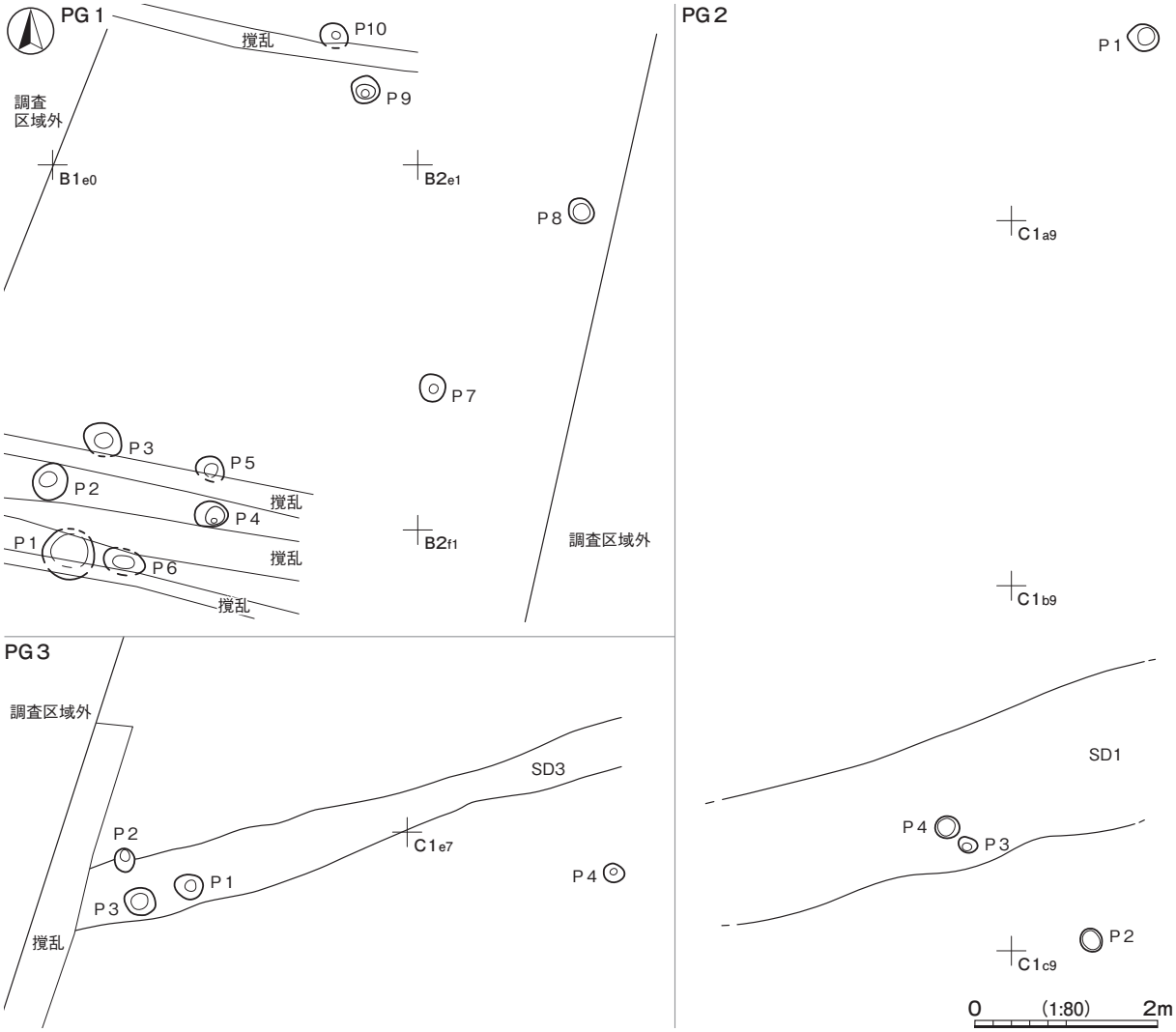
番号	位 置	平面形	規　　模（cm）	
			長径（軸）×短径（軸）	深さ
1	B 1 f0	［円形］	57　×　［56］	14
2	B 1 e9	円形	40　×　39	24
3	B 1 e0	楕円形	45　×　［35］	15
4	B 1 e0	楕円形	38　×　27	63
5	B 1 e0	［楕円形］	［35］×　［27］	23
6	B 1 f0	［楕円形］	47　×　［28］	20
7	B 2 e1	円形	32　×　30	25
8	B 2 e1	円形	30　×　28	10
9	B 1 d0	円形	32　×　31	55
10	B 1 d0	［楕円形］	32　×　［26］	73

第 27 表　第 2 号ピット群ピット一覧

番号	位 置	平面形	規　　模（cm）	
			長径（軸）×短径（軸）	深さ
1	B 1 j9	楕円形	35　×　30	22
2	C 1 b9	楕円形	27　×　24	13
3	C 1 b8	楕円形	22　×　16	32
4	C 1 b8	円形	27　×　25	13

第 28 表　第 3 号ピット群ピット一覧

番号	位 置	平面形	規　　模（cm）	
			長径（軸）×短径（軸）	深さ
1	C 1 e6	楕円形	31　×　28	33
2	C 1 e6	楕円形	25　×　22	13
3	C 1 e6	楕円形	35　×　30	27
4	C 1 e7	円形	23　×　21	63



第 39 図　第１・２・３号ピット群実測図

（4）不明遺構

第２号不明遺構（第 40 図）

位置　調査区南部のＣ１h5 ～Ｃ１i6 区、標高約 21 ｍの埋没谷の緩斜面部に位置している。

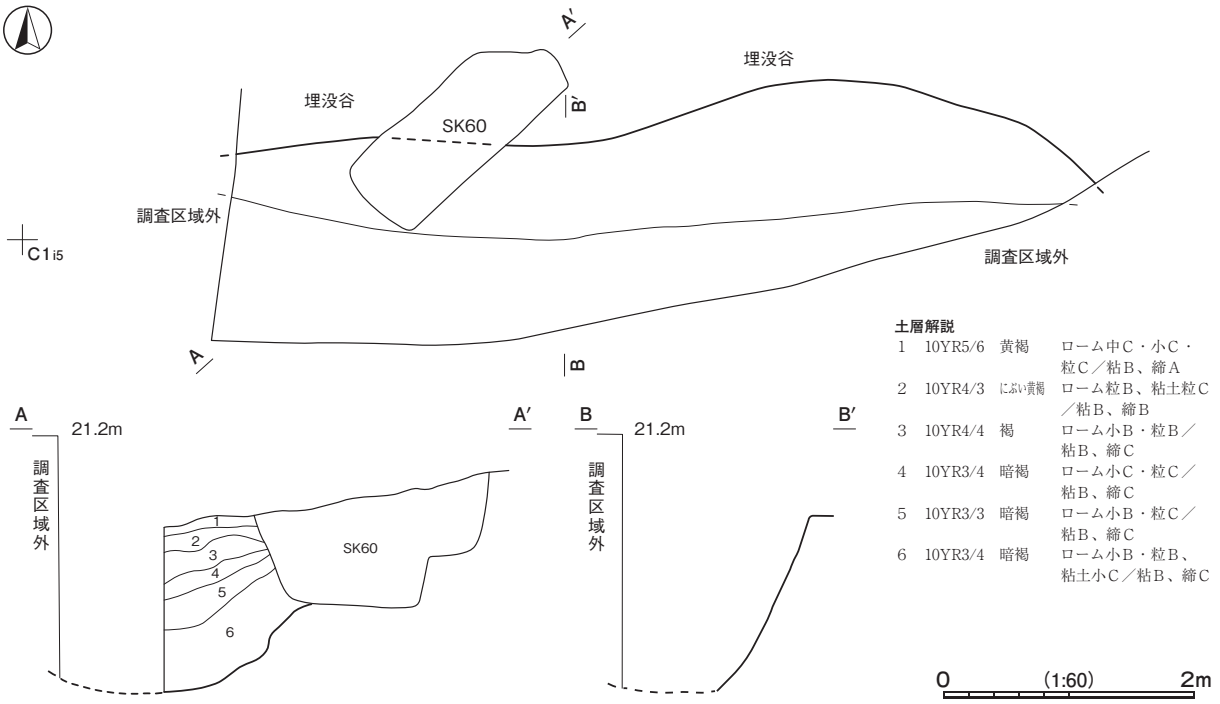
重複関係　第 60 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　西部と南部が調査区域外のため、確認できた規模は東西幅 6.74 ｍ、南北幅 1.55 ｍである。軸方向はＮ－ 86°－Ｅである。深さは 130㎝で、底面は平坦である。確認できた北壁は外傾している。本跡の南東部で湧水したため、調査可能な範囲を記録した。

覆土　６層に分層できる。各層にロームブロックなどを多く含み、特に第３～６層の締まりが弱いことから人為堆積である。第１層上面から第 60 号土坑の上面にかけての幅 2.7 ｍは、やや硬化している。

遺物出土状況　混入した縄文土器片３点（深鉢）が出土している。

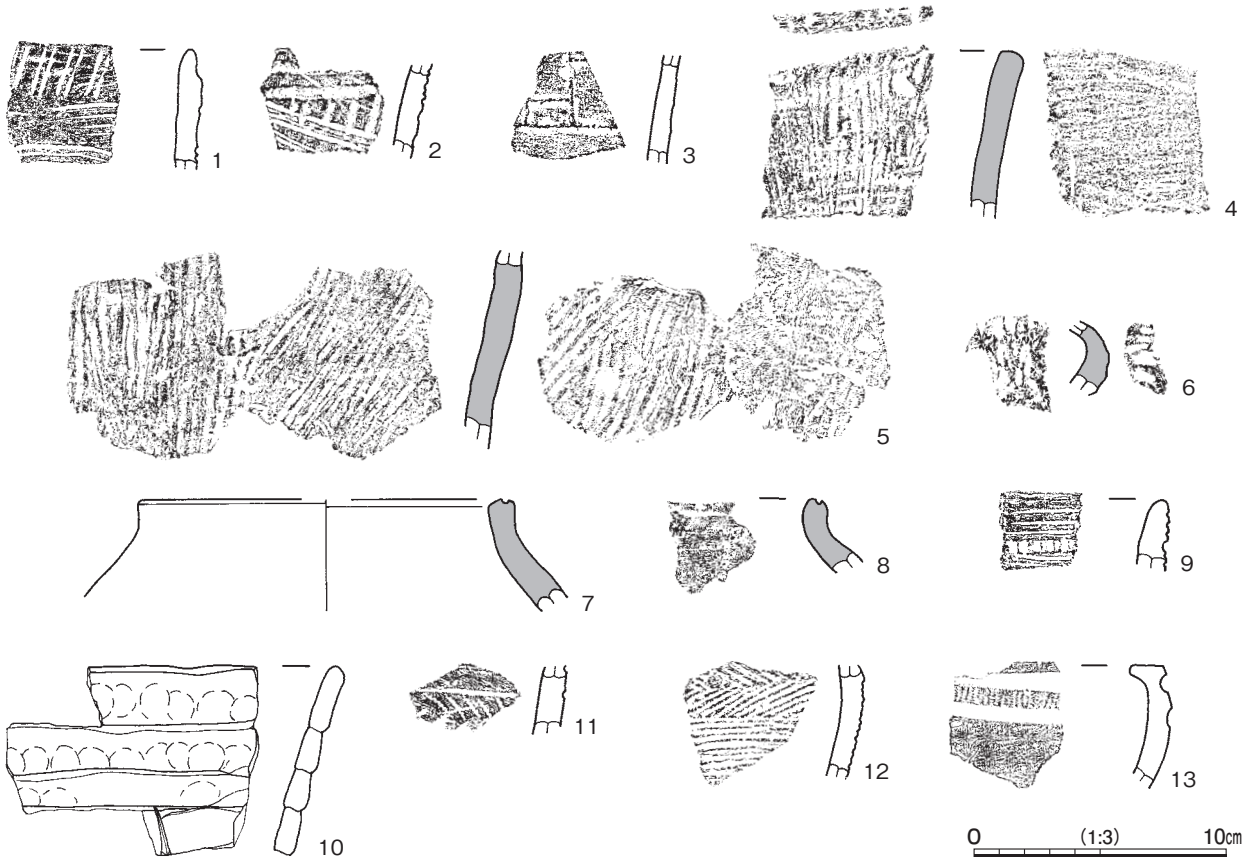
所見　本跡に伴う遺物がないため、時期は不明である。形状から溝跡と想定できるが、第１層上面から第 60 号土坑の上面にかけての硬化範囲は、後世の道路跡と考えられる。



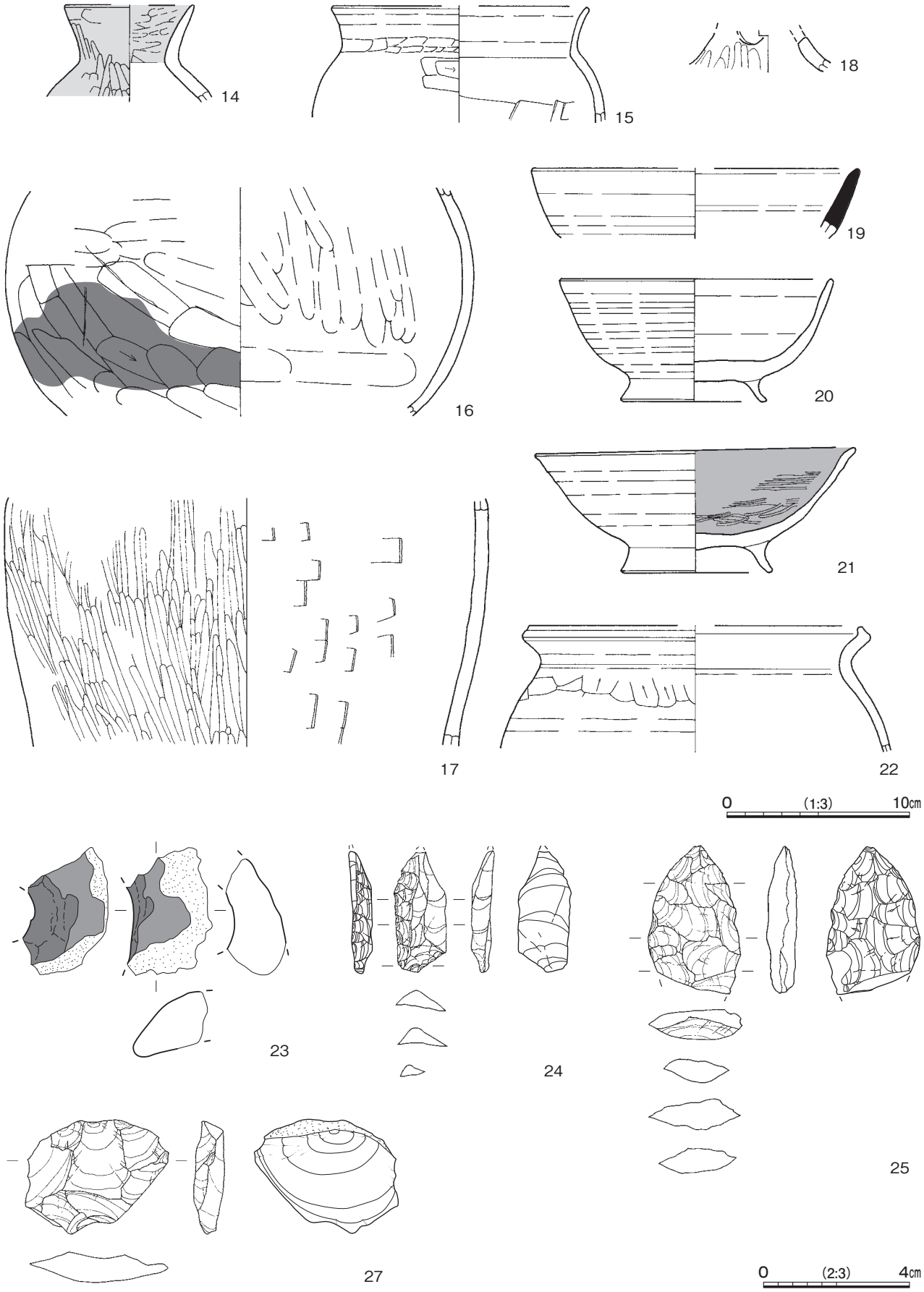
第 40 図　第２号不明遺構実測図

（5）遺構外出土遺物（第 41 ～ 43 図　第 29 表　PL ５・６）

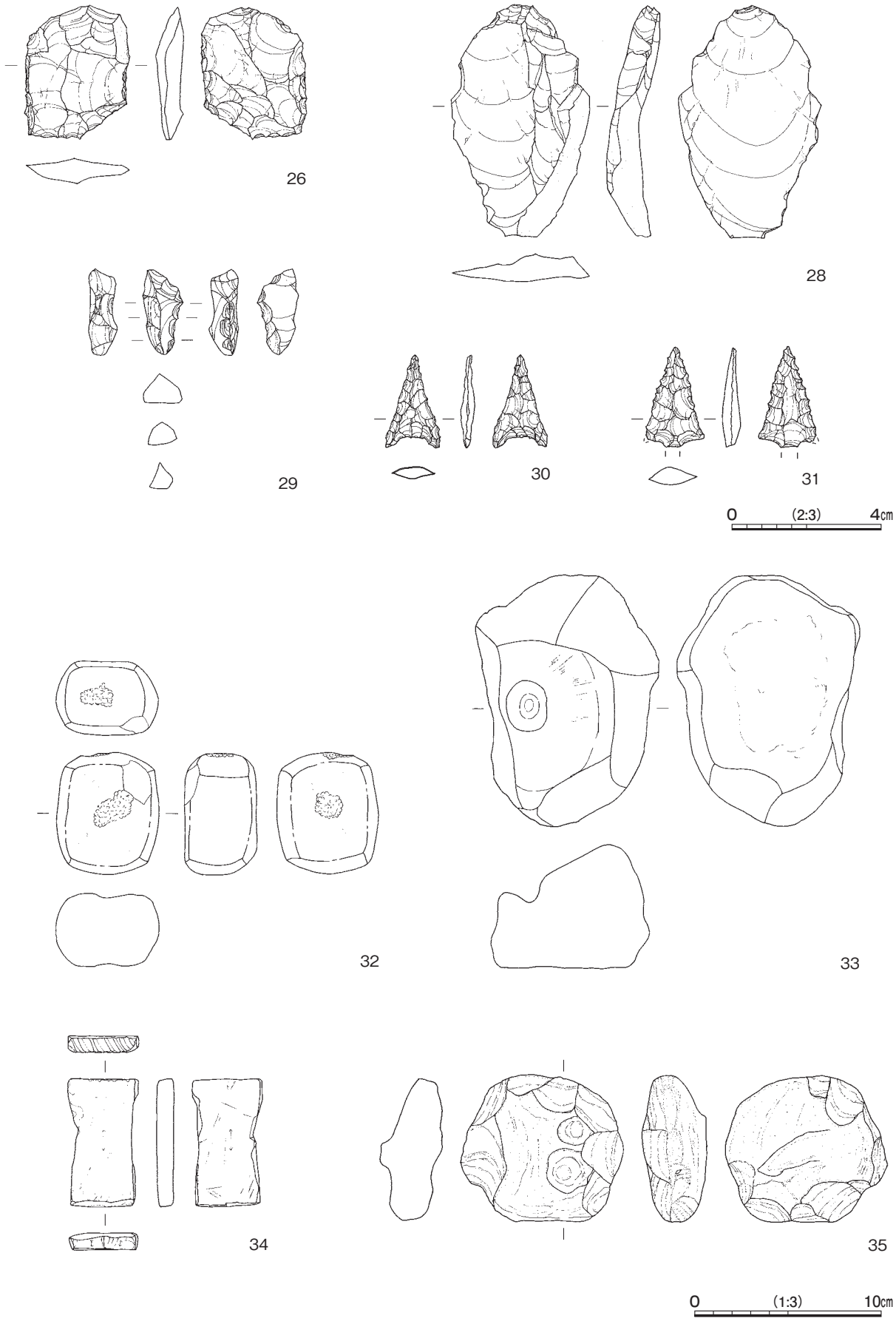
遺構外出土遺物の主なものについて、実測図と一覧表で記載する。



第 41 図　遺構外出土遺物実測図（1）



第 42 図　遺構外出土遺物実測図（2）



第 43 図　遺構外出土遺物実測図（3）

第 29 表　遺構外出土遺物一覧（第 41 ～ 43 図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　　土	色　調	焼成	特　　徴	出土位置	備　考
1	縄文土器	深鉢	－	(4.7)	－	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部半截竹管による斜位平行沈線文　胴部半截竹管による横位平行沈線文	表土	５％　PL 5 田戸下層式
2	縄文土器	深鉢	－	(3.8)	－	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	平行太沈線と斜位細沈線による区画内縦位太単沈線文	表土	５％　PL 5 田戸下層式
3	縄文土器	深鉢	－	(4.3)	－	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	刻みのある微隆起線による区画文	SK40	５％　PL 5 田戸上層式
4	縄文土器	深鉢	－	(6.7)	－	長石・石英・角閃石・ 赤色粒子・細礫・繊維	にぶい橙	普通	口唇部刻み　胴部外面横位条痕文施文後縦位条痕文　内面横位条痕文　外面種子圧痕	SK57	５％　PL 5 茅山上層式
5	縄文土器	深鉢	－	(7.8)	－	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子・繊維	褐	普通	内外面縦位条痕文	SK34	５％　PL 5 茅山式
6	縄文土器	深鉢	－	(2.9)	－	長石・石英・角閃石・ 赤色粒子・繊維	橙	普通	橋状把手　把手上単節 RL 縄文　側面原体側面圧痕による刻み	SK57	５％　PL 5 花積下層式ヵ
7	縄文土器	壺ヵ	［14.0］	(4.4)	－	長石・石英・ 赤色粒子・繊維	橙	普通	無文口唇部沈線１条　８と同一個体	SK30	５％　PL 5 花積下層式ヵ
8	縄文土器	壺ヵ	－	(2.8)	－	長石・石英・ 赤色粒子・繊維	にぶい赤褐	普通	７と同一個体	表土	５％
9	縄文土器	深鉢	－	(2.8)	－	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	横位平行沈線文・半截竹管による押し引き文	表土	５％　PL 5 浮島式
10	縄文土器	深鉢	－	(7.4)	－	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部３段の輪積痕・指頭痕　胴部沈線１条懸垂	SK40	10%　PL 5 浮島式
11	縄文土器	深鉢	－	(2.8)	－	長石・石英・ 赤色粒子・細礫	にぶい赤褐	普通	横位沈線文・羽状の貝殻腹縁文	SK39	５％　PL 5 浮島式
12	縄文土器	深鉢	－	(4.6)	－	長石・石英・ 角閃石・細礫	灰褐	普通	半截竹管による集合沈線文施文後ボタン状貼付文	SK50	５％　PL 5 諸磯Ｃ式
13	縄文土器	浅鉢ヵ	－	(2.6)	－	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	沈線２条　沈線間単節 LR 縄文施文	表土	５％　PL 5 称名寺式
14	土師器	壺	［7.0］	(5.3)	－	長石・石英・ 赤色粒子・黒色粒子	にぶい褐	普通	口唇部・口縁部内面横位ヘラナデ　口縁部・体部外面縦位ヘラ磨き　口縁部・体部外面赤彩	表土	40%　PL 5
15	土師器	甕	［13.8］	(6.3)	－	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面横位ヘラ削り　体部内面横位ヘラナデ	SD 1	10%
16	土師器	甕	－	(12.5)	－	長石・石英・ 赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面上部横位ヘラナデ　下部斜位ヘラ削り　内面縦・横位ヘラナデ	表土	５％ 外面下部煤付着
17	土師器	甕	－	(13.6)	－	長石・石英・ 雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面縦位ヘラ磨き　内面横位ヘラナデ	SD 1	20%　PL 5
18	土師器	器台	－	(2.1)	－	長石・石英・ 赤色粒子	赤褐	普通	脚部外面縦位ヘラ磨き　円孔透かし	表土	５％
19	須恵器	坏	［17.6］	(3.8)	－	長石・石英	灰	普通	内外面ロクロナデ	SD 1	10%　PL 5
20	土師器	高台付椀	14.8	6.7	7.8	長石・石英・ 赤色粒子	浅黄橙	普通	口縁部・体部ロクロナデ　体部内面・高台部ナデ	表土	80%　PL 5
21	土師器	高台付椀	17.4	6.8	［8.0］	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部・体部ロクロナデ　体部内面横位ヘラ磨き・黒色処理　高台部ナデ	表土	70%　PL 5
22	土師器	甕	［18.0］	(6.9)	－	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ　体部外面上部縦位ヘラ削り　下部横ナデ	表土	５％

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重 量	胎　土	色　調	特　　徴	出土位置	備　考
23	羽口	(3.5)	(2.3)	(2.3)	(13.56)	長石・石英	にぶい赤褐	径［6.0］cm　孔径［2.0］cm　先端部内外面被熱・ガラス化	表土	PL 6

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重 量	材　　質	特　　徴	出土位置	備　考
24	ナイフ形石器	(3.3)	1.4	0.5	(2.49)	チャート	素材縦長剥片　一側縁と基部にブランティング加工　背面剥離痕　先端部欠損	SK40	PL 6
25	槍先形尖頭器	4.0	2.5	0.8	7.30	ガラス質黒色安山岩	素材縦長剥片　両面押圧剥離調整　基部欠損	SI 2	PL 6
26	楔形石器	3.6	3.8	0.7	6.49	チャート	上下左右両方向からの剥離痕	SK49	PL 6
27	剥片	3.1	3.9	0.8	9.76	頁岩	背面多方向からの剥離痕　自然面残す	SI 4	
28	剥片	6.2	3.7	1.4	19.28	ガラス質黒色安山岩	縦長剥片　背面上部からの同一方向の剥離痕　自然面残す　断面台形	SD 1	PL 6
29	二次加工のある剥片	2.3	1.1	0.6 ～ 0.8	1.63	瑪瑙	断面三角形の各側縁　押圧剥離調整	SX 1	PL 6
30	石鏃	2.5	1.4	0.4	0.68	チャート	凹基無茎鏃　両面押圧剥離調整	SK39	PL 6
31	石鏃	(2.65)	1.5	0.5	(1.26)	チャート	凸基有茎鏃　両面押圧剥離調整　一部欠損	表土	PL 6
32	磨石	6.5	5.5	3.9	(231.37)	安山岩	両面凹痕　側面敲打痕１か所　凹石・敲石兼用	SI 4	PL 6
33	凹石	13.4	9.8	6.6	775.01	多孔質安山岩	凹部１か所　石皿転用	SD 2	PL 6
34	砥石	6.9	3.8	0.9	39.73	凝灰岩	砥面３面　多方向の擦痕　短辺二側面削り痕　長辺二側面欠損	表土	PL 6
35	敲石	7.8	8.7	3.5	274.52	雲母片岩	周縁部敲打痕　凹痕２か所　凹石転用	SI 4	PL 6

第４節　総　　括

今回の調査では、竪穴建物跡４棟、土坑 46 基、溝跡３条、不明遺構２基などを確認し、旧石器時代から平安時代までの遺物が出土した。その結果、旧石器時代以降の断続的な土地利用状況が明らかになった。ここでは、当遺跡の北側に隣接する中道遺跡と谷を隔てた南側に位置する和台遺跡の調査成果[1～3]を中心に周辺遺跡も含めながら時代順に概観したい。

１　旧石器時代

後世の遺構覆土などから、ナイフ形石器や槍先形尖頭器、剥片などが出土した。石材は、頁岩やチャート、ガラス質黒色安山岩など多様である。周辺遺跡では、中道遺跡や和台遺跡、前田村遺跡、西ノ脇南遺跡、高野台遺跡、東耕地北遺跡で旧石器時代の石器が確認されており、小貝川低地から入り込む樹枝状の支谷に面した台地縁辺部という共通した立地の特徴がある。前田村遺跡と東耕地北遺跡では、石器集中地点が確認されており[4・5]、中道遺跡や和台遺跡でも石器や剥片が複数確認されていることから、周辺に石器製作跡が存在する可能性がある。遺跡が立地する筑波・稲敷台地南西部の台地縁辺は、旧石器時代に活発に利用されていたことがうかがわれる。

２　縄文時代

竪穴建物跡１棟、土坑 23 基を確認した。土坑の多くは底面の中央や壁際にピットをもち、壁が外傾や直立しており、その形状から貯蔵穴とみられる。時期は中期後葉の加曽利ＥⅠからⅡ式期までのもので、主体は加曽利ＥⅡ式期である。竪穴建物跡も該期の所産とみられる。今回の調査区の北側に隣接する中道遺跡では、加曽利ＥⅠからⅡ（報告文中ではＥ１から３）式期の竪穴建物跡６棟が貯蔵穴群を囲むように北西から南東方向に弧状に確認されている。今回の調査では、竪穴建物跡と貯蔵穴群が調査区南部に南北幅 30m ほどの帯状に分布することを確認した。中道遺跡の建物跡・貯蔵穴群からは離れた位置にあるが、同時期の所産と考えられ、断定はできないものの同一集落を構成していたものと考えられる。調査区の南端には埋没谷があり、縄文時代の遺構が確認されていないことや、西側も谷部に面していることから、中道遺跡と同一集落であるとすれば、その規模は、南北 100 m、東西 80 mほどの範囲に広がるものと想定される。出土した土器片の時期の内訳は、早期 96 点、前期 195 点、中期 1259 点、後期１点で、早期は後葉の茅山式、前期は前葉の花積下層式から後葉の浮島式、中期は後葉の加曽利Ｅ式がほとんどであり、後期は前葉の称名寺式とみられる。中道遺跡では、前期中葉の黒浜式を主体として早期後葉（茅山式）から晩期前葉（安行３a 式）の土器が少量ではあるが出土している。和台遺跡でも断続的ながら早期後葉を主体として早期から晩期までの土器が出土している。当遺跡を含む周辺が縄文時代を通して断続的に利用されていたことがうかがえる。特に早期後葉の土器片は、当遺跡と和台遺跡で比較的まとまって出土しており、和台遺跡では陥し穴２基も確認されている。小貝川低地から入り込む支谷の最奥部の台地縁辺は、早期後葉にキャンプサイトなどとして利用されていたことが想定される。

３　古墳時代

竪穴建物跡１棟、土坑１基、不明遺構１基を確認した。遺構は、いずれも前期に位置付けられ、調査区南

部でまとまって確認した。中道遺跡では古墳時代の遺構・遺物ともに確認されておらず、和台遺跡では後期の竪穴建物跡２棟が確認されているが、前期にさかのぼる遺構は確認されていない。今回の調査区の南部、谷頭の縁辺部に該期の集落が広がっていたことが推定される。周辺遺跡では、前田村遺跡で前期の竪穴建物跡 26 棟が確認されており、その関係が注目される。

4　平安時代

竪穴建物跡２棟、土坑４基を確認した。時期は、９世紀中葉から 10 世紀後葉までで、集落が一定の期間営まれていたことがわかった。中道遺跡では、竪穴建物跡 22 棟、掘立柱建物跡２棟、土坑７基以上、多数のピットが確認されている。竪穴建物跡は、南北約 280m、東西約 40m の調査区全体に広がっているが、中ほどに南北 60m ほどの空白地帯があり、分布が北部と南部に２分されている。時期は、９世紀前葉から 10 世紀前葉とされる。26 棟中 22 棟がその南部にあり、分布に偏りがみられる。今回、当遺跡で確認した第２号竪穴建物跡は南部の１群に近接しており、その一部をなすものとみられる。第３号竪穴建物跡はさらに 40m ほど南で確認されており、その間には２基の土坑が確認されているのみである。限られた調査のため確証はないが、中道遺跡と同様に空白地帯をもって集落が構成されていた可能性が考えられる。また、和台遺跡では、竪穴建物跡９棟、溝跡１条、土坑１基が確認されている。竪穴建物跡の多くは９世紀中葉から後葉で、10 世紀前葉の可能性があるものは１棟で、９世紀から 10 世紀に継続的に営まれていたことがわかっている。これらのことから、当遺跡を含む周辺は、９世紀から 10 世紀までの平安時代を通して集落が継続的に営まれていたことが明らかになった。

5　その他

時代や性格が明確にできなかった遺構の中で、第１～３号溝跡は平行しており、何らかの関連があるものと考えられる。谷部に向かっており、排水路や道路の側溝などが考えられるが、その機能は不明と言わざるを得ない。第２号不明遺構は、全体像を確認できなかったことや、覆土が人為堆積で整地層の様相を呈していたことから、不明遺構としたが、溝跡の可能性もある。本跡の位置は、東西の低地から延びる支谷により台地の幅が狭まった箇所であり、溝跡であれば中世の堀跡などの可能性も考えられる。

今回の調査で、当遺跡は旧石器時代や縄文時代早期にはキャンプサイトなどの活動領域であったこと、縄文時代・古墳時代・平安時代には集落が営まれていたことが明らかになった。また、縄文時代と平安時代の集落は隣接する中道遺跡と一体のものであった可能性が高い。

今後の調査の進展により、周辺地域の歴史の実像がより明らかになることを期待したい。

註

１）渡辺久生他「中道遺跡」『東楢戸台線道路整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書』 2012 年 10 月
２）河野一也他『和台遺跡』『東楢戸台線道路整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書』 2012 年３月
３）河野一也他『和台遺跡　第２次調査』『東楢戸台線道路整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書』 2014 年２月
４）吉原作平「伊奈・谷和原丘陵部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書１　西ノ脇遺跡・前田村遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第 87 集　1994 年３月
５）茨城県教育委員会『茨城の文化財　第 58 集（令和元年度）』 2020 年３月

写　真　図　版

調査区全景

基本層序

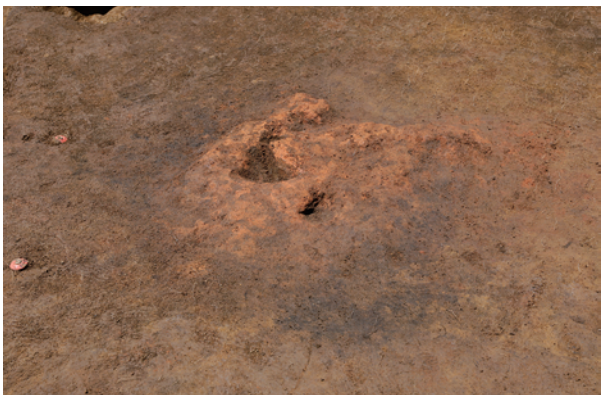
第１号竪穴建物跡

第２号竪穴建物跡

第２号竪穴建物跡　竈

第３号竪穴建物跡

第４号竪穴建物跡


第４号竪穴建物跡　炉

第１号溝跡

第３号溝跡

第１号不明遺構

第23号土坑

第38号土坑　遺物出土状況

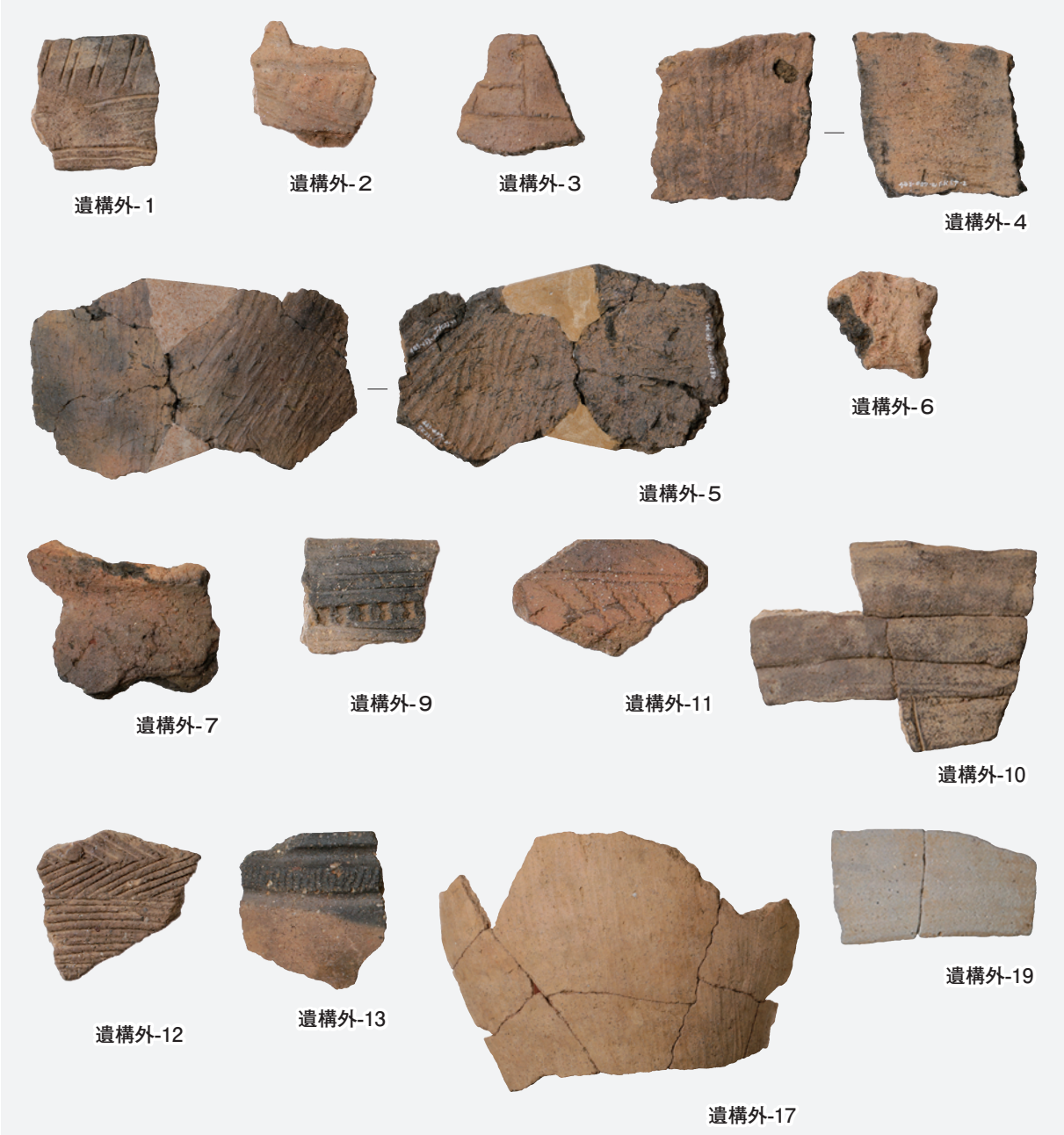
第40号土坑

第49号土坑

第58号土坑

第１号竪穴建物跡、第17・23・30・38・40・49・54・57・58号土坑出土遺物

第２・３・４号竪穴建物跡、第３・５・19・35・48号土坑、第１号不明遺構出土遺物


遺構外-1
遺構外-2
遺構外-3
遺構外-4
遺構外-5
遺構外-6
遺構外-7
遺構外-9
遺構外-11
遺構外-10
遺構外-12
遺構外-13
遺構外-17
遺構外-19

遺構外-14

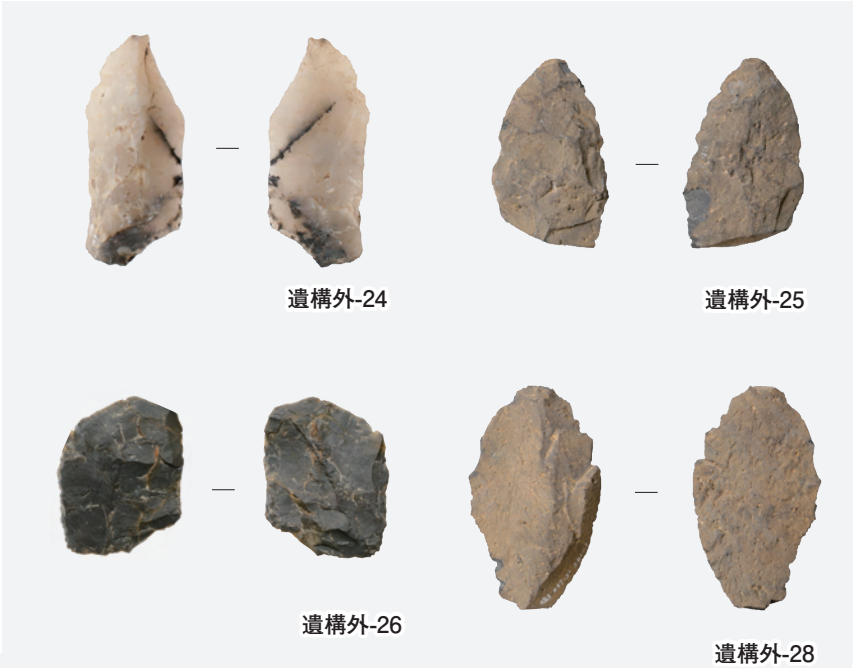
遺構外-20

遺構外-21

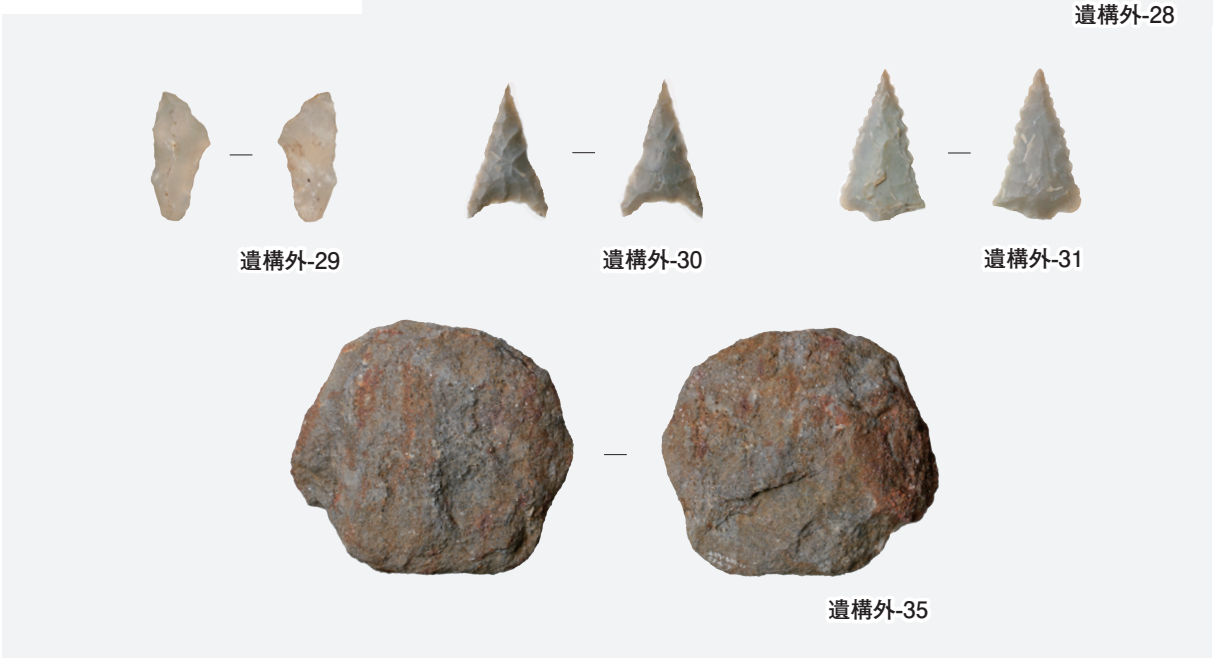
遺構外出土遺物（1）

PL6

遺構外-23



遺構外-24　遺構外-25　遺構外-26　遺構外-28



遺構外-29　遺構外-30　遺構外-31　遺構外-35

遺構外-32

遺構外-33

遺構外-34

遺構外出土遺物（2）

抄　　録

ふりがな	おおほりいせき
書　　名	大堀遺跡
副 書 名	つくばみらい福岡地区土地造成事業地内埋蔵文化財調査報告書
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第471集
著 者 名	池田晃一
編集機関	公益財団法人茨城県教育財団
所 在 地	〒310－0911　茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　　ＴＥＬ 029－225－6587
発 行 日	2024（令和6）年1月22日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
大堀遺跡（おおほりいせき）	茨城県（いばらきけん）つくばみらい市大字南字大堀（しおあざみなみあざおおほり）1989－1ほか	08483－037	36度0分53秒	140度2分11秒	20 m	20210701～20210831	742 ㎡	つくばみらい市福岡地区土地造成事業に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大堀遺跡	集落跡	縄文	竪穴建物跡　1棟 土坑　23基	縄文土器（深鉢・浅鉢・壺・有孔鍔付土器）	
		古墳	竪穴建物跡　1棟 土坑　1基 不明遺構　1基	土師器（坏・高坏・壺・甕・ミニチュア）、石製品（管玉）	
		平安	竪穴建物跡　2棟 土坑　4基	土師器（坏・高台坏椀・皿・甕）、須恵器（坏・甕・甑）	
	その他	時期不明	溝跡　3条 土坑　18基 ピット群　3か所 不明遺構　1基	土製品（羽口）、石器（尖頭器・楔形石器・剥片・石鏃・凹石）、鉄滓	

要　　約	縄文時代から平安時代にかけて、断続的ではあるが集落が営まれていたことが明らかとなった。縄文時代と平安時代の集落は、隣接している中道遺跡と一体のものである可能性が高い。

印　刷　仕　様

編　　集	ＯＳ	Microsoft Windows 10 Pro
	編集	Adobe InDesign 2023
	図版作成	Adobe Illustrator 2023
	写真調整	Adobe Photoshop 2023
	Scanning	EPSON DS－G20000
使用Font	OpenType	リュウミンPro L－KL、太ゴB101 Pro Bold
		中ゴシックBBB Pro Medium
写　　真	線数	カラー210線以上
印　　刷	印刷所へは、Adobe InDesign 2022 でデータ入稿	

茨城県教育財団文化財調査報告第471集

つくばみらい市

大　堀　遺　跡

つくばみらい福岡地区土地造成
事業地内埋蔵文化財調査報告書

令和６（2024）年１月22日　発行

発行　公益財団法人茨城県教育財団
〒310－0911　水戸市見和１丁目356番地の２
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL　029－225－6587
ＨＰ　https：//www.ibaraki-maibun.org

印刷　いばらき印刷株式会社
〒319－1112　茨城県那珂郡東海村村松字平原3115-3
TEL　029－282－0370